本文

官報

昭和十年五月一日
第二千四百九十五號 水曜日

勅令

朕朝鮮總督府監獄官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介
拓務大臣 伯爵 兒玉秀雄

勅令第九十六號

朝鮮總督府監獄官制中左ノ通改正ス

第七條第一項中「敎師、」ノ下ニ「作業技師、」ヲ、同條第二項中「保健技師」ノ下ニ「及作業技師」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〈參照〉

明治四十二年十月十八日公布 勅令第二百四十三號朝鮮總督府監獄官制抄錄

第七條 監獄ニハ第三條ニ揭ケタル職員ノ外保健技師、保健技手、藥劑師、敎誨師、敎師、作業技手及看守ヲ置ク其ノ定員、職務及懲戒ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

保健技師ハ奏任官ノ待遇トシ敎誨師ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トシ保健技手、藥劑師、敎師、作業技手及看守ハ判任官ノ待遇トス

朕大正八年勅令第二十三號朝鮮總督府監獄醫敎誨師及敎師ノ官等等級配當ノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介
拓務大臣 伯爵 兒玉秀雄

勅令第九十七號

大正八年勅令第二十三號中左ノ通改正ス

「敎師」ノ下ニ「、作業技師」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〈參照〉

大正八年二月二十八日公布勅令第二十三號

朝鮮總督府保健技師、保健技手、藥劑師、敎誨師、敎師及作業技手ノ官等等級ノ配當ニ付テハ大正七年勅令第三百四十七號ノ規定ヲ準用ス

朕關東中學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介

勅令第九十八號

關東中學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「敎諭 專任八十一人內十九人奏任 六十二人判任」ヲ「敎諭 專任八十三人內十九人奏任 六十四人判任」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東高等女學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介

勅令第九十九號

關東高等女學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「敎諭 專任四十七人內十二人奏任 三十五人判任」ヲ「敎諭 專任四十九人內十二人奏任 三十七人判任」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樺太廳部內臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介
拓務大臣 伯爵 兒玉秀雄

勅令第百號

樺太廳部內臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條第一號中「技手 專任三十四人」ヲ「技手 專任三十五人」ニ、同條第二號中「技師 專任二人」ヲ「技師 專任三人」ニ、「屬 技手 專任十八人」ヲ「屬 技手 專任二十人」ニ、同條第三號中「屬 專任二人」ヲ「屬 專任三人」ニ、同條第四號中「技師 專任五人」ヲ「技師 專任六人」ニ、「屬 專任六人」ヲ「屬 專任七人」ニ、「技手 專任三十五人」ヲ「技手 專任三十九人」ニ改ム

第二條 樺太廳鐵道事務所ニ左ノ職員ヲ增置ス

一 鐵道ノ建設ニ關スル事務ニ從事スル者
鐵道技師 專任二人
鐵道書記 專任二人
鐵道技手 專任八人
二 鐵道ノ改良ニ關スル事務ニ從事スル者
鐵道技師 專任一人

第2495号 本文

鐵道書記 專任一人
鐵道技手 專任七人

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正九年（五月十三日公布）勅令第百三十三號樺太廳部內臨時職員設置制抄錄

第一條 樺太廳ニ左ノ職員ヲ增置ス

一 殖民ニ關スル事務ニ從事スル者
（左記略ス）
二 産業ニ關スル事務ニ從事スル者
（左記略ス）
三 森林ニ關スル事務ニ從事スル者
（左記略ス）
四 土木營繕ニ關スル事務ニ從事スル者
（左記略ス）

第二條 鐵道ノ改良ニ關スル事務ニ從事セシムル爲樺太廳鐵道事務所ニ左ノ職員ヲ增置ス

鐵道技師 專任一人
鐵道書記 專任一人
鐵道技手 專任七人

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介
內務大臣 後藤文夫

勅令第百一號

警視廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「事務官 專任四人」ヲ「事務官 專任六人」ニ、「技師 專任十八人」ヲ「技師 專任十六人」ニ、「屬 專任百十一人」ヲ「屬 專任百七十一人」ニ、「技手 專任七十五人」ヲ「技手 專任五十三人」ニ改ム

第三十四條 內務大臣ハ健康保險ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシムル爲必要ニ應ジ警視廳出張所ヲ置クコトヲ得其ノ位置、名稱及管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ム

出張所長ハ事務官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ所主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕北海道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介
內務大臣 後藤文夫

勅令第百二號

北海道廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「警視 專任十五人」ヲ「警視 專任十六人」ニ、「屬 專任二百二十二人」ヲ「屬 專任二百二十六人」ニ、「技手 專任九十五人」ヲ「技手 專任九十八人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕大正六年勅令第二百二十一號拓殖及森林事務ニ從事セシムル爲北海道廳ニ臨時職員增置等ノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介
內務大臣 後藤文夫

勅令第百三號

大正六年勅令第二百二十一號中左ノ通改正ス

第一條第一項第二號中「技手 專任三百十一人」ヲ「技手 專任三百十五人」ニ、第三號中「技師 專任三十二人」ヲ「技師 專任三十三人」ニ、「屬 專任三十四人」ヲ「屬 專任三十七人」ニ、「技手 專任百九十人」ヲ「技手 專任二百四人」ニ、第四號中「屬 專任二十八人」ヲ「屬 專任二十七人」ニ、「技手 專任八十人」ヲ「技手 專任七十七人」ニ、第五號中「技師 專任十四人」ヲ「技師 專任十二人」ニ、「技手 專任二百六十三人」ヲ「技手 專任二百五十七人」ニ、第六號中「屬 專任九人」ヲ「屬 專任七人」ニ、「技手 專任三十二人」ヲ「技手 專任二十五人」ニ、第七號中「屬 專任十八人」ヲ「屬 專任十七人」ニ、「技手 專任八十五人」ヲ「技手 專任八十二人」ニ、第八號中「技師 專任九人」ヲ「技師 專任十人」ニ、「屬 專任十八人」ヲ「屬 專任十六人」ニ、「技手 專任五十四人」ヲ「技手 專任四十五人」ニ、第九號中「屬 專任二人」ヲ「屬 專任一人」ニ、「技手 專任十人」ヲ「技手 專任八人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正六年（十二月一日公布）勅令第二百二十一號抄錄

第一條第一項 拓殖及森林ノ事務ニ從事セシムル爲北海道廳ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

二 森林ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）
三 産業ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）
四 土地改良ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）
五 道路、橋梁ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）
六 河川ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）
七 治水ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）
八 港灣ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）
九 殖民軌道ニ關スル事務ニ從事スル職員
（左記略ス）

朕地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年四月三十日
內閣總理大臣 岡田啓介
內務大臣 後藤文夫

勅令第百四號

地方官官制中左ノ通改正ス

第一條中「地方事務官 專任三百五十九人」ヲ「地方事務官 專任三百六十人」ニ、「地方警視 專任二百五十四人」ヲ「地方警視 專任二百六十人」ニ、「地方技師 專任二百六十人」ヲ「地方技師 專任二百六十一人」ニ、「屬 專任二千五百八十人」ヲ「屬 專任二

千七百二十七人」ニ、「技手 專任千十四人」ヲ「技手 專任千四十八人」ニ改ム

第四十八條ノ二 內務大臣ハ健康保險ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシムル爲必要ニ應ジ府縣出張所ヲ置クコトヲ得其ノ位置、名稱及管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ム

出張所長ハ地方事務官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ所主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省 令

◎內務省令第二十九號

健康保險法施行規則中左ノ通改正ス

昭和十年五月一日
內務大臣 後藤文夫

第六條ノ四中「北海道廳出張所」ヲ「廳府縣健康保險出張所」ニ改ム

第十五條第六號中「北海道廳 健康保險出張所」ヲ「廳府縣健康保險出張所」ニ改ム

樣式第二號ノ二中「北海道廳 何出張所」ヲ「廳府縣何健康保險出張所」ニ改ム

樣式第二號ノ三中「北海道廳 何出張所」ヲ「廳府縣何健康保險出張所」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正十五年（七月一日）內務省令第三十六號健康保險法施行規則抄錄

第六條ノ四 健康保險法第十一條ノ四ノ規定ニ依ル公告ハ道府縣廳（東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同ジ）、北海道廳出張所又ハ健康保險組合ノ事務所ニ之ヲ爲スベシ

第十五條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトノ申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

六 資格喪失ノ際屬シタル廳府縣（北海道廳健康保險出張所ノ分掌ニ屬シタルトキハ其ノ出張所）又ハ健康保險組合ノ名稱

◎遞信省令第十四號

發電用汽機汽罐取締規則左ノ通定ム

昭和十年五月一日
遞信大臣 床次竹二郎

發電用汽機汽罐取締規則

第一條 發電ノ用ニ供スル汽機及汽罐ニ關シテハ電氣事業法施行規則及自家用電氣工作物施設規則ニ定ムルモノノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 汽機又ハ汽罐ヲ設置セントスル場合ニ於テ其ノ構造設計ヲ完了シタルトキハ直ニ左ノ書類圖面ヲ具シ電氣事業法施行規則第十二條、自家用電氣工作物施設規則第三條及同規則第四條ノ區別ニ依リ遞信大臣又ハ所轄遞信局長ニ提出スベシ

一 構造明細書
二 配置圖（汽機及附屬設備、汽罐及附屬設備、主ナル汽管並ニ給水管ノ別毎ニ調製スベシ）
三 構造圖（汽機、汽罐各部及附屬設備並ニ復水器ノ別毎ニ調製スベシ）
四 資料（汽罐ノ胴、鏡板、水管、過熱管、管寄等壓力ヲ受クル部分ノ强度計算書、「タービンローター」ノ限界速度、製造者名、製造年月、製造後ノ經歷ヲ示ス書類等）

日本標準規格ニ定メタル材料以外ノモノヲ使用セントスル場合ハ其ノ材料試驗成績書ヲモ添附スベシ

第四條ノ檢査ヲ受クル前ニ於テ構造明細書ノ記載事項中汽機又ハ汽罐ノ强度ニ影響ヲ及ボスモノヲ變更セントスルトキハ前項ノ規定ニ準ジ關係ノ書類圖面ヲ提出スベシ

遞信大臣又ハ遞信局長ハ前二項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ汽機又ハ汽罐ノ構造設計ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 構造明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ圖面ニ表示シタルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 汽機及其ノ附屬設備

（イ）汽 機

仕樣ノ概要 型式、キロワット數、汽筒數、各汽筒入口ノ汽壓（最高使用ゲージ汽壓ヲ謂フ以下之ニ同ジ）及汽溫（最高使用汽溫ヲ謂フ以下之ニ同ジ）、眞空度又ハ背汽壓、回轉數、各抽汽點ノ抽汽量及抽汽壓

「タービン」ニ在リテハ車室、圓板、隔板、噴口、翼、車軸等ノ主要寸法及材料往復機關ニ在リテハ汽筒、「ピストン」、「ピストン」棒、「クランク」軸、連接棒、ハズミ車等ノ主要寸法及材料

調速裝置、非常調速裝置、眞空解消器其ノ他過速ニ對スル防止裝置ノ概要

軸接手ノ構造

軸受ノ構造及配置

減速裝置ノ構造、主要寸法及材料

（ロ）復水器

復水器ノ胴及水室ノ構造、主要寸法及材料

復水器管ノ寸法、數竝ニ材料及其ノ防蝕裝置ノ概要

管板ノ材料、復水器管取附部ノ構造

二 汽罐及其ノ附屬設備

（イ）汽 罐

仕樣ノ概要 種類、型式、汽壓、汽溫、蒸發量、加熱面積及過熱面積（火爐壁ニ配置スルモノハ分割シテ記載スベシ）及給水溫度

胴、鏡板、水管、過熱管、管寄、其ノ他壓力ヲ受クル部分ノ構造、寸法及材料

安全瓣ノ種類、寸法、材料及箇數（過熱器ニ取付クルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ附記スベシ）胴內ノ汽水分離ニ對スル機構說明圖ヲ添附スベシ

（ロ）節炭器

仕樣ノ概要 種類、型式、加熱面積、水壓及水溫

胴、鏡板、管、管寄等ノ構造、寸法及材料

安全瓣ノ種類、寸法、材料及箇數

（ハ）汽管及給水管

主ナル汽管、給水管、接手ノ寸法、材料、汽壓、汽溫、水壓及水溫

蒸汽溜ノ構造、寸法及材料

減壓瓣及過熱低減器ノ仕樣ノ概要、寸法及材料

（ニ）自動給水調節裝置、自動燃燒制御裝置ノ種類

（ホ）汽罐給水ノ分析表

第四條 汽機又ハ汽罐ノ設置工事ニ著手シタル後「タービン」ニ在リテハ車室ノ下半部ノ据附ヲ終リタルトキ、往復機關ニ在リテハ其ノ大部分ノ組立ヲ終リタルトキ又汽罐ニ在リテハ罐本體ノ組立ヲ終リタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ當該官廳ニ屆出デ檢査ヲ受クベシ

前項ノ檢査ノ爲派遣セラレタル檢査吏員ニ於テ支障ナシト認メタルトキハ汽機及汽罐ニ檢査濟ノ記號（樣式第一號）ヲ刻印ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル部分ノ修理又ハ變更ヲ爲サントスルトキハ第二條第一項ノ規定ニ準ジ關係ノ書類圖面ヲ當該官廳ニ提出スベシ汽機又ハ汽罐ノ汽壓、汽溫又ハキロワット數ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第2495号 本文

一　「タービン」ノ車室、圓板及車軸

二　往復機關ノ汽筩及車軸

三　汽罐、節炭器及蒸汽溜ノ胴、鏡板等壓力ヲ受クル主要部分

四　安全瓣

前項ノ修理又ハ變更ニ關シテハ第二條第三項ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ修理又ハ變更中工事ヲ伴フモノニ在リテハ工事竣工後遲滯ナク其ノ旨ヲ又工事ヲ伴ハザルモノニ在リテハ使用開始前其ノ期日ヲ當該官廳ニ屆出デ檢査ヲ受クベシ但シ當該官廳ニ於テ別段ノ指示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　遞信大臣又ハ遞信局長ハ每年一回檢査吏員ヲ派遣シ汽機及汽罐ヲ檢査セシム但シ汽機及汽罐ノ構造、保守ノ狀況等ニ依リ檢査回數ヲ增減スルコトアルベシ

第七條　汽機又ハ汽罐ノ使用ヲ一年以上休止セントスルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ當該官廳ニ屆出ヅベシ

前項ノ汽機又ハ汽罐ヲ再ビ使用セントスルトキ亦前項ニ同ジ

第八條　遞信大臣又ハ遞信局長ハ汽機又ハ汽罐ノ工事又ハ使用ニ關シ危險若ハ障害ヲ生ジ又ハ之ヲ生ズルノ虞アリト認ムルトキハ電氣事業者又ハ自家用電氣工作物施設者ニ對シ危險若ハ障害ノ除却又ハ豫防ノ爲必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第九條　汽力發電所ニハ汽機汽罐主任者ヲ置キ汽機及汽罐ノ工事、運轉及保守ニ關シ保安其ノ他ニ必要ナル事項ヲ擔任セシムベシ

第十條　電氣事業者又ハ自家用電氣工作物施設者ハ汽機汽罐主任者ヲ選任セントスルトキハ豫メ其ノ者ニ就キ遞信大臣ノ技能認定ヲ受クルコトヲ要ス之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ技能認定ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ告示ス

第十一條　汽機汽罐主任者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ遞信大臣ニ屆出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十二條　遞信大臣又ハ遞信局長ハ汽機汽罐主任者ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトアルベシ

第十三條　汽機汽罐主任者ハ每日少クトモ一回汽機及汽罐ノ要部ヲ點檢スベシ

汽機汽罐主任者ハ汽機又ハ汽罐ニ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲スベシ

汽機汽罐主任者ハ汽機汽罐保安日誌ヲ作製シ運轉狀況、故障及修理ノ內容、危害豫防ニ付爲シタル措置其ノ他重要ナル事項ヲ記錄スベシ

第十四條　汽機汽罐主任者ハ檢査吏員ノ檢査ニ立會ヒ其ノ指揮ニ從フベシ

第十五條　電氣事業者又ハ自家用電氣工作物施設者ハ汽機汽罐主任者ヲシテ每年少クトモ一回左ノ檢査ヲ行ハシムベシ

一　「タービン」ノ車室ノ上半部ヲ取外シ各部ヲ細密ニ檢査シ組立ヲ終リタル後非常調速機試驗（「タービン」ヲ停止セル儘油壓等ニ依リ非常調速機ノ機能ヲ試驗シ得ルモノニ在リテハ其ノ試驗方法ニ依ルコトヲ得）ヲ爲シ且試運轉ヲ爲スコト

二　汽罐ヲ開放掃除シ各部ヲ細密ニ檢査シ且安全瓣ノ動作試驗ヲ爲スコト

前項ノ規定ニ依ル檢査ノ成績及實施月日ハ其ノ都度之ヲ當該官廳ニ屆出ヅベシ

第十六條　運轉休止二十四時間以上ニ亙ル汽機又ハ汽罐ノ故障ニ關シテハ第二號樣式ニ依リ一月分ヲ取纏メ翌月十日限リ當該官廳ニ屆出ヅベシ

第十七條　第十一條ノ規定ニ依リ提出スル屆書ハ主任技術者、第二條、第四條、第五條、第七條、第十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ提出スル屆書又ハ書類圖面ハ主任技術者及汽機汽罐主任者之ニ署名捺印スベシ

本令ノ規定ニ依リ遞信大臣ニ提出スル屆書又ハ書類圖面ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄遞信局長ニ提出スベシ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタル者

二　正當ノ事由ナクシテ本令ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　第十五條ノ規定ニ依ル檢査ヲ怠リタル者

第十九條　本令ノ規定ニ依ル屆出又ハ書類圖面ノ提出ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第二十條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條　本令施行ノ際現ニ存スル汽機及汽罐ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ第二條ノ書類圖面ヲ調製シ之ヲ當該官廳ニ提出スベシ

第二十二條　電氣事業者又ハ自家用電氣工作物施設者ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ汽機汽罐主任者ヲ選任スベシ

本令施行ノ際現ニ汽機汽罐主任者ノ職務ニ從事スル者ハ第十條ノ規定ニ拘ラズ本令施行後三年ヲ限リ本令ノ規定ニ依ル汽機汽罐主任者タルコトヲ得

前項ノ汽機汽罐主任者ヲ選任シタルトキハ其ノ屆書ニ履歷書ヲ添附スベシ

（第一號樣式）

〒　東　1 2 3　省

（名、大、廣、熊、仙、札）　（局）

昭 10. 1. 1.

（第二號樣式）

汽機汽罐事故屆

（　年　月分）

(一)　發電所名
(二)　事故發生工作物ノ名稱及番號
(三)　事故發生ノ日時
(四)　事故ノ狀況
(五)　事故ノ原因
(六)　事故ニ對スル應急處理
(七)　修理ノ概要及修理費用ノ概算高
(八)　修理ノ爲休止セル時間數
(九)　他ニ及ボシタル災害又ハ障害

注　意

1、事故發生工作物ノ名稱及番號欄ニハ汽機、汽罐、節炭器、燃料燃燒設備、蒸汽管、給水管、給水設備、復水器等ノ別及其ノ施設番號ヲ記載スベシ

2、說明上必要アル場合ハ圖面等ヲ添附スベシ

◉遞信省鐵道省令

昭和五年三月（遞信鐵道）省令鐵道船舶通シ運送規則中左ノ通改正ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年五月一日

遞信大臣　床次竹二郎
鐵道大臣　內田　信也

別表中「小樽、伏木、七尾間　藤山海運株式會社」、「小樽、伏木、七尾間　同」、「小樽、伏木、七尾間　嶋谷汽船株式會社」及「新潟、雄基、羅津、淸津間　同」ヲ削リ「新潟、兩津間　佐渡汽船株式會社」ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

新潟、淸津、羅津、雄基間　日本海汽船株式會社

訓　令

◉內務省訓令第六號

內務大臣官房會計課　社會局
職業紹介事務局　傷兵院
土木出張所　土木試驗所
衞生試驗所　警察講習所
武藏野學院　榮養研究所
國立癩療養所　廳府縣

大正十一年四月內務省訓令第二號會計事務取扱規程中左ノ通改正ス

昭和十年五月一日　內務大臣　後藤　文夫

第二條中「北海道廳出張所長及府縣知事」ヲ「府縣知事及廳府縣健康保險出張所長」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉內務省訓令第七號

內務大臣官房會計課　社會局
職業紹介事務局　傷兵院
造神宮使廳　土木出張所
土木試驗所　衞生試驗所
警察講習所　武藏野學院
榮養研究所　國立癩療養所
廳府縣

明治三十三年十月內務省訓令第三十號內務省及所管廳物品取扱規程中左ノ通改正ス

昭和十年五月一日　內務大臣　後藤　文夫

第二條中「北海道廳出張所長及府縣知事」ヲ「府縣知事及廳府縣健康保險出張所長」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉內務省訓令第八號

社會局　廳府縣（東京府ヲ除ク）

昭和元年十二月內務省訓令第二號健康保險特別會計事務取扱規程中左ノ通改正ス

昭和十年五月一日　內務大臣　後藤　文夫

第二條中「北海道廳出張所長及府縣知事（東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ）」ヲ「府縣知事（東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ）及廳府縣健康保險出張所長」ニ改ム

第十條中「北海道廳出張所及府縣（東京府ニ在リテハ警視廳）」ヲ「府縣（東京府ニ在リテハ警視廳）及廳府縣健康保險出張所」ニ改ム

第十一條及第十四條中「北海道廳出張所長及府縣知事」ヲ「府縣知事及廳府縣健康保險出張所長」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

告　示

◉內務省告示第三百八號

警視廳官制第三十四條及地方官官制第四十八條ノ二ノ規定ニ依リ警視廳及府縣出張所ヲ置キ其ノ名稱、位置及管轄區域ヲ別表ノ通定ム

昭和十年五月一日　內務大臣　後藤　文夫

（別表）

警視廳及府縣出張所ノ名稱、位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
警視廳江東健康保險出張所	東京府東京市	本所區、深川區、向島區、城東區、葛飾區、江戶川區
警視廳王子健康保險出張所	東京府東京市	豐島區、瀧野川區、荒川區、王子區、板橋區、足立區
警視廳品川健康保險出張所	東京府東京市	品川區、目黑區、荏原區、大森區、蒲田區、世田谷區
警視廳八王子健康保險出張所	東京府八王子市	八王子市、西多摩郡、南多摩郡、北多摩郡
大阪府淀川健康保險出張所	大阪府大阪市	此花區、西淀川區、東淀川區、三島郡、豐能郡
大阪府泉尾健康保險出張所	大阪府大阪市	西區、港區、大正區、浪花區、住吉區、西成區、堺市
大阪府貝塚健康保險出張所	大阪府泉南郡貝塚町	岸和田市、泉北郡、泉南郡
愛知縣豐橋健康保險出張所	愛知縣豐橋市	豐橋市、岡崎市、西加茂郡、東加茂郡、碧海郡、幡豆郡、額田郡、北設樂郡、南設樂郡、寶飯郡、渥美郡、八名郡

◉內務省告示第三百九號

大正十五年十二月內務省告示第百六十號健康保險組合ニ備フベキ被保險者臺帳、歲入簿、歲出簿及現金出納簿ノ樣式中左ノ通改正ス

昭和十年五月一日　內務大臣　後藤　文夫

被保險者臺帳ノ樣式備考第十二項中「北海道廳健康保險出張所」ヲ「廳府縣健康保險出張所」ニ改ム

◉司法省告示第十號

福井區裁判所東鄕出張所客月二十七日火災ニ因リ廳舍燒失シタルニ付本年五月五日マテ同出張所ニ於ケル總テノ登記事務ヲ停止ス

昭和十年五月一日　司法大臣　小原　直

◉農林省告示第百三十六號

森林法ニ依リ左記ノ保安林ヲ解除ス

昭和十年五月一日　農林大臣　山崎達之輔

新潟縣新潟市大字沼垂

字	地番		面積 町段畝歩
大園	[illegible]	見込	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	見込	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	見込	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	見込	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]
同	[illegible]	同	[illegible]

第2495号　本文

同	四、五四三	同	五二二ノ内	四二九
同	四、五四四	同	五二三ノ内	四二三
同	四、五四五	同	五二二ノ内	四一四
同	四、五四六	同	五二二ノ内	四〇五
同	四、五四七	同	五二二ノ内	四〇二
同	四、五四八	同	一六二二ノ内	一一〇一
同	四、五四九	同	二三一六ノ内	一〇三
同	四、五五〇	同	八二六ノ内	一〇七
同	四、五五一	同	五四〇九ノ内	二〇
同	四、五五二	同	一一〇六ノ内	六一九
同	四、五五三	同	五〇一ノ内	三〇五
同	四、五五四	同	二六二六ノ内	一六〇八
同	四、五五五	同	二一九ノ内	一一四
同	四、五五六	同	三二一六ノ内	一八〇〇
同	四、五五七	同	一九〇五ノ内	三二〇
同	四、五五八	同	一一二一ノ内	三二〇
同	四、五五九	同	三二七ノ内	二〇七
同	四、五六〇	同	三二五ノ内	二〇四
同	四、五六一	同	三二七ノ内	一二八
同	四、五六二	同	三二七ノ内	一二七
同	四、五六三	同	三二七ノ内	二〇五
同	四、五六四	同	四二三ノ内	二一二
同	四、五六五	同	一九一二ノ内	七二三
同	四、五六六	同	二三一八ノ内	一一一八
同	四、五六七	同	一〇〇三ノ内	四一二
同	四、五六八	同	四一〇ノ内	一一四
同	四、五六九	同	一〇〇六ノ内	三二九
同	四、五七〇	同	三一二ノ内	一一二
同	四、五七一	同	一四一五ノ内	八一三
同	四、五七二	同	一二一七ノ内	九〇三
同	四、五七三	同	三〇六ノ内	一〇七
同	四、五七四	同	一五〇九ノ内	五〇九
同	四、五七五	同	一一一八ノ内	九二八
同	四、五七六	同	一一一八ノ内	九〇八
同	四、五七七	同	一一一八ノ内	六二九
同	四、五七八	同	六二五ノ内	二二一
同	四、五七九	同	一六〇一ノ内	七二三
同	四、五八〇	同	二一一九ノ内	九一四
同	四、五八一	同	六二七ノ内	二二七
同	四、五八二	同	二一一ノ内	一〇〇
同	四、五八三	同	二一一ノ内	二二
同	四、五八四	同	二〇七ノ内	一九
同	四、五八五	同	一一一三ノ内	六〇六
同	四、五八六	同	二二一八ノ内	一四一四
同	四、五八七	同	三二一八ノ内	七二七
同	四、五八八	同	一、〇二二ノ内	二六一七
同	四、五八九	同	一七二九ノ内	五二三
同	四、五九〇	同	九一五ノ内	二二二
同	四、五九一	同	一一一二ノ内	二一六
同	四、五九二	同	九一五ノ内	一一五
同	四、五九三	同	一一一二ノ内	一一七
同	四、五九四	同	七一一八ノ内	七〇八
同	四、五九五	同	九二〇ノ内	一〇五
同	四、五九六	同	一一一六ノ内	二〇七
同	四、五九七	同	一一一六ノ内	二二〇
同	四、五九八	同	一九一一ノ内	七一一
同	四、五九九	同	一一二〇ノ内	五二〇
同	四、六〇〇	同	三三〇〇ノ内	二〇二七
同	四、六〇一	同	二七二七ノ内	二一一八
同	四、六〇二	同	九一八ノ内	六二八
同	四、六〇三	同	二九〇一ノ内	一五〇六
同	四、六〇四	同	一四〇〇ノ内	四一八

◎遞信省告示第千百五十三號

發電用汽機汽罐取締規則第十條ノ規定ニ依リ汽機汽罐主任者技能認定ニ關スル件左ノ通定メ本日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年五月一日　遞信大臣　床次竹二郎

汽機汽罐主任者技能認定ニ關スル件

第一條　汽壓十五瓩毎平方糎未滿ニシテ發電所出力三千キロワット未滿ノ電氣事業用發電所又ハ汽壓十五瓩毎平方糎未滿ニシテ發電所出力五千キロワット未滿ノ自家用發電所ノ汽機汽罐主任者ノ技能認定ハ實業學校令ニ依ル實業學校若ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ機械工學ヲ專修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者又ハ機械技術ニ關シ相當ノ學識經驗ヲ有スル者ニ就キ之ヲ行フ

第二條　汽壓三十瓩毎平方糎未滿ニシテ發電所出力五萬キロワット未滿ノ電氣事業用發電所又ハ汽壓三十瓩毎平方糎未滿ノ自家用發電所ノ汽機汽罐主任者ノ技能認定ハ專門學校令ニ依ル實業專門學校若ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ機械工學ヲ專修シ之ヲ修得シタル者又ハ前條ニ該當スル者ニシテ滿四年以上汽壓十五瓩毎平方糎以上ノ汽機汽罐取扱ノ實務ニ從事シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第三條　汽壓三十瓩毎平方糎以上若ハ發電所出力五萬キロワット以上ノ電氣事業用發電所又ハ汽壓三十瓩毎平方糎以上ノ自家用發電所ノ汽機汽罐主任者ノ技能認定ハ大學令ニ依ル大學ノ工學部若ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ機械工學ヲ專修シ之ヲ修得シタル者又ハ前條ニ該當スル者ニシテ滿三年以上汽壓二十五瓩毎平方糎以上ノ汽機汽罐取扱ノ實務ニ從事シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第四條　發電用汽機汽罐取締規則第十條ノ規定ニ依ル技能認定ヲ受ケントスルトキハ履歴書（樣式第二號）、修得シタル學科ニ關スル證明書（必要アルトキハ説明書ヲモ添附スベシ）、汽機汽罐取扱ノ實務ニ從事シタルコトヲ證スルニ足ル書面及戸籍ノ抄本ヲ添ヘ申請書（樣式第一號）ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

（第一號樣式）

汽機汽罐主任者技能認定申請書

一　技能認定ヲ必要トスル者ノ氏名
二　所屬發電所名、出力及汽壓

右發電用汽機汽罐取締規則第十條ニ依ル認定相受度申請候也

年　月　日

住所
申請者　名㊞
主任技術者名㊞

遞信大臣　氏　名殿

（第二號樣式）

履歴書

族籍　氏　名　年　月　日生

學業

一、何年何月何日　何學校何科ニ入學
一、、、、、　何學校何科修業、卒業又ハ退學
一、、、、、　何々

職務

一、何年何月何日　何官廳、何會社ノ何發電所又ハ何工場ニ於テ汽壓何瓩毎平方糎ノ汽機汽罐ノ取扱ニ從事
一、、、、、　何々

賞罰

一、何年何月何日　何々

右之通相違無之候也

年　月　日

現住所

氏　名㊞

◎遞信省告示第千百五十四號

無線電信法第二條ニ依リ左記私設無線電信無線電話施設ヲ許可セリ

昭和十年五月一日　遞信大臣　床次竹二郎

一、施設者名　日本無線電信電話株式會社
二、施設ノ目的　無線電信法第二條第五號ニ依リ無線電信無線電話ノ學術研究及機器ニ關スル實驗ニ使用
三、機器裝置場所　東京市目黒區洗足一三二七番地日本無線電信電話株式會社洗足工場構内
四、通信執務時間　不定

◎遞信省告示第千百五十五號

無線電信法第二條ニ依リ左記私設無線電信無線電話施設ヲ許可セリ

昭和十年五月一日　遞信大臣　床次竹二郎

一、施設者名　宮坂保
二、施設ノ目的　無線電信法第二條第五號ニ依リ無線電信無線電話ノ學術研究及機器ニ關スル實驗ニ使用
三、機器裝置場所　長野縣小縣郡縣村大字本海野一四二番地
四、通信執務時間　不定

◎遞信省告示第千百五十六號

昭和十年五月六日ヨリ左記郵便局ヲ改稱ス

昭和十年五月一日　遞信大臣　床次竹二郎

現名稱	改稱	位置
秋保湯元郵便局	秋保溫泉（アキウオンセン）郵便局	宮城縣名取郡秋保村大字湯元

◎遞信省告示第千百五十七號

昭和十年五月六日ヨリ左記三等郵便局ヲ設置ス但シ郵便物集配事務ヲ取扱ハス

昭和十年五月一日　遞信大臣　床次竹二郎

名稱	位置
橫須賀長浦（ヨコスカナガウラ）郵便局	橫須賀市長浦（橫須賀局集配區內）

◎遞信省告示第千百五十八號

昭和十年四月二十九日ヨリ大正十四年九月遞信省告示第千三百五十號無線局及託送發受所名等中「白令丸託送」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス

昭和十年五月一日　遞信大臣　床次竹二郎

發受所名	呼出符號	對手電信官署ノ種別	發受電報ノ種別
千島袴託送（チシマハカマタクソウ）（北海道千島國占守郡占守島村上崎　袴信一郎）	JPU	幌筵無線電信局	和文電報

◎鐵道省告示第百八十四號

砂利及砂ニ對スル割引運賃左ノ通定ム

昭和十年五月一日　鐵道大臣　內田信也

一品名　砂利。砂
一發驛　西武鐵道是政
一著驛　新宿。飯田町。品川。芝浦。大崎。惠比壽。澁谷。目白。池袋。板橋。大塚。巢鴨。田端。王子。赤羽。須賀。隅田川
一扱種別　貸切扱
一期間　自昭和十年五月一日　至昭和十年十月三十一日
一賃率　省線內十七級賃率ノ二割減
一條件　一般賃率ニ依リ通計二〇、〇〇〇瓩以上託送シタルモノニ對シ運輸帳表取扱手續ニ依リ既收運賃ト本賃率ニ依ル運賃トノ差額ヲ拂戾スモノトス

◎鐵道省告示第百八十五號

茶類ニ對スル割引運賃左ノ通定ム

昭和十年五月一日　鐵道大臣　內田信也

一品名　綠茶。紅茶
一發驛　原。鈴川。岩淵。藤枝。島田（東海道）。金谷。堀ノ內。掛川。袋井。原谷。遠江櫻木。遠江森。中泉（東海道）。濱松。高塚
一著驛　靜岡。藤枝。島田（東海道）
一扱種別　小口扱。瓩扱。貸切扱
一期間　自昭和十年五月一日　至昭和十年十月三十一日
一賃率　普通賃率ノ
　小口扱　二割七分減
　瓩扱　一割八分減
　貸切扱　二割五分減
一條件　一般賃率ニ依リ通計四、七〇〇瓩以上託送シタルモノニ對シ一、五〇〇瓩ニ達シタル日ノ翌日以後ノ託送瓩數ニ就キ運輸帳表取扱手續ニ依リ既收運賃ト本賃率ニ依ル運賃トノ差額ヲ拂戾スモノトス

正誤

去月二十六日遞信省告示第千百三十三號中八〇六頁三段終ヨリ六行「哈爾濱馬家江」ハ「哈爾濱馬家溝」同二十七日同第千百三十七號位置中「宮地宮之助」ハ「宮地民之助」ノ孰モ誤　遞信書記官

敍任及辭令

◎昭和十年四月十五日

豐田傳造
尾形源吾
清水實
渡邊久
杉山憲太郎
森武雄
岡村三郎
畑佐善
佐藤清治郎
島田忠顯
鈴木孝二郎
高儀秀雄
鎌田稔
池邊駿三
宮下秀碚
小貫章
新居利夫
勝木誠三
竹下重美
白木敏雄
末廣萃
西敏雄
村口藤忠
福井勉
古賀秀俊
宮崎藤太郎
立花耕一
元田政喜
關谷春美
池田茂
岡部源次
糀谷貞雄
高洲孝次
武宮親
川合俊運
山本禮二
島田亥一

法田明
三木義彥
池田潔
坂口清次郎
小室俊郎
小澤一男
長狹利勝
吉田信章
由井千春
杉浦千秋
村井金太郎
大森一敏
神林一稔
近藤哲夫
瓜生知助
寺島吉治
山田嘉信
石井正夫
安田治
岩田弘
菊間榮夫
中川榮藏
札野一
廣瀨英
永山新
平井清吉
島田好三
平井彌作
丹生益治
林幸夫
畑瀨鶴雄
小川末右治
原田美明
片山四郎
戶田豐吉
山川善修
海上義友
市橋千代次
花岡直一
佐藤千惠
大平成美

第2495号　本文

第2495号 本文

小見山久雄
戸邊啓三郎
吉本治千代
鈴木藤五郎
藤瀨隆夫
相良靖
草野清行
小畑武
吉澤太郎平
北野善一
深崎嘉夫
田端新作
千田正
熊谷榮
植木又三郎
早川彦太郎
三田麒六
中谷蔚
山口陸三
壹岐武男
橋寺七郎
室原幸男
荒野實
前間久治
岡勇
猪俣實
有山兵四郎
山口薰
松田治郎兵衛
茂木今朝吉
松村旭
保田虔
高橋一夫
鶴田禎治
神田三郎
藤井素介
岡林長由
新井保亮
鈴木伊太郎
林利定
小島多慶男
關谷稔
岸波政雄
田中一男
白井潤吉
野口經夫
島健二郎
菅原秀雄
鈴木政男
辻金男
山岡清一
後藤憲一
梶原源次郎
丸山景一郎
野尻岩雄
福田知男
深谷英雄
佐伯貞男
小貫忠臣
筒井昌一郎
三宅綱常
生田隆三
松尾松濤
脇本彰
明智義雄
円城寺滿
織田活郎
古賀貢
荻田正明
相內俊雄
長谷川清
石井忠雄
唐崎保平
大山重敏
貝原繁治
右原喜一
塩田榮助
渡部友三
明石盛司郎
德田藤吉
元木英夫
大塚武太郎
久末省二
江部壽
森本松夫
清水陸
豊田健吉
上田治男
五味七郎
原保男
井上晟
塩原良一
杉山藤雄
福島千秋
小野信次郎
山口清勝
今井榮二郎
山田透
渡邊武夫
長谷正勝
宮崎壽治
兒玉貞登
生松茂
大野仁造
岩崎義忠
石田駿
英恭憲
小塚卓二
浦田弘
德井愼次
小林義雄
鈴木和一郎
北村萬治
川岸重義
金井眞藏
松山勇吉
龜澤錚司
前原清一
谷村顯三
小菅恭三
小澤恒三
內藤喜八郎
鈴木益右衛門
菊田順吉
富田一
谷口洋夫
菅井金藏
綱島伊三郎
三好一之
北島增雄
杉本潔
土肥利行
染山敎勤
朝日稔
野見山茂七郎
近江武
石井正壹
山內次男
森田安雄
大野要
清水三朗
伊藤一郎
中村猛
吉田義雄
羽太三郎
佃正夫
小松信
大嶋邦男
山中勇
冨澤重義
米澤定義
野尻高利
永田一亀
谷口久男
甲斐千秋
高橋新
根岸好治
吉村壽
野田武雄

花井功伍
原口正一
簗田明太郎
佐久間誠志
關根周治
木下丈舟
芦崎耕平
宮本伊三郎
松山一男
栗原勇吉
西村三郎
齊藤宗三
齊藤良吉
横尾嘉一
佐上鉄一
二宗道太郎
長沼芳男
山本喜一
北村清
才新馨
原富雄
小笠原喜代一
中島金右ヱ門
森松豊治
稻葉貞次郎
立石千人男
原田利雄
井上克事
秋知八平
相原正治
平田統一
佐々木武雄
赤松則英
水上隼太
前田毅郎
吉田英二
內山信一
藤田起與美
中井義一
森山茂

（各通）

諫山融
岩井由治
小林善一郎
大塚堅
西元弘
鶴山袈裟太郎
田邊彌代吉
新井功
葉山猪熊
浦野幸藏
成瀨惣一
淺川春人
鈴木貢
筒井清次郎
西井晧男
行武政成
北島忠夫
河西十二郎
池田博
高橋俊嗣
中田政雄
山上榮
小路元
高田貞夫
石野武二
松尾清司
野口一郎
山本陸郎
鶴岡德壽
野原俊一
岡崎要平
乳井喜一
島田正一
大野義男
上村繁
平岩祐太郎
野崎章
相田恂雄
永沼信治
宮本勇
船越昌三
須崎重雄
中澤豊二
松田義雄
阿美惠佐男
渡邊馮
鈴木文三
高川玄二
田中茂雄
寺尾行精
青木敏男
吉川雄一郎
保川清之亟
高屋曉空
庄司驊
藤原武志
黑川義春
一瀨拾次
林良喬
野村惟義
逆井茂男
松下時雄
內藤喜市
工藤泉
平山助郎
片山誠一
石井喜見
河石善治
境野稻造
萩谷博
渡邊稔
御牧彌兒
兒玉好廣
小林德正
大井次男
鈴木曦榮
森川敏男
長曾我部勝
上條傳治
瀧口直亮
占部龍海
板垣恭二
石飛清施
若林爲夫
森田新平
橋本逸二
金藤藤雄
森本俊雄
野中良雄
須藤實
間瀨治郎
工藤哲郎
土井正護
大窪靜雄
久野薰
桑島春太郎
西條寛
高地政治
川崎尙
福地節三
照沼重男
山內東樹
川崎京市
久保國太郎
島田清
北田三郎
牛山貫一
西原幸雄
守分稔
百武祐夫
古橋秀貞
野崎護仁
小堀豊藏
加藤久雄
大井與志夫
石川勇作
伊藤秀男
政田順四郎
加藤穆
菅順道

田所　正幸
高橋　太郎
片岡　繁
友近　俊男
石田　友太
星野　炳
塚田　正信
村越利次郎
内田　靖夫
天野　俊一
駒場　鎬吉
岡田　正
朝澤　勝雄
刀根　利雄
井上　俊雄
奥富　實
大東　一市
田中　重一
韮塚　直衛
中西　新平
宇治田廣次
今村秀次郎
青田　稔
土屋　重之
荒木　外間
渡部　三男
三好　驊
川俣　孔義
佐藤　喜安
黒須　時夫
田中　易
藤澤　一光
小川　仁
片山　新助
野路　繁雄
福山　春市
根本　茂樹
佐藤源之助
森　富夫
木幡　敦則

水上　治
大久保恒雄
一ノ瀬　尙
大浦　信吾
納富　恒夫
長利　仲清
花井進一郎
倉鹿野健久
岩崎　豊
清水注連吉
山本　植
田口　豊一
丹羽　一治
服部　主義
影山　安正
小堀　甚一
川副　辰次
西山　一二
宮本　周一
伊藤　衛
原　太一
杉山　良三
阿部　繁樹
田中　應海
榎本　要
安田　諦謙
鈴木　悟郎
吉田　四皓
達村政次郎
高坂　清
波多野英夫
縄　博
京谷勘三郎
御厨善太郎
中島　克已
掛谷　光夫
島田　昇
佐々木藤七郎
福本　壽吉
堀江　輝雄

島田　秀雄
中村　榮藏
堀本　豊造
田中　正治
栗原　潔
大川　榮藏
川村三之介
山田　道隆
齋藤　一
安部　守
鈴木　和喜
向井　克胤
古賀　克孝
森岡　正雄
猿田　種次
小川健太郎
植手　四郎
祖父江金次郎
吉川　正雄
三王　卓宗
吉川　正久
橋本　宏
久保　克已
野中　乾
山田　悦成
吉戒　貞一
梶木　磬
野満　隆義
丹田　敏夫
小川武之助
野口　善雄
前原　俊二
山田　昇
大高　守
島　岩人
完倉　忠雄
上之薗　勇
山口直太郎
弘冨士夫
那須　章

江連　省一
淺井　堅
永井　一海
宮川榮太郎
西島　久明
川勝　一男
永嶋　又造
新井　吾六
吉原　五郎
石川　富雄
杤元　侃
織間安次郎
石川要之助
石川　鏡
大塚　亮
中村　邦
菊山　三郎
西田　悅治
石山　但信
山本　敏夫
田村　良策
片尾　晃
青木　満藏
中谷　正一
北川　哲次
網倉　清藏
辻　順治
岡本富次郎
阿部　忠廣
福江　篤彦
荒木　晃
鈴木　淳一
宮下　忠次
緒方　道直
廣島與三郎
織戸　忠重
山本　脩三
海道　孝次
渡邊　清
千手　正美

永井　定
宮城　精吉
高山　治
小倉　格司
杉浦松太郎
中里庄五郎
伊藤　金三
德永　善一
舘　武男
石原　鉦二
井上　信之
則竹　君平
佐八　定雄
星野　定雄
蛯原源太郎
河野　良嗣
市川　寅次
岩永　賢一
神林　爲吉
渡邊　章
丸尾　寅雄
井形　千一
中島　宮
中西　英央
武田　宮雄
攝受　天祐
森　秀雄
川上　三郎
高橋　馨
高野　好雄

敍正八位

◉昭和十年四月二十二日

陸軍步兵少尉正八位　西澤　英勇
任陸軍步兵中尉
正八位　西澤　英勇
敍從七位

◉昭和十年四月二十七日

從五位勳六等　增田　準次
敍正五位

（各通）
正六位　吉川　巖
正六位勳五等　平井　靜夫
敍從五位
（各通）
從六位　玉木　政貴
從六位勳六等　石井　康隆
敍正六位
正七位　城内　辰尾
敍從六位
從七位　佐藤　愼一
同　宮永　一良
同　大久保伊一郎
（各通）
同　猫山菊三郎
同　瀧野　讓治
同　間々田祐一郎
同　梶谷　健吉
敍正七位
正八位　毛利川源一
（各通）
正八位勳八等　唐澤　元吉
同　田中善右衞門
敍從七位
鐵道局書記勳八等　平野　浩吉
任鐵道局副參事
敍高等官七等
勳八等　平野　浩吉
（各通）
瀧口　茂
勳七等　庄子　利光
安河内太七郎
敍從七位
安藤　清
敍正八位

◉昭和十年四月三十日

領事正六位勳五等　岩崎　榮藏
任外務理事官
敍高等官四等
（各通）
大竹　秀夫
藤田　忠男
任陸軍砲兵少尉
海軍教授從七位　中村　行三
兼任海軍技師
敍高等官七等

李　泰圭
任京都帝國大學助教授
敍高等官七等
北海道帝國大學助教授從六位　梅田　魁
任北海道帝國大學教授
敍高等官五等
神保　謙吾
任東京商科大學豫科教授
敍高等官七等
鬼頭仁三郎
任東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官七等
中野秀五郎
任第一高等學校教授
敍高等官七等
東北帝國大學助手陸軍工兵少尉正八位　高野　知彥
任名古屋高等工業學校教授
敍高等官七等
水產講習所技手兼水產講習所助教授陸軍步兵少尉正八位　新野　二郎
任農林技師
敍高等官七等
拓務屬　堤　武雄
任拓務事務官
敍高等官七等
拓務屬兼南洋廳事務官從六位勳六等　上田昌之助
任拓務理事官
敍高等官四等
倉茂英次郎
任朝鮮總督府水產試驗場技師
敍高等官七等
公立中學校長正六位　土井　賢志
任地方視學官
敍高等官四等
公立中學校長從六位　片岸　初見
任地方視學官
敍高等官五等
文部屬陸軍三等主計正八位　鍬木　亨弘
（各通）
文部屬　辻田　力
任地方視學官
敍高等官七等

休職廣島高等學校生徒主事兼廣島高等學校教授陸軍步兵少尉從五位　濱本勝治郎
公立專門學校教授ニ任ス
高等官三等ヲ以テ待遇セラル
廣島女子專門學校助教授　谷本　勉
公立專門學校教授ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
北海道札幌師範學校教諭兼北海道札幌師範學校訓導　兼　齋藤　米造
（各通）
秋田縣師範學校教諭兼秋田縣師範學校舍監　出町寬一郎
鹿兒島縣師範學校教諭　後藤　直養
師範學校教諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
師範學校教諭從六位　中泉　正雄
（各通）
師範學校教諭　出町寬一郎
師範學校舍監ニ兼任ス
公立高等女學校長兼公立高等女學校教諭從五位勳六等　片山　重一
公立中學校長ニ任ス
高等官三等ヲ以テ待遇セラル
地方視學官正七位　大舘　龍祥
（各通）
師範學校教諭正六位　星　教宥
正六位　中村　勝衛
公立中學校長ニ任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル
師範學校教諭正七位　小野德四郎
公立中學校長ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル
公立高等女學校教諭陸軍騎兵少尉從六位　那波　止男
（各通）
公立高等女學校教諭從六位　三上　貫一
公立中學校教諭ニ任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
公立中學校長從五位勳六等　片山　重一
公立中學校教諭ニ兼任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
公立高等女學校教諭正七位　松井三之助
公立中學校教諭ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル
群馬縣立藤岡中學校教諭　高久　芳郎
公立中學校教諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

第2495号 本文

（各通）公立中學校敎諭從七位　田村三四郎
同　中野　定雄
公立中學校舍監ニ兼任ス
（公立中學校長兼公立中學校敎諭從五位勳六等）　高日　義海
公立高等女學校長ニ任ス
高等官三等ヲ以テ待遇セラル
地方視學官從五位勳五等　齋藤　文
從五位勳五等　長谷川藤太郎
（各通）
師範學校敎諭正六位　久保覺太郎
公立高等女學校敎諭從六位　重松　正良
公立高等女學校長ニ任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル
同　岡部　金夫
公立高等女學校長ニ任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
公立實業學校敎諭從六位　大杉　秀吉
公立高等女學校長兼公立高等女學校敎諭ニ
任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
（各通）
公立中學校敎諭從六位　松園　良三
（鳥取縣鳥取市立因幡高等女學校敎諭從六位勳六等）　北野　義密
公立高等女學校敎諭ニ任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
（各通）
公立高等女學校長正六位　久保覺太郎
公立高等女學校長從六位　重松　正良
公立高等女學校敎諭ニ兼任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
公立中學校敎諭正七位　白戸紋之丞
公立高等女學校敎諭ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル
富山縣立高岡高等女學校敎諭　谷藪　爲友
公立高等女學校敎諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
（廣島縣向原高等女學校敎諭）　大村　清人
（各通）
（熊本縣立菊池高等女學校敎諭）　佐藤　六次
公立高等女學校敎諭ニ任ス
高等官八等ヲ以テ待遇セラル
公立實業學校敎諭正六位　一ノ木市三郎
（公立實業學校敎諭兼石川縣立青年學校敎員養成所敎諭從六位）　石母田菊三
公立實業學校敎諭從六位　末永　延壽
（各通）
公立實業學校長ニ任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル
（青年學校敎員養成所敎諭正六位）　荒　善五郎
公立實業學校長ニ任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
（公立實業學校敎諭陸軍三等主計從七位）　津田　六郎
公立實業學校長兼公立實業學校敎諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
公立實業學校長正六位　一ノ木市三郎
公立實業學校敎諭ニ兼任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
（東京府立第一商業學校敎諭陸軍工兵少尉正八位）　萩原　時雄
（東京府立第一商業學校敎諭）　岡本貞一郎
（各通）
同　榊原　直人
公立實業學校敎諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
（公立實業學校敎諭正七位勳七等）　山崎　秀一
（各通）公立實業學校敎諭正七位　熊谷　芳雄
公立實業學校舍監ニ兼任ス
（青年學校敎員養成所敎諭兼宮城縣師範學校敎諭正七位）　前田　勝美
公立青年學校長兼公立青年學校敎諭ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル
（公立實業學校敎諭兼公立實業學校舍監從六位）　齋藤民次郎
青年學校敎員養成所敎諭ニ任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
（長崎縣屬兼長崎縣視學從七位勳八等）　多比良義雄
公立盲學校長兼公立聾啞學校長ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
公立實業學校敎諭從七位　吉本覺太郎
天津日本商業學校敎諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
加藤　三郎
（各通）
北條虎次郎
地方統計主事ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

◆

免兼官　海軍敎授兼海軍技師　宮澤　虎雄
依願免本官　鐵道技師　中村　男也
大使館一等書記官　宮川　船夫
高等試驗臨時委員被仰付
外務省囑託　山口爲太郎
高等試驗臨時委員被仰付
奏任官ヲ以テ待遇セラル
外務理事官兼外務省警視　末松　吉次
依願免本官並兼官
神宮皇學館敎授　西村爲之助
陞敍高等官三等
陸軍技師　佐藤　愼一
陸地測量師　川畑　幸夫
東北帝國大學助敎授　外村　德三
名古屋醫科大學助敎授　宮永　一良
（各通）
神戸高等商船學校敎授　足立　一平
休職製鐵所技師　篠原　槻雄
同　毛利　英熊
（朝鮮總督府稅務監督局副事務官）　瀧口　茂
朝鮮總督府水產試驗場技師　毛利川源一
依願免本官
臺灣總督府測候所技師　西村　傳三
陞敍高等官三等
臺灣總督府交通局技師　平井　靜夫
依願免本官
南洋廳屬兼南洋廳警視　庄子　利光
依願免兼官
北海道廳技師　玉木　政貴
（各通）
地方技師　佐藤　眞直
依願免本官
衞生技師　佐藤　眞直
願ニ依リ本職ヲ免ス
土木技師兼道路技師　高桑　敬二
願ニ依リ本職並兼職ヲ免ス
（師範學校敎諭兼師範學校舍監）　横田　惟精
同　草場　弘
（各通）
（公立實業學校敎諭兼公立實業學校舍監）　鞍懸　琢磨
兼職ヲ免ス
（各通）
（公立中學校敎諭兼公立中學校舍監）　石原　健康
同　中澤陸次郎
（地方商工技師兼公立實業學校長）　小沼　直
（公立實業學校敎諭兼公立實業學校舍監）　並河　勇
願ニ依リ兼職ヲ免ス
師範學校敎諭　遠藤恒三郎
公立中學校長　增田　準次
公立中學校敎諭　猫山菊三郎
公立高等女學校長　山下勝太郎
同　穗苅　信乃
同　石井　康隆
（各通）
公立高等女學校敎諭　間々田祐一郎
同　梶谷　健吉
同　中西　米藏
公立實業學校長　下井　盛夫
公立實業學校敎諭　增山　新平
同　吉岡　護
同　野口米次郎
同　大石藤太郎
願ニ依リ本職ヲ免ス
師範學校敎諭兼師範學校舍監　城內　辰尾
（公立高等女學校長兼公立高等女學校敎諭）　吉川　巖
同　川崎　義方
（公立實業學校長兼公立實業學校敎諭）　石原茂三郎
（各通）
（公立青年學校長兼公立青年學校敎諭）　松川　五郎
（公立盲學校長兼公立聾啞學校長）　梅野邦太郎
願ニ依リ本職並兼職ヲ免ス
地方統計主事　大久保伊一郎
朝鮮土木技師　安河內太七郎
（各通）
臺灣產業主事　瀧野　讓治
願ニ依リ本職ヲ免ス
遞信屬　上野　政吉
（各通）
通信書記　乾　他景
同　小谷　善市
高等官七等ヲ以テ待遇セラル（以上四月三十日內閣）

賜一級俸　外務理事官　岩崎　榮藏
大臣官房人事課勤務ヲ命ス（四月三十日外務省）
地方技師　關谷　新造
富山縣勤務ヲ命ス
同　飯島馨之助
岡山縣勤務ヲ命ス（以上四月二十六日內務省）
社會局技師　上野　民治
九級俸下賜
勞働部勤務ヲ命ス
地方警視　岡村　丙
十級俸下賜
補埼玉縣浦和警察署長
同　長田　泰明
八級俸下賜
地方技師　鈴木　健二
五級俸下賜
山口縣勤務ヲ命ス
都市計畫地方委員會技師　大塚　松巳
八級俸下賜
都市計畫香川地方委員會勤務ヲ命ス
道路技師兼土木技師　加來　誠司
熊本縣道路技師兼熊本縣土木技師ニ補ス
（以上四月二十六日同）
（各通）
神奈川縣書記官　留岡　幸男
地方警視　細田　德壽
昭和十年三月三日神奈川縣藤澤警察署所轄綾瀨村深谷駐在ノ神奈川縣巡査佐藤伊四郎ナル者同人ノ情婦鈴木アサヲ絞殺スルニ至リタルハ畢竟平素部下ニ對スル監督不行屆ノ致ス處ニシテ一般警察官ノ威信ヲ失墜シタルモノト謂フベク職務ヲ怠リタルノ責ヲ免レズ仍テ文官懲戒令ニ依リ譴責ス
地方視學官　片岸　初見
五級俸下賜
新潟縣勤務ヲ命ス
同　土井　賢志
五級俸下賜
宮城縣勤務ヲ命ス
八級俸下賜　同　辻田　力
鳥取縣勤務ヲ命ス　同　鍬木　亨弘
八級俸下賜
香川縣勤務ヲ命ス
道路技師兼土木技師　黑岩　敏治
福島縣道路技師兼福島縣土木技師ニ補ス
衞生技師　內野　總一
高知縣衞生技師ニ補ス
社會事業主事　梅崎　英雄
神奈川縣社會事業主事ニ補ス（以上四月三十日同）
司法官試補　古山　宏
同　齋藤　壽郎
（各通）
同　佐々木嘉則
同　宿利　精一
同　本林　讓
東京區裁判所檢事代理ヲ免ス
同　伊藤　淳吉
同　宮下　明義
（各通）
千葉區裁判所檢事代理ヲ免ス
同　伊尾　宏
同　山口　正夫
（各通）
水戸區裁判所檢事代理ヲ免ス
同　磯村　義利
同　藤堂　眞二
同　得津良之助
（各通）
廣島區裁判所檢事代理ヲ免ス
同　田沼　秀男
同　山田膺之助
同　鈴木信次郎
（各通）
長崎區裁判所檢事代理ヲ免ス
同　大島　斐雄
同　淺野　猛人
（各通）
福岡區裁判所檢事代理ヲ免ス
同　山口　一夫
同　山岸　薫一
（各通）
熊本區裁判所檢事代理ヲ免ス（以上四月三十日司法省）
師範學校敎諭　三澤　貫吾
公立實業學校敎諭　遠山　次男
神奈川縣公立小學校長　森久保敬次
兵庫縣公立小學校長　藤原　優
長崎縣公立小學校長　水谷　長助
（各通）
埼玉縣公立小學校長　池田久四郎
栃木縣公立小學校長　平野　春市
富山縣公立小學校長　多田　孝正
滿洲國ヘ出張ヲ命ス（四月二十七日文部省）
京都帝國大學敎授　小田川達朗
賜本俸二級俸
同　礒部喜右衞門
賜本俸三級俸
同　田邊　元
賜本俸四級俸
東北帝國大學助敎授　久保　勉
本俸三級俸下賜
京都帝國大學助敎授　重松　愿
本俸四級俸下賜
同　關口鉄太郎
本俸五級俸下賜
京都帝國大學敎授　志方　益三
（各通）
名古屋醫科大學敎授　小宮　喬介
本俸六級俸下賜
京都帝國大學助敎授　西本　穎
（各通）
同　西原　清康
本俸七級俸下賜
同　田中　正三
（各通）
東北帝國大學助敎授　井上　剛
本俸九級俸下賜
東北帝國大學敎授　高橋　穰
在外研究中俸給百分ノ四十五ヲ支給ス
文部省督學官　下村　市郎
（各通）
水戸高等學校敎授　內藤　珍麿
五級俸下賜
和歌山高等商業學校敎授　大畑　文七
（各通）
明治專門學校敎授　嘉村　平八
六級俸下賜
師範學校長　前田　恒治
勤續加俸年額金貳百貳拾貳圓下賜
公立實業學校長　檀上　謙爾
長崎縣立農學校長ニ補ス（以上四月三十日同）
農林技師　新野　二郎
十一級俸下賜
水產局勤務ヲ命ス（四月三十日農林省）
地方統計主事　加藤　三郎
奈良縣統計主事ニ補ス
同　北條虎次郎
山形縣統計主事ニ補ス（以上四月三十日農林省、商工省）
地方商工主事　生山　峰二
石川縣商工主事ニ補ス
地方商工技師　三宅甚五郎
新潟縣商工技師ニ補ス（以上四月二十七日商工省）
地方商工主事　生山　峰二
滿洲國ヘ出張ヲ命ス（四月三十日同）
遞信技師　小川　一淸
工務局勤務ヲ命ス
同　渡邊　孝正
電氣試驗所兼勤ヲ命ス（以上四月二十七日遞信省）
鐵道技師　中村　男也
賜一級俸
大臣官房勤務ヲ命ス
鐵道局副參事　平野　浩吉
六級俸下賜
門司鐵道局勤務ヲ命ス
鐵道局技師　和邇　秀恒
大阪鐵道病院長兼第一、第二內科醫長ヲ命ス
鐵道醫　上木　隆基
大阪鐵道病院副院長兼外科醫長ヲ命ス（以上四月二十七日鐵道省）
拓務事務官　堤　武雄
十級俸下賜
殖產局勤務ヲ命ス
拓務理事官　上田昌之助
六級俸下賜
大臣官房祕書課勤務ヲ命ス（以上四月三十日拓務省）

第2495号　本文

第2495号　本文

行政裁判所評定官　三宅　德業
年俸六百圓加賜
同　遠藤　源六
同　阿部文二郎
（各通）
賜一級俸（以上四月二十三日行政裁判所）

休職公立高等女學校教諭　竹内　運平
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和九年七月十二日ヨリ年功加俸年額百二十圓下賜

公立高等女學校教諭　櫻又　登珍
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年三月三十一日ヨリ年功加俸年額百六十八圓下賜

公立中學校教諭　山内　實
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年三月二十三日ヨリ年功加俸年額二百五十二圓下賜

公立實業學校教諭　井戸　庄次
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和九年九月三十日ヨリ年功加俸年額百二十圓下賜

公立中學校長　日下　恒
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年三月二十三日ヨリ年功加俸年額二百五十二圓下賜

公立實業學校教諭　盛山　誠吾
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年四月十四日ヨリ年功加俸年額百六十八圓下賜

同　津坂　武
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年三月三十一日ヨリ年功加俸年額百六十八圓下賜

公立中學校長　橋本　喬木
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和九年十二月二十日ヨリ年功加俸年額百六十八圓下賜

公立中學校教諭　玉井　武
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年四月八日ヨリ年功加俸年額百六十八圓下賜

師範學校教諭　小野德四郎
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年三月三十一日ヨリ年功加俸年額百二十圓下賜
（以上四月十九日北海道廳）

體育運動主事　中園　進
六級俸下賜
同　高田　通
七級俸下賜（以上四月二十四日同）

公立專門學校教授　清田　壽
六級俸當分年俸千九百貳拾圓下賜（四月十六日京都府）

地方農林主事　宇佐川　秀
十級俸下賜（四月二十四日神奈川縣）

公立青年學校教員養成所教諭　黑田　忠雄
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年一月三十一日ヨリ年功加俸年額金貳百五拾貳圓下賜

公立高等女學校教諭　森　茂弥
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和九年十一月二十九日ヨリ年功加俸年額金百六拾八圓下賜

公立青年學校長　阪口　保
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和九年八月十三日ヨリ年功加俸年額金百六拾八圓下賜（以上四月二十日兵庫縣）

社會事業主事　井上淸四郎
十級俸下賜（四月十八日埼玉縣）

公立中學校教諭　岩淵　進
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年三月三十日ヨリ年功加俸年額金九拾六圓下賜（四月二十日茨城縣）

衞生技師　大久保市郎
十級俸下賜
同　大澤　武
十一級俸下賜（以上四月二十三日栃木縣）

道路技師兼土木技師　小村　宏
十二級俸下賜（四月二十四日同）

土木技師　加藤　平吉
五級俸下賜（四月二十三日長野縣）

地方農林技師　青木市左衛門
六級俸下賜
同　堤　左馬
同　加藤　勇雄
八級俸下賜（以上四月一日福島縣）
（各通）
同　赤羽　喜雄
九級俸下賜（四月六日同）

地方農林主事　中西宗次郎
八級俸下賜（四月十三日同）

地方農林技師　平石　錬二
十一級俸下賜
同　加藤　達三
十級俸下賜（以上四月十一日同）

地方商工主事　窪山　圓
九級俸下賜（四月十七日山形縣）

地方統計主事　淺岡　時哉
八級俸下賜（四月二十日同）

地方農林主事　橋本利左衛門
十一級俸下賜（四月二十四日和歌山縣）

公立實業學校長兼公立實業學校教諭　崎濱　秀主
五級俸當分貳千貳百圓下賜（三月三十一日沖繩縣）

公立實業學校教諭　田中　愛穗
八級俸當分千四百貳拾八圓下賜
同　西村　一雄
八級俸當分千參百貳拾圓下賜（以上四月十六日同）

公立中學校教諭　安里　榮繁
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十年四月一日ヨリ年功加俸年額金壹百四拾四圓下賜（四月十九日同）

正　誤

去月十五日本欄五〇〇頁三段阿部武夫ノ敍勳ハ取消セラル　賞勳局書記官

去月二十三日　本欄七二五頁四段稻垣芳雄ハ稻垣芳雄ノ報告誤　地方事務官（岩手縣）

宮廷錄事

◎行幸　天皇陛下ハ去月二十九日午前八時二十分御出門代々木練兵場ニ於テ行ハセラレタル天長節觀兵式ヘ行幸同十一時八分還幸アラセラレタリ

◎御安著　皇太后陛下ハ去月二十七日午後一時四十分大宮御所御出門同二時十分東京驛御發車同四時二十分沼津驛御著車同四時三十七分沼津御用邸ニ御安著アラセラレタリ

◎天長節宴會　天皇陛下ハ去月二十九日午後零時三十分天長節宴會ヲ御催アラセラレタリ

◎御禮電竝御答電　滿洲國皇帝陛下去月二十七日大連御著ニ際シ　天皇陛下ヘ御禮電ヲ寄セラレ同日　天皇陛下ハ之ニ對シ御答電ヲ御發送アラセラレタリ

滿洲國皇帝陛下去月二十七日新京御歸著ニ際シ　天皇陛下ヘ御禮電ヲ寄セラレ　天皇陛下ハ之ニ對シ同二十八日御答電ヲ御發送アラセラレタリ

◎御見舞電報竝御答電　臺灣中部地方震災ニ對シ西班牙國大統領閣下ヨリ　天皇陛下ヘ御見舞電報ヲ寄セラレ　天皇陛下ハ之ニ對シ御答電ヲ御發送アラセラレタリ

彙　報

○官廳事項

◎横濱駐在ポーランド國名譽領事御認可　今般渡邊利二郎横濱駐在ポーランド國名譽領事ニ任命セラレタルニ付去月二十日附ヲ以テ其職務執行ニ關スル御認可狀御下付相成リタリ

◎官吏族籍變更　福井縣士族稅關鑑査官　山本淳一ハ今般分家ニ因リ東京府平民ト爲レリ

◎轉任　師範學校教諭星一雄ハ去月八日東京府視學ニ轉任セリ

◎昇級竝退官　朝鮮忠淸南道公立普通學校長（奏任待遇）朝鮮公立普通學校訓導室田泰、朝鮮慶尙南道公立普通學校長（同）朝鮮公立普通學校訓導野村登良之助、朝鮮平安北道公立普通學校長（同）朝鮮公立普通學校訓導鄕野勝一ハ三級俸ニ、朝鮮慶尙南道公立普通學校長（同）朝鮮公立普通學校訓導陣内德右衛門、同朱錫武、同坂倉京輔ハ四級俸ニ孰モ本年三月三十日昇級同日願ニ依リ本官ヲ免セラレタリ

◎官吏死去　鐵道局副參事從七位寺北鶴之助ハ去月二十二日死去セリ

○司　法

◎公證人辭任　名古屋地方裁判所所屬公證人小島小三郎、松江地方裁判所所屬公證人渡邊輝彌ハ去月二十七日願ニ依リ孰モ公證人ヲ免セラレタリ（司法省）

◎公證人任命　從五位勳五等東仁松ハ去月二十七日公證人ニ任セラレ名古屋地方裁判所所屬及元公證人小島小三郎ノ後任ヲ命セラレタリ（司法省）

○學　事

◎九州帝國大學農學部規程中改正　九州帝國大學ニ於テ今般同學農學部規程中左ノ通改正セリ（文部省）

別表中左ノ通リ改正ス

附　則

本改正ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ在學セル學生ニ對シテハ新舊學科目ニ付適宜斟酌ヲ加フ但シ昭和十年三月學士試驗ニ合格セサル者ニ對シテハ舊規程ヲ適用シ新規程ニ依リ學士試驗ヲ受ケントスル者アルトキハ願ニ依リ教授會ノ議ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

別表農學科選擇科目中

「地質學	二	二				
機械工學大意及實驗					二	二 一回
構造力學(甲)			四	二		
電氣機械大意					二	
測量學(乙)	二					
測量學實習及製圖	一回					
構造力學(甲)演習及製圖				二回	一回	」

ヲ

「地質學	二					
機械工學大意(甲)					二	二
農林構造力學			四	二		
電氣工學大意					二	二
測量及測地學	二	二				
測量學實習(甲)	三					
農林構造力學演習及製圖				二回	一回	」

ニ改メ

數學第一及演習ノ次ニ

「地質學實驗		二				」

ヲ、

農業水工學設計及製圖ノ次ニ

「農業機械學設計及製圖					二回	二回」

ヲ加ヘ

「土木工學大意					二	二
道路及都市計畫						二」

ヲ削ル

（備考）

一　本表ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　選擇スヘキ科目ノ數ハ十五以上トス但シ特別研究ノ種類ニ應シ選擇スヘキ科目ヲ指定スル事アルヘシ

一　育種學實驗ハ育種學ヲ、樹病學實驗ハ樹病學ヲ農業經營學演習(乙)ハ農業計算學ヲ農業機械學設計及製圖ハ農業機械學ヲ測量學實習(甲)ハ測量及測地學ヲ農業水工學設計及製圖ハ農業水理學竝農業水工學ヲ農林構造力學演習及製圖ハ農林構造力學ヲ夫々選擇スル者ニ限リ修ムルコトヲ得

農藝化學科必修科目中

「地質學	二	二				
食品化學			二	二		
化學工藝學通論					二	二」

ヲ

「地質學	二					
食品化學			二	二		
無機工業化學大意						二」

ニ改メ

物理化學ノ次ニ

「應用物理化學			二			」

ヲ、

化學分析ノ次ニ

「地質學實驗		二				」

ヲ加フ

選擇科目中

「無機化學					二	二
應用電氣化學			二	二		
油類工業			二	二		」

ヲ

「無機化學						二
應用電氣化學			二	二		
油脂工業			二	二		」

ニ改ム

（備考）

一　本表ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　選擇スヘキ科目ノ數ハ五以上トス但シ教室主任ノ承認ヲ得ルヲ要ス

林學科必修科目中

「地質學	二	二				
測量學(乙)	二					
樹木學		二				
造林學			二	二		
森林保護學			二			
測量學實習及製圖	一回					」

ヲ

「地質學	二					
測量及測地學	二	二				
樹木學	三					
造林學			四			
森林保護學				二		
測量學實習(甲)	三					」

ニ改メ

測量學實習(甲)ノ次ニ

「森林測量學演習及製圖				一回		
地質學實驗		二				」

ヲ加フ

選擇科目中

「建築構造第二及設計製圖	二 一回	二				
數學第二			二			
構造力學(甲)			四	二		
電氣機械大意			二			
機械工學大意及實驗			二	二 一回		
森林化學實驗	一回	一回	一回	二回	二回	」

ヲ

「建築構造			二			
建築學				二		
建築學設計及製圖					一	
數學第二			二	二		
農林構造力學			四	二		
電氣工學大意			二	二		
機械工學大意(甲)			二	二		
森林化學實驗第一	一回	一回	一回			
森林化學實驗第二				二回	二回	」

ニ改メ

農林構造力學ノ次ニ

「農林構造力學演習及製圖				一回	一回	」

ヲ、

物理化學ノ次ニ

「應用物理化學			二			」

ヲ加ヘ

「電力工學				二		
化學工藝學通論					二	二」

ヲ削ル

（備考）

一　本表ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　選擇スヘキ科目ノ數ハ五以上トス但シ教室主任ノ承認ヲ得ルヲ要ス

一　地質學實驗ハ地質學ヲ數學第二ハ數學第一及演習ヲ森林化學實驗第二ハ同實驗第一ヲ修了シタル後修ムルヲ要ス

一　植物學實驗ハ植物學ヲ建築學設計及製圖ハ建築學ヲ選擇スル者ニ限リ修ムル事ヲ得

◎學位授與　東京帝國大學ニ於テ去月二十四日附廣島縣賴桿吾ニ工學博士、東京府野村八良、廣島縣山本幹夫ニ文學博士ノ學位ヲ、京都帝國大學ニ於テ同十七日附兵庫縣岡本忠文、宮崎縣平嶋今朝義、廣島縣小林源藏ニ醫學博士ノ學位ヲ孰モ授與セリ（文部省）

◎講師囑託竝解囑　京都帝國大學ニ於テ左ノ通各頭書ノ日附ヲ以テ講師ヲ囑託竝ニ解囑セリ（文部省）

三月三一日　昭和十年度理學部講師囑託　松井清忠
同　講師解囑　理學部講師　後藤秀弘
四、一五　昭和十年度農學部講師囑託　東京帝國大學教授　鈴木文助
同　同　農林事務官　西村彰一
同、一九　同　農林技師　可知貫一

◎入學許可　浦和高等學校ニ於テ去月八日ヨリ、長岡高等工業學校、京城高等工業學校、大邱醫學專門學校、京城醫學專門學校及大阪府女子專門學校ニ於テ去月孰モ入學ヲ許可セル者ノ氏名左ノ如シ（文部省、朝鮮總督府、大阪府）

◎浦和高等學校（氏名五十音順）

文科甲類

石橋英二　石井克巳　臼井夏巳
江森雄二　衞藤祐吉　小木曾龍
小原輝雄　太田芳彦　岡崎良雄
岡本讓次郎　加藤信　川口正治
黑澤亮　小崎義一　小島晋一
田島正巳　田村善次郎　高原道雄
武田康　富田四郎　長井俊夫
難波英夫　早川忠志　古谷浩造
堀越速美　松下保定　箕山茂三
矢木智　山岸久雄　吉田肇

文科乙類

伊藤次郎　伊藤政治　泉順一
飯塚竹藏　岩間多喜男　内田尚久
大井秀雄　奧洞元治　小沼正隆
加藤一三　柿沼盛弘　川野邊宏
小橋川昭雄　笹川弘次　佐藤哲雄
高久德治郎　玉井幹一郎　中島達男
中村雄吾　原子恭一　林直明
星正夫　松平博　松本芳晴
森島博吉　渡邊次郎

文科丙類

礒野泰　稻田繁　岩田章
蝦名賢造　小川昇一　大關龍三郎
岡本英男　海保浩　勝屋正夫
河清貞　久保田耀通　倉持泰三
小池弥六　佐藤節生　塩谷匡男
鈴木繁雄　田中良平　服部稔
林鐘一　長瀨恒雄　水口清三
村上太郎　室井茂實　望月正雄
森一衞　山口義一郎　吉田一郎

理科甲類（イ）

有坂誠一　有馬啓　伊藤伍郎
石氏基　家中茂生　織田正一
沖進　岡本龍雄　大野正夫
金子重夫　後藤良彦　佐藤鐵太郎
多田太郎　田邊健一　武田潤三
中村泰治　長谷川謙浩　早野舍巳
日高莊輔　堀田知道　牧田美巳
町田勝　松本光太郎　三宅精三
望月卓郎

同（ロ）

神谷時雄　鳥居一男　保坂義信
森山實　横田賢三

理科乙類（ロ）

秋山正典　淺海英三　有賀世治
石井亨　荻野紀重　大高裕一
大畑德輔　海法昌裕　金澤一雄
川島亮　木村允　倉片德次郎
倉田昌造　茂見義高　田中等
高木廣治　土屋利一　戸田良吉
中田實　野村晋一　早野正巳
松井良勝　水間豐治　横塚保

同（イ）

遠藤健吉　太田原宏　岡島基吉
中島博太郎

◎長岡高等工業學校（氏名ABC順）

電氣工學科

姉帶定信　江口眞良　權田五郎
平井忠男　藤田正一　藤原輝男
五十嵐正三　伊藤達郎　笠井幹治
川池一夫　北山清　小林裕
小守信夫　草柳隆三　眞鍋典男
桃井弘　向井熈　中村政雄
小幡久二　岡部司　小俣貞雄
大谷修三　齋藤節　坂井米一
佐藤一郎　佐藤清一郎　千賀正雄
篠原紀元　白倉士郎　鷲見俊賢
竹内三郎　寺井和巳　辻村寶
植木恒　梅澤利江　好宮幸雄

機械工學科

相田正巳　後藤道秀　長谷川卓示
廣瀨健吉　堀江良介　福島二郎
乾昌弘　石塚友之　磯部旭
一瀨德次　伊藤一雄　加藤幸治
桐淵健　小師修司　小島隆
松園和典　三宅均二　宮坂和衞
中村銀次　則包賢　野島良英
大瀧忠夫　須原正典　鈴木勝義
田原弘　手島信男　蝶名林正英
植田清　鵜飼正郎　臼井虔一
内山隆夫　山根宏二　安田鑒治
吉原富士松

應用化學科

新木芳男　五井美哉　長谷川清次郎
長谷川正次　深津皓一　福島昌俊
今井誠作　加藤達郎　川上貞夫
川村誠司　小林悠　小林五夫
牧貞一　丸島良夫　丸田裕美
丸山一雄　眞島久之助　增田庄吉
松南元一　村山進　中村裕
中澤實　西岡大三郎　野田勝彦
齋藤昇　坂部重基　清水貞輔
白井六郎　菅野英二郎　高野登
田中忠男　富岳庄二　鳥居成道
渡邊準太郎　八幡直信

◎朝鮮總督府京城醫學專門學校

友田定春　鈴木敏雄　梶谷治男
河野次男　中村重章　山本晃
大久保義男　川原節男　李煥珪
福田一友　李永恩　本多正
川上正幸　野見山茂美　林炳升
島内智　永友一友　西原正
早田工　吉峰正俊　桐原靖雄
原寅夫　李揆昌　金應振
山本忠雄　前田弘近　伊東文雄
森晴治　三輪進　久保田正雄
田頭正巳　矢野知　西田光夫
佐藤宏三　上浦留雄　武内光廣
靑木亮二　榊原三廣　矢野鎭雄
陶山磐之助　宍戸豐　朴昌圭
八木博　鄭昌洙　安澤清文
李天山　大川幸男　井手百一
恒川一勝　中川末壽　滿田鎌定
渡部惣之助　金翼濟　牧之内盛治
川村勝　元明洙　井内重夫
勝山英昌　小野清美　崔鎭恒
宋浩星　金學賢　香川滿正
尹鍾瑚　福富曉太郎　恒吉盛仲
矢野庫雄　木宮國光　朱永在
崔興根　河野秀雄　楊獻登
李寅燮　竹下格　大田勳
村田武雄　魯炳鎬　鮮于揖
李鎬承　韓龍相

◎朝鮮總督府京城高等工業學校

紡織學科

德永正三　入江定直　鎌田邦彦
延澤正　金鍾奎　竹崎正光
金致瑨　松木正光　張碩潤
金容圭　俞鍾萬　福山勝榮
坂原義貫　渡邊龍夫

應用化學科

塚本朗　倉富睦夫　門田稔
中尾萬傳　澤田仲之助　楠見貞雄
安倍昇　杉山嘉德　田村幸三
岡本章　梅園魁一　山中政男
宗辰太郎　藤富十丸　榊原光彦
野内米男　洪性俊

土木學科

大桃三郎　中島道明　新井春人
大橋元也　永山登　鳥巢二郎
岡敬太郎　金亨杰　岸川健藏
日取眞孝常　高木進　守谷重憲
道岡泰成　宮城正次郎　山本勇
三好素　永吉壽男　五本剛夫
吉田稔則

建築學科

島田幸信　愼武賊　神田忠孝
堀川修　朴虎昌　津川俊房
渡邊祐治　張起仁　尹正璧
美原邦俊　海城淳　辻靜夫
竹信正利　柏木正文

鑛山學科

福田武次　金相股　河井威
金英秀　富永利次　田原勞
金泰明　李洪雨　黑岩辰男
咸聖熙　黃起龍　住吉英一

同選科

赤川恒義　韓泰煥　金榮璐
徐在斗

◎大邱醫學專門學校

晉丸利隆　山内徹　林稠巳
武富勝　南正明　吉光力
金忠植　上村良也　南宮均
原富夫　小野一郎　細田信平
尹龍珍　金河鎭　朴彦緒
姜小光之　永尾武　徐正海
崔達權　遠迫克美　濱崎正憲
荒瀨武　西林審吾　播磨休吉
田中正雄　片桐正夫　金鍾燦
吉田勝穎　河龍根　河野滿
岡本德　斜木正男　磯村仁
佐能正　古原幸雄　金萬達
三枝多聞　朴鍾大　金潤
前村忠夫　橋村利光　尾子隆久
黃仲協　菊地正美　鄭二德
李良燮　鄭庚澤　清水良平
趙潤憲　日隈一　裵致道
大島豐正　徐廷洙　嚴啓昌
池松武之亮　上田正　顯原俊一
崔溯德　藤原茂一　祖川曉平
山根利孝　迫井忠　蘇澤兼道
大井田士郎　井上恭夫　松木明光
福田藤志行　村井豐一　才津芳雄
白益壽

◎大阪府女子專門學校（氏名五十音順）

國文國史學科

秋月映　淺田貞子　上田照子
梅田靜子　浦井公子　大脇榮子
小川滋子　奧章子　奧宮きぬゑ
片岡三重子　加納節子　鎌村美代子
河野君子　川村一子　北村愛子
北山弘子　氣比千代　國田富美子
嵯峨根千代子　澤田千鶴　杉村靜子
大四恒子　栃木美代子　中川幹子
永田のり子　新村須美　二宮清
野田和子　早坂千代子　日野五百子
藤田裕子　古本幸　松村敏子
三輪あや子　村井せき　柳澤磯子
矢野文子　山田登世子　横田良江
吉田齊　渡邊彌生

英文學科

今田歌子　浦壁正子　遠藤紀子
大西千壽子　小田愛子　篠原登美
芝弘子　小路澄子　瀨尾美津
高橋裕子　高橋ヨウ　高橋玲
田口若榮　土井滿惠　中内正惠
夏目數子　馬場道子　平井惠美
平松道　前川彰子　吉田昌
吉田良子

家政理學科

池田幸子　磯野公子　市川維子
糸川潤　岩崎妙子　榎倉千鶴子
楠田鶴　小西籌子　小林英香
小松美惠子　酒井清　柴垣華子
白石久子　鈴木文子　田平泰子
高尾ナラヱ　瀧山慶子　谷口文
垂井みさを　年宗民江　中井よしゑ
中尾義枝　中野壽美子　中村隆子
朴金來　前田早苗　牧野谷尙子
松尾喜代子　松山智惠子　三浦ツル代
水野三一子　宮内昌子　森貞子
森田キミ子　屋代多美　山野操子
由井アヤ　吉田壽美江　鷲原昭
和田歌子　渡邊春子

○産業

◎助成金交付　長野縣ニ對シ繭檢定事業助成金トシテ昭和十年度ニ於テ金二万三千八百七十五圓ヲ交付スル旨去月二十六日指令セリ（農林省）

◎奬勵金交付　稚蠶共同飼育所設置奬勵規則ニ依リ昭和九年度ニ於テ左ノ通稚蠶共同飼育所設置奬勵金ヲ交付セリ（農林省）

縣	金額	縣	金額
青森	四一〇圓	宮城	二、一〇〇圓
秋田	一、〇〇〇	山形	一、八〇〇
栃木	一、一〇〇	群馬	五、〇〇〇
新潟	一、二〇〇	富山	一、九八〇
石川	一、七一四	長野	四、七〇〇
岐阜	七、四七六	靜岡	二、六二五
愛知	七、二八〇	三重	二、五〇〇
滋賀	三、八四〇	兵庫	八、一五一
奈良	一、七五〇	鳥取	一、〇〇〇
島根	二、二五〇	岡山	一、九二〇
廣島	一、六七四	山口	八七五
德島	一、〇三九	愛媛	一、三一二
高知	一、二〇〇	福岡	九、七五〇
佐賀	一、〇〇〇	宮崎	三、五七〇
鹿兒島	一、五七五		

正誤

去月二十三日本欄學士試驗合格者ノ項中七二八頁一段五行小西龜一ハ小島龜一ノ報告誤　文部書記官

去月二十五日本欄電報通數及料金ノ項中七九一頁下段内地計ノ下内國ノ行「一、七二二五、四〇〇」ハ「一、七二二四、四〇〇」ノ報告誤　遞信書記官

地方行政

◎縣會　去月二十二日招集ノ臨時埼玉縣會ハ議事結了同二十五日閉會セリ（埼玉縣）◎同二十日招集ノ臨時秋田縣會ハ同二十四日閉會セリ（秋田縣）◎同十八日招集ノ臨時島根縣會ハ同二十二日閉會セリ（島根縣）

◎府會議員辭職　京都府ニ於テ府會議員浦野隱直ハ去月二十二日辭職セリ（京都府）

◎名譽職縣參事會員補闕　愛媛縣ニ於テ名譽職參事會員高橋英吉辭職ニ付去月二十五日同補充員三好庄太郎ヲ以テ補闕セリ（愛媛縣）

在外公館報告

◎英國商況　本件ニ關スル去月二十六日著倫敦駐在松山商務參事官電報左ノ如シ（外務省）

割引市場手形出廻リ良好ニ堅調爲替ハ内閣改造總選擧來等ノ流說再燃ヲ映シ磅稍ゝ不勢金本位貨中「ギルダー」ハ底流依然不安ナカラ目先見直リ氣味ニテ瑞西法ノ動向專ラ注視セラル銀市場米國銀政策ニ挑ミ支那筋思惑ニ殺到シ市場提供品拂底一九二五年十一月以來ノ新値三十一片十六分ノ十一ニ棒上シタル四月二十五日ニハ米國買入レ値段引上ノ報ニ更ニ三十四片迄ニ狂騰

鐵鋼界休暇氣分ニテ閑散

銅 Riotinto Company 總會ニ於テ Sir Auckland Geddes ハ還銀ノ銅協定ノ效果トシテ南米及阿弗利加産銅ノ生産調節成リ又本年米國「ストック」ハ市場ヲ脅威スル程ニ大ナラス市價モ米國内消費モ多少好轉ノ兆アル故本年八―九月頃ニハ世界市場ハ整頓ヲ見米國以外ノ生産ハ略ゝ需給ニ調整セラレ値段恢復ヲ期待シ得ヘシト述ヘタリ

綿業界原棉先行ニ警戒シ註文見送リノ向多ク印度向指値安ニ商状冴エス支那筋ソト停頓

人絹英國三月生産ハ七十七萬封度ノ新記錄ニテ前年同期ニ比シ二百三十一萬封度增加況ハ取引緩慢ニシテ「ストック」多少增加ノ傾ナルカ天候恢復ト共ニ需要復活ヲ氣構フ輸出向新規入註漸ク活況ヲ呈セリ羊毛「クロスブレッド」製品輸出好調荷務ノ整理ニ急キ新商談增進ニ努力中鯨油 Viking Vestfold ノ捕鯨會社ハ今期生産ノ一萬五千噸ノ中一萬二千五百噸ヲ噸十四磅十志ニテ Unilever ニ供給シタル由

日本商品大手亡沈靜十一志鶉豆手堅ク九志六片大豆七磅七志六片大豆油二十二磅十五志何レモ小甘シ絹織物依然低調ニテ未タ本筋ノ商内ニ入ラス小賣方面モ天候不順ニテ捗々シカラス

觀象

◎全國氣象表（正午觀測）

（備考）氣溫ノ第一印ハ氷點下ノ度ヲ示シ降水量ハ前日午前六時ヨリ翌日午前六時迄ノ總量ナリ

四月二十六日

地名	氣壓（粍）	風向	風速（米）	天氣	氣溫（度）	降水量（粍）
臺北	756.5	北西	2	[illegible]	27	—
那覇	756.8	南西	6	[illegible]	25	—
鹿兒島	759.5	北東	3	[illegible]	23	—
大分	760.3	北東	4	[illegible]	22	—
多度津	760.1	北北東	1	[illegible]	21	—
大阪	760.7	[illegible]	[illegible]	[illegible]	18	—
長野	758.2	[illegible]	8	[illegible]	22	—
[illegible]	758.5	南南東	3	[illegible]	24	—
名古屋	761.0	南南西	3	[illegible]	24	—
横濱	760.2	南南西	5	[illegible]	23	—

第2495号 本文

東京	760.4	南	6	21	晴	—
銚子	760.7	南南西	10	19	快晴	—
長野	758.2	靜穩	1	24	晴	—
前橋	759.1	東南東	5	25	烟霧	—
宇都宮	758.5	南	4	24	快晴	—
福島	759.0	西南西	4	27	快晴	—
福井	759.5	南西	2	27	薄曇	—
新潟	760.7	西	2	19	快晴	—
秋田	761.8	南南西	4	15	曇	—
石巻	759.5	南東	3	19	曇	—
盛岡	759.7	西	5	20	曇	—
青森	761.4	北西	4	11	曇	—
函館	761.3	南南東	3	11	薄曇	—
札幌	761.2	北北西	3	13	薄曇	・2
旭川	760.5	北北東	2	13	薄曇	1
根室	762.3	南	7	9	快晴	—
大泊	762.5	南東	6	6	曇	—
釜山	757.7	南西	12	18	曇	—
仁川	754.8	南	9	20	黃沙	1
元山	752.8	南	3	24	曇	11
城津	754.3	靜穩	1	9	曇	7
新義州	750.6	南	8	15	曇	—
大連	748.4	南西	10	18	曇	—
奉天	751.1	北西	13	4	雨	6
新京	745.2	西	6	9	雨	14
天津	753.5	北北西	12	13	黃沙	—
青島	751.0	南南東	9	14	霧	1
上海	755.7	南	4	22	快晴	—

◎東京氣象

四月二十六日　天氣概況　晴一時曇

平均氣壓（海面ノ度）	七六〇・六粍	平均水蒸氣張力	一一・三粍
平均氣溫	一七・四度	平均雲量	四・三
平年ヨリ二・九度高シ		日照時間	一〇・五時
最高氣溫	二三・〇度	平均風速度	四・〇米
最低氣溫	一一・一度	最大風速度	九・六米
前五日間平均氣溫	一六・八度	最多風向	南
平年ヨリ二・八度高シ		降水總量	—
平均濕度	七六％	一時間最大降水量	—
記事	—		

（以上中央氣象臺）

土地收用公告

昭和十年三月十二日內閣ノ認可ニ係ル大津市長ニ於テ執行スヘキ大津都市計畫街路事業ノ內昭和十年度街路新設擴築ノ爲收用スヘキ土地細目左ノ如シ

昭和十年五月一日　滋賀縣知事　村地信夫

土地細目

滋賀縣大津市石山鳥居川町字神殿田宅地二三一番ノ四、二三二番ノ一、二三三番ノ一、二三四番ノ八、田二三四番ノ九、宅地二三五番ノ二、二三六番ノ二、三四〇番ノ四、田三四一番ノ三、宅地三四一番ノ二、三四二番ノ一、三四二番ノ二、田三四三番ノ二、同市同町字北田田一番、宅地三番ノ五、四番ノ二、田五番、宅地六番ノ三、田七番、宅地一一四番、一一五番

廣告

◎高等試驗行政科本試驗公告

高等試驗行政科本試驗ノ筆記試驗左ノ通施行ス

一本試驗筆記試驗ノ期日

必須科目

	午前	午後
六月十四日（金）	憲法	行政法
同　十五日（土）	民法	經濟學

選擇科目

	午前	午後（第一）	午後（第二）
六月十七日（月）	刑法	刑事訴訟法	哲學概論
同　十八日（火）	國際公法	商法	倫理學
同　十九日（水）	財政學	商業政策	論理學
同　二十日（木）	民事訴訟法	農業政策	心理學
同二十一日（金）	工業政策	社會政策	社會學
同二十二日（土）	政治學	國史	國文及漢文
同二十四日（月）	政治史	經濟史	

一試驗ノ場所

東京市麴町區內幸町貴族院及衆議院內高等試驗場

一受驗者ハ必須科目（六月十四日及十五日）受驗ノ場合及選擇科目（六月十七日乃至二十四日）中午前ノ科目受驗ノ場合ハ午前八時迄ニ、選擇科目（六月十七日乃至二十四日）中午後第一ノ科目受驗ノ場合ハ午前十一時半迄ニ、午後第二ノ科目受驗ノ場合ハ午後二時迄ニ貴族院通用門ヨリ試驗場ヘ出頭セラルヘシ

一受驗者ハ左ノ事項ヲ承知セラルヘシ

（一）洋服又ハ袴ヲ著用シ「ペン」及「インキ」（又ハ筆及墨池）、錐、辨當ヲ携帶スルコト

（二）出頭ノ節ハ各自受驗票番號ヲ記入シタル名刺ヲ受付ヘ差出スコト

（三）控所ノ掲示ニ注意スルコト

昭和十年五月

高等試驗委員長　金森德次郞

◎高等試驗司法科本試驗公告

高等試驗司法科本試驗ノ筆記試驗左ノ通施行ス

一本試驗筆記試驗ノ期日

	午前	午後（第一）	午後（第二）
六月二十五日（火）	憲法	民法	倫理學
同　二十六日（水）	商法	刑法	心理學
同　二十七日（木）	刑事訴訟法	民事訴訟法	國史
同　二十八日（金）	行政法	破產法	國文及漢文
同　二十九日（土）	國際私法	經濟學	社會學
七月　一日（月）	國際公法	刑事政策	社會政策
同　二日（火）	哲學概論	論理學	

一試驗ノ場所

東京市麴町區內幸町貴族院及衆議院內高等試驗場

一受驗者ハ午前ノ科目受驗ノ場合ハ午前八時マテニ、午後第一ノ科目受驗ノ場合ハ午前十一時半マテニ、同第二ノ科目受驗ノ場合ハ午後二時マテニ貴族院通用門ヨリ試驗場ヘ出頭セラルヘシ

一受驗者ハ左ノ事項ヲ承知セラルヘシ

（一）洋服又ハ袴ヲ著用シ「ペン」及「インキ」（又ハ筆及墨池）、錐、辨當ヲ携帶スルコト

（二）出頭ノ節ハ各自受驗票番號ヲ記入シタル名刺ヲ受付ヘ差出スコト

（三）控所ノ掲示ニ注意スルコト

昭和十年五月

高等試驗委員長　金森德次郞

◎大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗公告

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ノ筆記試驗左ノ通施行ス

一筆記試驗ノ期日

	午前	午後（第一）	午後（第二）
七月三日（水）	憲法	民法	倫理學
同　四日（木）	商法	刑法	心理學
同　五日（金）	刑事訴訟法	民事訴訟法	國史
同　六日（土）	行政法	破產法	國文及漢文
同　八日（月）	國際私法	經濟學	社會學
同　九日（火）	國際公法	刑事政策	社會政策
同　十日（水）	哲學概論	論理學	

一試驗ノ場所

東京市麴町區內幸町貴族院內高等試驗場

一受驗者ハ午前ノ科目受驗ノ場合ハ午前八時マテニ、午後第一ノ科目受驗ノ場合ハ午前十一時半マテニ、同第二ノ科目受驗ノ場合ハ午後二時マテニ貴族院通用門ヨリ試驗場ヘ出頭セラルヘシ

一受驗者ハ左ノ事項ヲ承知セラルヘシ

（一）洋服又ハ袴ヲ著用シ「ペン」及「インキ」（又ハ筆及墨池）、錐、辨當ヲ携帶スルコト

（二）出頭ノ節ハ各自受驗票番號ヲ記入シタル名刺ヲ受付ヘ差出スコト

（三）控所ノ掲示ニ注意スルコト

昭和十年五月

高等試驗委員長　金森德次郞

◎船舶職員試驗

本月九日和歌山縣東牟婁郡勝浦町勝浦漁業組合事務所ニ於テ左ノ種類ニ限リ臨時試驗ヲ執行ス志願者ハ受驗申請書ヲ大阪遞信局長宛同局海事部ヘ提出スヘシ

沿岸丙種運轉士　沿岸發動機船三等機關士

昭和十年五月　遞信省

◎指定運送取扱人變更

指定運送取扱人左ノ通變更セリ

昭和十年五月一日　鐵道省

驛名	商號及氏名
豫讃本線	
壬生川	壬生川運送合名會社
日豐本線	
椎田	椎田運送店井上九一郞
幌內線	
萱野	萱野運送社鵜飼荒吉

◎購買入札

一木綿襤褸（白上等）　十二万瓩

昭和十一年一月三十一日マテニ九回ニ標本ノ通王子分室內抄紙部納

入札、契約心得書及標本閲覽場所　當部

入札日時及場所　本月六日午前十時當部（即時開札）

入札保證金　見積代金ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

入札者資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ニ依ル資格證明書ヲ入札前ニ提出ノコト

昭和十年五月一日　內閣印刷局總務部

第一號	塊炭（甲）	二、三〇〇瓲	火工廠王子納
第二號	同（乙）	一、三〇〇瓲	
第三號	切込炭	二、六九〇瓲	
第四號	粉炭	一五、五〇〇瓲	
第五號	切込炭外一點（內譯書ノ通）		火工廠岩鼻納
第六號	粉炭	二、九〇〇瓲	
第七號	塊炭（乙）外一點（內譯書ノ通）		名古屋工廠熱田外一箇所納
第八號	粉炭	五、九〇〇瓲	名古屋工廠熱田納
第九號	同	一、九〇〇瓲	名古屋工廠千種納
第一〇號	粉炭外一點（內譯書ノ通）		火工廠宇治納
第一一號	塊炭（甲）	一二、〇〇〇瓲	大阪工廠河岸納
第一二號	粉炭	三六、〇〇〇瓲	
第一三號	粉炭外二點（內譯書ノ通）		火工廠忠海納
第一四號	塊炭（甲）（乙）（同）		小倉工廠納
第一五號	粉炭	一、〇〇〇瓲	
第一六號	コークス（乙）（丙）（內譯書ノ通）		火工廠王子外一箇所納
第一七號	同（同）		名古屋工廠熱田外一箇所納
第一八號	同（乙）	三、三〇〇瓲	大阪工廠納
第一九號	同（丙）	三、〇〇〇瓲	
第二〇號	同（乙）	一、五〇〇瓲	小倉工廠納
第二一號	同（丙）	三〇〇瓲	

入札場所　當廠會計部

公示書類　入札心得書、契約書案、內譯書等當廠會計部又ハ名古屋、大阪、小倉各工廠會計課ニテ熟覽ノコト

入札竝開札　本月十一日午前十一時入札、即時開札但シ郵便（電信入札妨ナシ

入札保證金　各自見積價格ノ百分ノ五以上

入札者資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ニ依ル資格證明書ヲ入札當日午前十時マテニ提出ノコト

昭和十年五月一日　陸軍造兵廠

一絹絲（十四手鐘紡、鶴鹿又ハ双鹿印）　百駄（一万八千瓩）
（一駄ノ衡量一八〇瓩以上）

一契約條項ヲ示ス場所　當所

一入札竝開札日時及場所　本月七日午後一時當所ニ入札書ヲ差出スヘシ即時開札ス但シ郵便、電信入札差支ナシ

一入札保證金　各自見積價格ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

一入札資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ノ資格證明アル者ニ限ル

昭和十年五月一日　小菅刑務所

一玄稞麥（十立ノ衡量七一〇〇瓦以上）　十万瓩　當所納

一契約條項ヲ示ス場所　當所

一入札竝開札日時及場所　本月十一日午後一時當所ニ入札書ヲ差出スヘシ即時開札ス但シ郵便、電信入札差支ナシ

一入札保證金　各自見積價格ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

一入札資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ノ資格證明アル者ニ限ル

昭和十年五月一日　大阪刑務所

一ボックス革一〇、〇〇〇粉外十七點

一契約條項ヲ示ス場所　當所

一入札竝開札日時及場所　本月十一日午前十時各號每ニ當所ニ入札書ヲ差出スヘシ即時開札ス但シ郵便、電信入札差支ナシ

一入札保證金　各自見積價格ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

一入札資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ノ資格證明アル者ニ限ル

昭和十年五月一日　名古屋刑務所

一、品名數量
菊倍判西洋紙（五十六斤）　一〇〇卷

二、納入場所　東京市芝公園十三號地當局印刷係

三、入札及開札日時　本月六日午前十一時限入札、即時開札

一、品名數量　鹽化アンモン　二四、〇五〇瓩

二、納入場所　東京市內又ハ隣接町村內ニ於テ遞信省ノ指示スル所

三、入札及開札日時　本月十日午前十一時限入札、即時開札

四、入札場所　當局需品課購買係

五、契約事項閲覽場所　同係

六、入札保證金額及納付日時　見積入札價格ノ百分ノ五以上、入札當日午前十時限

七、入札者資格　大正十一年大藏省令第三十三號ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

昭和十年五月一日　遞信省經理局

一封緘糸大二、二〇〇玉外三點　大阪納

一入札竝開札　本月六日午前十一時入札、即時開札

一入札場所　當局購買課

一公示書類　同課ニテ熟覽スヘシ

一入札保證金及納付期限　見積價格ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）、入札當日午前十時三十分限

一入札者資格　大正十一年大藏省令第三十三號ノ資格ヲ具フルヲ要ス

昭和十年五月一日　大阪遞信局

一、品名
第一號　硫酸銅　四万瓩
第二號　錫外一點
第三號　一・四粍線　マッキンタイヤスリーブ外四點
第四號　二〇號二一〇〇鍍管外十六點

二、納入場所　仙臺市東六番町倉庫

三、入札及開札日時　本月十一日午前十一時限入札、即時開札

四、入札場所　當局經理課

五、契約事項閲覽場所　同係

六、入札保證金及其納付日時　見積入札價格ノ百分五以上、入札當日午前十時三十分限

七、入札資格　大正十一年大藏省令第三十三號ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

昭和十年五月一日　仙臺遞信局

◎賣拂入札

一硬銅線屑外二點

一入札竝開札　本月六日午前十一時入札、即時開札

一入札場所　當局工務課大津出張所

一公示書類　同局購買課及大津出張所ニテ熟覽スヘシ

一入札保證金及納付期限　見積價格ノ百分ノ十以上（圓未滿切上ク）、入札當日午前十時三十分限

一郵便入札差支ナシ（遞信省入札者規程參照）

昭和十年五月一日　大阪遞信局

◎商業登記

◎琿春興產株式會社變更

一昭和十年三月三日目的ヲ左ノ如ク變更ス

一目的
一貸付
二預金
三委託販賣購入
四別ニ定ムル規定ニ依リ會員ヲ募リ積立金ヲ利殖シ又ハ相互ノ融通共濟ヲ圖ルコト
五兩替

右昭和十年三月十六日登記

◎琿春畜產株式會社變更

一昭和十年三月二十五日目的ヲ左ノ如ク變更ス

一目的
一畜牛ノ貸付竝ニ飼育
二畜牛ノ改良增殖
三其他家畜ノ改良竝ニ增殖
四其他右ニ關スル附帶事業
五凍豆腐製造及販賣
六清涼飲料水製造及販賣
七罐詰製造及販賣

右昭和十年四月一日登記

◎琿春畜產株式會社變更

一昭和十年三月二十五日各株ニ付拂込ミタル株金額ヲ左ノ通リ變更ス

各株ニ付拂込ミタル株金額　金十八圓七十五錢

右昭和十年四月八日登記

在間島日本帝國總領事館琿春分館

◎共榮商事合資會社更正

昭和十年二月二十二日錯誤發見ニ因リ無限責任服部近治ノ住所ヲ濱名郡蒲池村蒲池八百五十五番地ト有限責任服部浦治ノ住所ヲ同所同番地ト各更正ス

◎原商品委託株式會社變更

監査役大石茂作鈴木由太郞ハ昭和十年二月十五日重任ス

右昭和十年二月二十二日登記　沼津區裁判所

◎合資會社清水館解散竝淸算人選任

昭和十年三月三日總社員ノ同意ニ因リ解散ス

淸算人ノ氏名住所　田方郡熱海町熱海九百八十二番地　靑木はる

右昭和十年三月四日登記　沼津區裁判所熱海出張所

◎里和製紙株式會社變更（支店）

昭和十年二月二十五日一株ニ付金十二圓五十錢宛拂込結了シタルニツキ各株拂込額ヲ左ノ通リ變更ス

各株拂込額　金二十五圓

右昭和十年三月四日登記　吉原區裁判所

第2495号　本文

第2495号 本文

●太鄕製材株式會社變更
監査役山下八十吉淸水福次郎ハ昭和十年二月十七日重任ス
右昭和十年三月四日登記　下田區裁判所

●商號　株式會社小田善商店
本店　京都市中京區錦小路通烏丸西入占出山町三百六番地
目的　呉服綿織物毛織物類及ヒ其附屬品ノ製造加工竝ニ賣買業
設立ノ年月日　昭和十年一月四日
資本ノ總額　金十万圓
一株ノ金額　金五十圓
公告ヲ爲ス方法　本店ノ店頭ニ掲示シテ之ヲ爲ス
各株ニ付キ拂込ミタル株金額　金二十五圓
取締役ノ氏名住所
小田善之助　住所本店ニ同シ
小田忠之助　同所
小田彌一郎　同所
代表取締役ノ氏名　小田善之助
監査役ノ氏名住所　坂東新一　京都市中京區室町通三條下ル烏帽子屋町四百八十六番地

●合資會社川新變更
昭和十年一月二日無限責任社員川瀨俊造ハ自己出資持分ヲ四千四百圓ニ減少ス

●合資會社白木商店解散
昭和九年十二月三十一日總社員ノ同意ニ因リ解散ス

●合資會社設立
商號　合資會社三光堂赤尾商會
本店　京都市下京區八條西酢屋町五番地
目的　南米貿易藥品衛生材料ノ販賣竝ニ化粧品類ノ製造販賣有價證券賣買土地家屋ノ賣買金融保險代理竝ニ之レニ附隨スル業務
設立ノ年月日　昭和九年十二月三十一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
金二千圓　一勞務　無限　赤尾龍太郎　住所本店ニ同シ
勞務信用一戸棚外二百四十八點此價格金一千五百圓　無限　赤尾雄吉
金五百圓　有限　赤尾庸吉　同所
金五百圓　有限　赤尾文吉　同所
金五百圓　有限　梅田太一郎　同町十八番地
存立ノ滿期　設立ノ日ヨリ向フ二十箇年

●商號　合資會社エスエヌ商會
本店　京都市下京區西木屋町正面下ル八王寺町六番地ノ二
目的　硫酸其ノ他工業用藥品及之ニ附帶スル物品ノ販賣ヲ營ム
設立ノ年月日　昭和九年十二月六日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
金一千圓　無限　杉山親枝　京都府南桑田郡龜岡町字内丸一番地
金一千圓　有限　野口友吉　京都市下京區西木屋町正面下ル八王寺町百六番地
存立時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年間

●商號　合資會社近新商店
本店　京都市右京區西院三藏町三十番地
目的
一　醬油釀造及販賣
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
金六万七千圓　無限　井口猶之助　京都市中京區蛸藥師通河原町東入備前島町三百九番地
金六千圓　有限　井口きぬ　同町三百十番地
金一万七千圓　無限　井口光郎　同市中京區河原町通蛸藥師下ル鹽屋町三百二十三番地
金一万圓　無限　井口彌一郎　同市上京區中立賣通堀川東入東橋詰町六十六番地
代表社員ノ氏名　井口猶之助

●商號　合資會社見延商會
本店　京都市下京區御幸町通松原下ル須濱町六百四十七番地
目的　小間物製造販賣及ヒ之レニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
金九百圓　無限　見延貞作　住所本店ニ同シ
金二千三百圓　有限　見延澧藏　同所
金九百圓　有限　見延すゑの　同所
金九百圓　有限　見延もとへ　同所
存立時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年

●商號　合資會社宮島商店
本店　京都市下京區坊城通五條下ル前田町九番地
目的　織物見本帳竝ニ各種紙製品製造販賣竝ニ之ニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和九年十二月三十一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
一勞務　金一千圓　無限　宮島宇之助　京都市下京區東洞院通上珠數屋町下ル筒金町五十三番地
金二千五百圓　有限　宮島富藏　同所
金二千五百圓　有限　宮島勝一　同所
存立時期　定款作成ノ日ヨリ滿二十箇年間

●合名會社岡本利商店變更
昭和十年一月一日社員岡本利三郎ハ出資增加ニ因リ出資額ヲ金四万九千二百圓ト變更ス

●合名會社八木喜作染工場變更
昭和十年一月十日社員八木喜作ハ出資增加ニ因リ出資額ヲ金一万四千五百圓ト變更ス

●合名會社小澤機業店解散
昭和十年一月四日總社員ノ同意ニ因リ解散ス

●合名會社設立
商號　合名會社寺村久商店
本店　京都市上京區柴竹桃ノ本町三十五番地
目的　薪炭和洋酒醬油ノ販賣及之レニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　寺村久吉
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
一金三千二百圓　寺村久吉　住所本店ニ同シ
一金九百圓　寺村久治郎　同所
一金九百圓　寺村留太郎　同所
存立ノ時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年

●商號　合名會社遠藤機械製作所
本店　京都市下京區佛光寺通鉄屋町西入佛光寺東町百三十三番地
目的
一　機械製造業
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金八百圓　遠藤森太郎　住所本店ニ同シ
金三千二百圓　遠藤紋次良　同所
代表社員ノ氏名　遠藤森太郎

●商號　合名會社千惠藏映畫撮影所
本店　京都市右京區嵯峨野秋街道町二十五番地
目的
活動寫眞映畫ノ製造
活動寫眞映畫ノ錄音
以上ニ附帶セル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
一撮影器一式
一錄音器(塚越式)一式
一撮影用照明器一式
一未完成トーキー映畫
「利根ノ川霧」仕掛フイルム此價格金五万圓
植木正義　京都市右京區嵯峨有栖川町二十二番地ノ一
金一万圓　曾我正夫　同市同區嵯峨野嵯峨ノ段町三十三番地ノ一

●商號　合名會社坂宇商店
本店　京都市下京區岩上通佛光寺下ル酒屋町四百四十四番地
目的
一　黑染物業
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
代表社員ノ氏名　坂本宇三郎
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金三千五百圓　坂本宇三郎　住所本店ニ同シ
金五百圓　坂本滿七　同所

●商號　合名會社そろばんや
本店　京都市中京區三條通寺町東入石橋町二十五番地
目的
一　算盤竝ニ新刊書籍雜誌ノ販賣
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
代表社員ノ氏名　山本正三
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金九千圓　山本末吉　京都市中京區新京極通錦小路下ル中之町五百四十九番地
金五百圓　山本正三　住所本店ニ同シ
金五百圓　山本キヌ子　同所

●商號　合名會社北川右一商店
本店　京都市東山區五條橋東二丁目二十番地
目的
一　衣服竝ニ子供服ノ販賣
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金一万圓　北川右一　住所本店ニ同シ
金五百圓　北川リキ子　同所

●商號　合名會社中野商店
本店　京都市下京區五條通高倉西入萬壽寺町百五十番地
目的
一　綿布洋反物雜貨ノ販賣
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　小野利右衞門
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金一万五千圓　中野利右衞門　滋賀縣愛知郡愛知川町大字愛知川千五百九十五番地
金五百圓　中野義三　住所本店ニ同シ

●商號　合名會社井上光照堂
本店　京都市下京區四條通柳馬場東入立賣東町四番地
目的　三、五月節句人形ノ製造販賣
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　井上健三
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金九千二百圓　井上健三　住所本店ニ同シ
金八百圓　井上美津　同所
存立ノ時期　定款作成ノ日ヨリ滿二十箇年

●商號　松家合名會社
本店　京都市中京區西ノ京北聖町六十六番地
目的
一　石炭コークス及木炭ノ販賣
二　右ニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日

代表社員ノ氏名　松家昇次
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金八千圓　松家昇次　住所本店ニ同シ
金一千五百圓　松家俊夫　同所
金五百圓　松家ハツノ　同所
存立時期　定款作成ノ日ヨリ滿十箇年

●商號　合名會社京都バウリスタ
本店　京都市上京區中立賣通六軒町西入三軒町六十五番地
目的
一　珈琲紅茶コ、ア原料ノ輸入竝ニ販賣
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　上田キヌ
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金三千一百圓　上田キヌ　住所本店ニ同シ
金九百五十圓　細野良一　同市上京區中立賣通七本松東入三軒町五十六番地
金九百五十圓　上田てる　住所本店ニ同シ
存立ノ時期　設立ノ日ヨリ向フ二十箇年

●商號　合名會社西村友仙工場
本店　京都市右京區西院平町三番地ノ一
目的
一　友仙染加工業
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　西村英一
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金四千二百圓　西村英一　京都市中京區壬生松原町三十八番地ノ一
金八百圓　宇留野幸一　同所
存立ノ時期　設立ノ日ヨリ向フ滿二十箇年

●商號　合名會社金久保染工場
本店　京都市右京區山ノ内苗町一番地
支店　同市中京區西堀川通蛸藥師下ル四坊堀川町六百十五番地
目的
一　各種織物ノ染色業
二　右ニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　金久保伊兵衞
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金四千圓　金久保伊兵衞　住所本店ニ同シ
金九百圓　岡村伊作　同所
金五百圓　金久保正治　住所支店ニ同シ

●商號　合名會社大阪屋モスリン店
本店　京都市中京區寺町通三條上ル天性寺前町五百三十番地
目的
一　呉服洋反物ノ販賣
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　幸田利一
社員ノ住所氏名出資ノ種類價格
一金九千五十圓　幸田利一　住所本店ニ同シ
一金九百五十圓　幸田ミツ　同所
存立ノ時期　設立ノ日ヨリ向フ二十箇年

●商號　合名會社石田米穀店
本店　京都市上京區升形通出町西入二神町百七十六番地
目的　一切ノ米穀其他諸穀類ノ販賣竝ニ之ニ附帶スル業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　石田源太郎
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金三千圓　石田源太郎　住所本店ニ同シ
金一千圓　竹本武一　同市東山區山科北花山市田町十三番地

●商號　合名會社京一屋商店
本店　京都市中京區新京極通三條下ル櫻之町三百九十六番三百九十七番合地
目的　玩具ノ販賣竝ニ之レニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　飯田乙四郎
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金三千五百圓　飯田乙次郎　住所本店ニ同シ
金五百圓　飯田加代　同所

●商號　林證券合名會社
本店　京都市下京區五條通烏丸東入長刀鉾町二十五番地ノ一
目的
一　有價證券ノ賣買
二　有價證券ノ委託賣買
三　前記營業ニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　林捨次郎
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
一金一万五千圓　林捨次郎　京都府乙訓郡乙訓村大字長法寺小字山ノ下十二番地
一金一万五千圓　脇野信雄　奈良市法蓮町千二百七十三番地
存立ノ時期　設立登記ノ日ヨリ滿十箇年

●商號新設
商號　豆仁組運送店
營業所　京都市下京區梅小路通黑門東入古御旅町二百八番地
目的
一　運送業
二　右ニ附帶スル一切ノ業務
商號使用者ノ氏名住所　田中捨吉　住所營業所ニ同シ
右昭和十年一月十五日登記

●朝鮮物産株式會社本店移轉
昭和十年一月十日本店ヲ京都市下京區東九條石田町三十九番地ニ移轉ス

●織物商業株式會社變更
昭和十年一月五日本店ヲ京都市中京區東洞院通三條下ル三文字町二百十一番地ニ移轉ス
同月十日取締役杉浦喜平ハ京都市左京區下鴨芝本町十番地ニ轉任ス

●株式會社第一銀行變更(支店)
昭和十年一月一日取締役野口弘毅監査役西園寺龜次郎ハ辭任ス

●株式會社廐島撚絲工場變更
昭和九年十二月二十四日取締役千葉順一菅富太郎渡部重雄ハ重任及前記三名ハ代表取締役ニ重任ス
同日左ノ者取締役ニ就任ス
西岡啓二　神戸市葺合區上筒井通六丁目十一番地ノ一

●北川友仙株式會社變更
昭和九年十二月三十日取締役北川淸吉北川惠一長島幸太郎代表取締役北川淸吉監査役阿保宗三郎北川せみ高島金兵衞ハ各重任ス
同日取締役北川せみハ退任ス

●合資會社二共貿易商會淸算結了
昭和十年一月十四日淸算結了ス

●合資會社西直商店變更
昭和十年一月四日無限責任社員柴山德藏ハ出資額ヲ金三万三千圓ト變更ス
同日有限責任社員西村岩次郎ハ出資額ヲ金三万二千圓ニ同伊藤直三郎ハ金五千圓ニ變更ス

●合資會社織商商店
昭和十年一月八日有限責任社員織物商業株式會社ハ住所ヲ京都市中京區東洞院通三條下ル三文字町二百十一番地ニ移轉ス
同月十日無限責任社員杉浦喜平ノ住所ヲ京都市左京區下鴨芝本町十番地ニ移轉ス

●合資會社設立
商號　小西製紐所合資會社
本店　京都市上京區大宮通上長者町下ル藤五郎町五百九十八番地
目的
一　絲紐物製造販賣業
二　之ニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月三日
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任
金一万二千三十圓　無限　小西虎之助　住所本店ニ同シ
金九百九十圓　有限　小西小梅　同所
金九百九十圓　有限　小西良造　同所六百六番地
金九百九十圓　有限　中村弘吉　同市同區笹屋町通淨福寺西入笹屋町二町目
存立時期　設立ノ日ヨリ滿二十箇年

●合名會社奧田甚商店
昭和十年一月十五日社員奧田甚五郎ハ出資增加ニ因リ出資額ヲ金五千九百圓ト變更ス

●合名會社荻乃家變更
昭和十年一月五日社員荻山滿津ハ出資ヲ減少シ出資額ヲ金七千圓也及什器竝ニ設備アンモニヤ式冷藏庫外百五十六點竝ニ一切ノ設備此價格金一万四千四百圓ト變更ス

●合名會社佐倉桐材店變更
昭和十年一月五日社員富山新之助ハ自己出資持分全部ヲ左ノ者ニ讓渡退社ス
同日右讓受ケニ依リ左ノ者入社ス
彝外四十五點此價格金一千五百圓也　佐倉とゑ　京都市中京區東堀川通丸太町下ル七丁目五番地

●合名會社設立
商號　合名會社前田錦華堂
本店　京都市右京區谷口梅津間町十九番地
目的
一　西陣織物綴錦製造販賣
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月十一日
代表社員ノ氏名　前田敬三
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金三千五百圓　前田敬三　住所本店ニ同シ
金五百圓　前田千代　同所
存立ノ時期　本定款作成ノ日ヨリ滿二十箇年

●商號　合名會社長尾友禪工場
本店　京都市下京區東九條松ノ木町六十番地
目的
一　友禪染
二　右ニ附帶スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月二日
代表社員ノ氏名　長尾粂二郎
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金三千五百圓　長尾粂二郎　住所本店ニ同シ
金五百圓　長尾ツル　同所

●商號　合名會社杉山彌吉商店
本店　京都市下京區室町通五條上ル阪東屋町二百六十四番地
目的
一　染呉服卸商
二　右ニ附隨スル一切ノ業務
設立ノ年月日　昭和十年一月一日
代表社員ノ氏名　杉山彌吉
社員ノ氏名住所出資ノ種類價格
金五万九千圓　杉山彌吉　住所本店ニ同シ
金五百圓　杉山さぬ　同所
金五百圓　深尾知三郎　同所
右昭和十年一月十六日登記　京都區裁判所

◎ 產業組合登記

●有限責任三崎信用販賣購買組合變更
一理事阿部芳三郎ハ昭和十年二月十六日辭任シ左記ノ者同年二月二十一日理事ニ就任ス
杉山重一　西宇和郡三崎村大字三崎二千三十四番地
一監事櫻井竹久清水岩吉谷村甚太郎ハ昭和十年二月二十一日重任ス
昭和十年三月一日登記　八幡濱區裁判所三崎出張所

●保證責任上波佐見村信用購買販賣利用組合(變更)
一昭和十年二月二十七日名稱ヲ左ノ通リ變更ス
保證責任上波佐見町信用購買販賣利用組合
右昭和十年三月二日登記　大村區裁判所川棚出張所

●西彼杵郡黒瀨村本郷寺島郷間瀨郷德萬郷蛤郷漁業組合變更
一監事任期滿了ノ處昭和十年一月二十五日總會ニ於テ中尾好吉森八十太再選重任ス
右昭和十年三月二日登記　佐世保區裁判所面高出張所

●有限責任朝倉村信用購買販賣利用組合變更
監事任期滿了ニ因リ昭和十年一月三十日七熊新右衞門ハ重任シ同日左ノ者新ニ監事ニ就任ス
久保山馬太郎　朝倉郡朝倉村山田千二百六十六番地
藤井梅吉　同郡同村菱野千百四十九番地
林　磯作　同郡同村古毛二千五百二十二番地
古賀英祐　同所千七百二十一番地
昭和十年三月二日登記　甘木區裁判所志波出張所

●有限責任上穗波信用購買販賣組合變更
昭和十年二月十二日目的中左ノ五六ヲ追加シ名稱ヲ左ノ通リ變更ス
目的
五組合員ヲシテ產業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト
六農業倉庫業法ニ依リ農業倉庫ノ經營ヲ爲スコト
名稱　有限責任上穗波信用購買販賣利用組合
右昭和十年三月二日登記　飯塚區裁判所上穗波出張所

●有限責任吉井信用組合變更
一理事石井仙市ハ昭和九年十二月二十五日辭任シ同日左記ノ者新ニ理事ニ就任ス
一木鶴七　福岡縣浮羽郡吉井町千三百四十四番地
一監事一木鶴七ハ同日辭任シ同日左記ノ者新ニ監事ニ就任ス
石井仙市　福岡縣浮羽郡吉井町千四百二十九番地ノ七
島越　寧　同所千三百七十二番地
右昭和十年三月一日登記　吉井區裁判所

●有限責任柳河町信用組合變更
一昭和十年二月二十六日認可ニ因リ目的ニ左ノ一項ヲ追加シ名稱ヲ左ノ通リ變更ス
目的　三組合員ノ委託ヲ受ケ其ノ生產シタルモノヲ販賣スルコト
名稱　有限責任柳河町信用販賣組合
昭和十年三月二日登記　柳河區裁判所

●有限責任東山村信用購買販賣組合變更
一昭和十年二月一日認可ニ依リ左ノ通リ變更ス
一目的ニ左ノ一項ヲ追加ス
組合員ヲシテ產業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト
一名稱　有限責任東山村信用購買販賣利用組合

●產業組合設立
一名稱　保證責任瀨高畜牛販賣購買利用組合
一組織　保證責任
一事務所　山門郡瀨高町小川六百五十二番地
一目的　本組合ハ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス
一組合員ノ生產シタル畜產物ヲ買取リ又ハ委託ヲ受ケ之ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ販賣スルコト
二畜牛及養牛ニ必要ナル物品ヲ買入レ之ヲ組合員ニ賣却スルコト
三組合員ヲシテ種牛及畜牛飼養場並ニ乳產製造器具機械ヲ利用セシムルコト
一設立許可ノ年月日　昭和九年十二月二十日
一出資一口ノ金額　金五十圓
一出資拂込ノ方法
一出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金十圓以上トス組合員ハ前項ノ金額ヲ超エテ任意ニ拂込ミヲ爲スコトヲ得
二第一回後ノ出資拂込金額ハ配當スヘキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノノ外出資一口每ニ每年十二月三十一日迄ニ金十圓以上宛拂込ムモノトス
一理事ノ氏名住所
山下小彌太　山門郡瀨高町小川六百五十二番地
江口松太郎　同所五百九十七番地
山下安市　同所六百一番地ノ二
山下光次郎　同所六百二番地
山下新太郎　同所六百六十一番地
一監事ノ氏名住所
古賀與三郎　山門郡瀨高町小川八百三十番地
山下鹿藏　同所五百七十三番地
山下七藏　同所六百六十番地
一存立ノ時期　十箇年
一區域　福岡縣山門郡瀨高町
右昭和十年三月二日登記　柳河區裁判所瀨高出張所

●保證責任東吉富信用購買販賣組合變更
一任期滿了ニ因リ理事矢頭軍司有本慶太郎是石慶之助高尾範治奧家喜十郎廣津七郎是石平藏ハ昭和十年二月二十三日理事ニ重任ス
一任期滿了ニ因リ監事向野澤治是石慶次郎太田辰五郎今西又一ハ同日監事ニ重任シ同日左記ノ者監事ニ就任ス
矢頭千代三郎　福岡縣築上郡東吉富村廣津二百五十八番地
昭和十年三月二日登記　行橋區裁判所垂水出張所

●有限責任下志士知信用購買販賣組合(變更)
監事二名任期滿了ニ付昭和十年一月二十一日豫選ノ結果野中當佐藤千秋ハ再選セラレ同月二十七日重任ス
右昭和十年三月一日登記　竹田區裁判所

●保證責任白山信用販賣購買利用組合變更
理事一名缺員監事ハ昭和十年一月九日全員任期滿了ニ付昭和十年一月二十七日左記ノ者新ニ理事ニ就任シ同日監事三浦宣正三代明光三浦靜夫ハ各重任ス
理事　首藤杉太郎　大分縣大野郡白山村大字中津留千八十六番地
右昭和十年一月二十七日登記　竹田區裁判所三重出張所

●有限責任大野町販賣購買利用組合解散
昭和二年二月十二日命令ニ因リ解散ス
右昭和十年三月一日登記　竹田區裁判所川中出張所

●保證責任山移信用販賣購買利用組合變更
一昭和九年六月三日ヨリ同年十二月三十一日迄ノ期間中新加入者アリ出資總口數拂込ミタル出資ノ總額ヲ左ノ通リ變更ス
出資ノ總口數　四百口
拂込ミタル出資ノ總額　金一千四百八十六圓
右昭和十年三月一日登記　中津區裁判所下郷出張所

●有限責任兩川村信用購買組合變更
昭和十年一月二十三日理事權藤保馬弓場百合松河野辰美井上良衞高窪新市川市作治ハ各々重任シ左ノ者新ニ理事ニ就任ス
權藤一郎　宇佐郡兩川村大字沖二百五番地
右昭和十年二月十六日登記

●保證責任佐田信用販賣購買利用組合變更
昭和十年二月五日理事佐藤勝教久恒重幸石川政夫佐藤久吉監事山口深ハ各々重任シ左ノ者理事及監事ニ新ニ就任ス
理事ノ氏名住所
小野四郎一　宇佐郡佐田村大字廣谷五百四番地
時枝　恩　同郡同村大字且尾二百六番地
河野　渉　同郡同村大字矢津百十九番地
石川伴六　同郡同村大字塔尾七十二番地
大隈多三郎　同郡同村大字佐田七百四十二番地
監事ノ氏名住所
佐藤義雄　宇佐郡佐田村大字笹ケ平六十番地
石田源十郎　同郡同村大字ロノ坪六百七十六番地
阿部　定　同郡同村大字佐田七百七十七番地
長尾三次　同郡同村大字久井田二百十九番地
右昭和十年三月二日登記　中津區裁判所安心院出張所

●有限責任馬見原信用組合組織變更
一昭和十年二月七日組織變更ニ因リ左ノ如ク變更セリ
名稱　保證責任馬見原信用組合
組織　保證責任
右昭和十年三月二日登記　御船區裁判所馬見原出張所

●有限責任吉利村信用販賣購買利用組合變更
一監事山下篤ハ昭和十年一月二十日辭任監事補缺ニ付左ノ者同日新ニ監事ニ就任ス
柚木園有吉　日置郡吉利村三百六十八番戸一號
右昭和十年三月二日登記　鹿兒島區裁判所伊作出張所

●有限責任飯牟禮信用販賣購買利用組合變更
一日置郡伊集院町古城千三十三番地西山愛助ハ昭和十年二月二十五日新ニ理事ニ就任ス
右昭和十年三月一日登記　鹿兒島區裁判所伊集院出張所

●保證責任別府信用販賣購買利用組合變更
一監事補缺ニ付昭和十年二月十七日左ノ者新ニ監事ニ就任ス
中俣泰二　川邊郡枕崎町別府一萬百十九番地

●保證責任枕崎信用組合變更
一監事補缺ニ付昭和十年二月十五日左ノ者新ニ監事ニ就任ス
貴島勇熊　川邊郡枕崎町枕崎三千六百三十三番地
森　節義　同所三千二百十七番地

●保證責任枕崎漁業販賣購買利用組合變更
一理事山之內嘉也木原泰藏宮地覺太郎國見敬吉立石常次郎ハ昭和十年二月十八日重任ス
一監事今給黎友衞國見龜吉田代正盛ハ同日重任ス
右昭和十年三月二日登記　知覽區裁判所枕崎出張所

●無限責任安樂信用販賣購買組合變更
一理事竹之內榮藏ハ昭和九年十二月三十一日其住所ヲ囎唹郡志布志町安樂千百三十四番地ト變更ス
昭和十年二月二十三日登記　鹿屋區裁判所志布志出張所

●有限責任青島信用販賣購買組合變更
一監事關屋喜一湯地保平鈴木滿司田代猪平次松井通ハ昭和十年二月十九日孰モ重任ス
昭和十年三月二日登記　宮崎區裁判所青島出張所

●產業組合監事變更
一保證責任石垣信用販賣購買利用組合監事全員任期滿了ノ處總會ニ於テ山口盛包大濱當忠再選セラレ左記ノ者新ニ選擧セラレ昭和十年一月十日孰レモ就任ス
監事　豐川善司　八重山郡石垣町字登野城二百四十三番地
右昭和十年二月十八日登記　平良區裁判所八重山出張所

●無限責任岩出山信用販賣購買利用組合變更
一理事畑隆紀若松義質横田宣之助桑折武雄倉根嘉雄留ハ昭和十年二月十九日重任ス
昭和十年三月二日登記　古川區裁判所岩出山出張所

●有限責任宮澤村信用販賣購買利用組合變更
一昭和十年一月十五日主タル事務所ヲ左ノ地ニ移轉ス
栗原郡宮澤村豐岡字櫻ノ目下リ松六番地
右昭和十年三月二日登記　古川區裁判所高清水出張所

●無限責任片曾根信用購買組合變更
一理事任期滿了ノ處昭和十年二月二十四日全員再選重任ス
一監事任期滿了ノ處昭和十年二月二十四日全員再選重任ス
右昭和十年三月二日登記　郡山區裁判所三春出張所

●保證責任川尻信用購買組合變更
一理事監事任期滿了ニ付昭和十年一月二十一日選擧ノ結果理事熊澤金次郎小笠原五郎高橋運次郎監事高橋留一郎ハ各重任シ左ノ者新ニ就任ス
理事　高橋貞見　和賀郡湯田村五十五地割七十番地ノ三
同　照井源次郎　同郡同村七十四地割二十三番地
監事　高橋耕一郎　同郡同村四十三地割九十七番地
同　菅野吉次郎　同郡同村三地割四地割七十番地
昭和十年二月二十五日登記　花卷區裁判所澤內出張所

●保證責任塙川信用販賣購買利用組合(變更)
一理事松森長治外十名監事佐々木政綱外四名任期滿了ノ處昭和十年二月十八日理事ニ松森長治松森禮治藤島易三高杉清佐藤和市工藤千代治薩摩勝藏大和三治柴田三治郎鈴木清治郎監事ニ佐々木政綱小澤儀一郎松森武治佐藤利市再選重任シ左記ノ者新ニ理事監事ニ就任セリ
理事　松森嘉七　秋田縣山本郡塙川村塙字大信田五十八番地
監事　神馬多市　同縣同郡同村小牛森字森ノ城四番地
右昭和十年三月二日登記　能代區裁判所澤目出張所

●保證責任金田信用販賣購買利用組合變更
理事及監事任期滿了ノ處昭和十年二月十五日理事小野龍治郎佐藤長德工藤惣四郎駒井治五兵衞監事佐藤能吉佐藤德衞小野勝行ハ重任シ同日左記ノ者新ニ理事及監事ニ就任ス
理事　森內茂經　南津輕郡金田村大字金屋八十七番戸
同　山口長助　同所大字新屋町字村元三十七番地
監事　成田峯五郎　同所大字本平字下安原二十六番地
昭和十年三月一日登記　弘前區裁判所黑石出張所

●保證責任稻垣信用販賣購買利用組合變更
一理事全員任期滿了シ監事一名缺員ノ處昭和十年二月九日總會ニ於テ左記者選任同月二十三日就任ス
一理事　野宮圭助尾野好雄中島谷慶五郎齋藤豐吉佐々木慶藏鹿內武太郎奈丸谷正雄三上秀雄中村清行片山慶次郎長內長兵衞工藤浪四郎以上重任
一監事　三上唯一　西津輕郡稻垣村大字沼館字鶴喰二十三番地一號
右昭和十年三月一日登記　鰺ケ澤區裁判所稻垣出張所

●無限責任峰延信用購買販賣利用組合變更
昭和十年一月二十三日理事奧村祖父太郎死亡セリ
右昭和十年二月二十六日登記　岩見澤區裁判所美唄出張所

●保證責任美國信用購買販賣利用組合變更
昭和十年二月二十八日認可ニ因リ出資拂込方法ヲ左ノ如ク變更ス
一第一回後ノ出資拂込ハ配當スヘキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノノ外出資一口每ニ每年六月末日迄ニ金五圓以上宛トス
昭和十年三月二日登記　小樽區裁判所古平出張所

●有限責任東島牧村信用販賣購買利用組合(變更)
昭和九年十月二十一日決議ノ處昭和十年二月二十八日目的出資一口ノ金額出資拂込方法左ノ通リ變更セリ
一目的
四組合ノ委託ヲ受ケ其生產シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ販賣スルコト
五組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト
一出資一口金額　金三十圓
一出資拂込方法　出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金五圓以上トス第一回後ノ出資拂込ハ配當スヘキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノノ外出資一口每ニ每年三月及九月金二圓五十錢以上拂込ムモノトス
右昭和十年三月一日登記　壽都區裁判所永豐出張所

◎ 住宅組合登記

●有限責任エスエム住宅組合變更
一理事杉浦晋ハ昭和七年一月一日住所ヲ横濱市神奈川區栗田谷五三番地ト監事橋廣ハ同日住所ヲ横濱市神奈川區齋藤分町三二番地ト監事大谷文太郎ハ同日住所ヲ右同所同番地ト理事成井米次郎ハ昭和八年四月一日住所ヲ横濱市中區本牧和田三番地ト各變更シ理事成井米次郎ハ更ニ昭和九年六月八日同市同區間門町一丁目一〇七番地ニ移轉ス
右昭和十年二月十八日登記　横濱區裁判所

●住宅組合設立
名稱　有限責任向陽住宅組合
組織　有限責任
事務所　呉市長迫町百五番地
目的　住宅ノ建設又ハ購入ヲ爲シ之ヲ組合員ノ使用ニ供シ其所有權ヲ讓渡スルヲ目的トス
設立許可ノ年月日　昭和九年十一月十三日
出資一口ノ金額　一百圓
出資拂込ノ方法　出資第一回ノ拂込ハ一口金二圓トス
出資第二回以後ノ拂込ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ爲ス
一第二回拂込ハ借入金利子昭和十年三月末日迄ノ分ノミヲ三月二十五日迄
二第三回拂込ハ借入金利子昭和十年四月一日以降同年六月末日迄ノ利子ノミヲ同年同月二十五日迄
三第四回以後ハ出資金額及之ニ對スル利子相當額ノ合算額ヲ昭和十年七月ヨリ同二十年六月迄ノ月數ヲ以テ略々均等ニ分割シタル金額ヲ每月二十五日迄
尙前項ノ外臨時ニ出資ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ詳細ハ總會ノ決議ヲ經テ定款施行細則ニ於テ之ヲ定ム
理事ノ氏名住所
福井嘉一　呉市長迫町百五番地
山浦末三　呉市川原石町七十三番地
井尻一市　呉市東愛宕町十八番地
監事ノ氏名住所
岩本榮一　呉市宮原通六丁目六十一番地
小川義信　呉市伏原町二十八番地
存立ノ時期　設立ノ日ヨリ十箇年六箇月
區域　廣島縣呉市
昭和十年二月二十五日登記　呉區裁判所

第2495号本文

◎有限責任文字住宅組合變更
一理事野末明良同安藤利雄同山田義雄監事國弘鑑助同笹原吉藏ハ昭和十年一月三十一日重任ス

◎有限責任關和住宅組合變更
一理事堀重太郎同佐野昇一同萱島稲雄監事田中東雲同秋月淸房ハ昭和十年一月三十一日重任ス

◎有限責任友和住宅組合變更
一理事矢頭盛次同川島勝同德田敬五監事有村省三郎ハ昭和十年一月三十一日重任シ同日左ノ者監事ニ就任ス
永易秀一郎　門司市大字大里四千八百九十八番地
昭和十年三月二日登記　小倉區裁判所門司出張所

◎森林組合登記

◎南小町施業森林組合變更
一理事山口菊藏ハ昭和十年二月二十二日辭任シ其補缺トシテ左ノ者同月二十八日就任ス
山口佐三郎　安房郡主基村南小町八〇七番地
一監事任期滿了ノ同月二十八日左ノ者當選就任ス
安藤　淸十　安房郡主基村南小町一八八六番地
山口半治郎　同所四七九番地
昭和十年三月二日登記　北條區裁判所吉尾出張所

◎二子山施業森林組合變更
監事今井彌之吉ハ昭和十年二月二十五日退任シ同今井福重理事黑澤小市西澤淸美今井鹿三郎高橋茂作高橋作市ハ同日重任シ左記ノ者同日監事ニ就任ス
黑澤鎗治郎　多野郡中里村大字魚尾六百四番地
黑澤　たま　同所四百九十七番地
昭和十年三月一日登記　北甘樂區裁判所上野出張所

◎菖蒲澤土工保護森林組合變更
一監事山田新七足立龜太郎ハ昭和十年二月二十四日辭任シ同日臨時總會ニ於テ補缺選擧ノ結果左ノ者ヲ選任シ同日就任ス
監事　山田喜市　朝來郡生野町口銀谷二〇一七番地
同　中島秀吉　同郡同町同所一九九二番地
右昭和十年三月二日登記　豐岡區裁判所竹田出張所

◎上鍛冶屋造林保護土工森林組合變更
一監事草野茂森繁藏ハ昭和十年三月一日重任ス
昭和十年三月二日登記　大垣區裁判所多良出張所

◎東平施業土工森林組合變更
一理事及監事任期滿了ニ付改選ノ處理事山口長次郎林甚之助杉田久士松永藤右衞門末定文左衞門監事細川榮藏坂下惣太郎ハ昭和十年二月二十六日再選重任セリ
右昭和十年三月二日登記　福井區裁判所鶉出張所

◎川尻施業森林組合變更
一理事藤本良晃藤川淸槌福井仙槌監事片渡市次角多作ハ昭和十年二月十一日重任ス
昭和十年二月二十三日登記　岩國區裁判所

◎天貫川土工森林組合變更
一費用分擔方法ヲ所有森林ノ等級ニ應シ面積ニ比例シテ之ヲ定ムルモノトス等級ハ林道ニ依リテ受クル利益程度ニ依リ十一等ニ分チ之ヲ定ムルモノトスト變更
昭和十年三月二日登記　大洲區裁判所

◎津野施業土工森林組合變更
一理事全員任期滿了ノ處昭和十年二月十八日左記
宮崎　作七　田川郡津野村七百六十四番地
熊谷　蕃　同所二千二百四十八番地
園田　康種　同所千九百九番地
園田福太郎　同所千九百二十七番地
高瀨　恒治　同所五千九百二十五番地
有川　議　同所六千二百三十三番地
白川　樂藏　同所六千五百二十六番地
高尾　梅吉　同所六千六百五十五番地
白石　貞三　同所六千八百十四番地
高尾　淸二　同所七千七番地
山本文治郎　同所七千六百五十五番地
ハ再選重任シ左記ノ者ハ同日理事ニ就任ス
安藤龜吉　田川郡津野村五千九百六十六番地
一監事全員任期滿了ノ處昭和十年二月十八日再選ニ依リ左ノ者重任ス
桑野明三　田川郡津野村二千九百十七番地
林　房吉　同所四千二百四十一番地
吉竹由藏　同所四千八百二十九番地
右昭和十年三月二日登記　田川區裁判所添田出張所

◎四元施業森林組合變更
一監事二俣直親上四元袈裟次郎ハ昭和十年一月十二日重任ス
昭和十年一月十六日登記

◎直木施業森林組合變更
一監事松山幸補永山甚藏ハ昭和十年一月二十五日重任ス
昭和十年二月四日登記　鹿兒島區裁判所伊集院出張所

◎二升石造林保護土工森林組合變更
一理事昭和十年一月二十日監事昭和八年一月二十日任期滿了ニ付昭和十年二月二十日臨時總會ニ於テ改選ノ結果理事佐々木保五郎八重樫金十郎有原市兵衞有原千右エ門有原岩太郎三上長兵衞三上甚太郎三上孫市有原總之助加藤元三三上儀藏監事村上文治有原忠治郎ハ再選セラレ同日重任シ新ニ監事ニ左ノ者選任セラレ同日就任シタリ
監事　有原淺吉　下閉伊郡岩泉町大字二升石六地割字西原十七番地
昭和十年三月一日登記　宮古區裁判所岩泉出張所

◎漁業組合登記

◎小八幡漁業組合變更
一左記ノ者昭和十年二月十三日監事ニ重任ス
大木爲次郎　足柄下郡酒匂村小八幡三七四番地
右昭和十年二月十五日登記　小田原區裁判所

◎富麻漁業組合變更
一監事宮脇廣次任期滿了ニ付昭和十年二月二十三日改選ノ結果左ノ者再選重任ス
宮脇廣次　高知縣幡多郡三崎村三崎三千六百九十四番地
右昭和十年二月二十八日登記　中村區裁判所三崎出張所

◎大濱町漁業組合變更
一理事角谷半六ハ昭和十年二月十五日辭任ス
一監事加藤久治郎ハ同日辭任ス
昭和十年三月一日登記　岡崎區裁判所新川出張所

◎下蒲刈漁業組合變更
理事一名缺員中ノ處昭和十年二月二十六日左ノ者理事ニ就任ス丸口松太郎安藝郡下蒲刈島村三之瀨區四百十五番地
監事缺員中ノ處昭和十年二月二十六日左ノ者監事ニ就任ス大谷甚六安藝郡下蒲刈島村下島區二千二百五十九番地寺田儆之助安藝郡下蒲刈島村三之瀨區三百七十四番地新中健次郎安藝郡下蒲刈島村向浦區二千九百三十五番地
右昭和十年三月一日登記　吳區裁判所蒲刈島出張所

◎吉和村漁業組合變更
昭和十年二月二十日左ノ者理事ニ就任ス西中兼松御調郡吉和村千百六十二番地ノ四同年同月同日左ノ者監事ニ就任ス大磯貞尾御調郡吉和村七十四番地ノ四後藤市松同所三百九十四番地

◎吉和村漁業組合變更
昭和十年二月二十日假理事五十嵐徹夫ハ退任ス
昭和十年三月二日登記　尾道區裁判所

◎宮野河內村漁業組合變更
一監事小松金太郎出元庄吉任期滿了ノ處昭和十年二月十日重任ス
右昭和十年二月二十三日登記　天草區裁判所一町田出張所

◎伊江村漁業組合變更
一昭和十年二月十五日監事並里金藏ハ辭任セリ
右昭和十年二月二十六日登記　那覇區裁判所渡久地出張所

◎新屋町漁業組合變更
一理事任期滿了ニ付改選ノ處昭和十年二月二十六日左ノ者再選重任ス
理事　川口　長吉　河邊郡新屋町百三段新屋字黃金谷百十六番地
理事　高島　長吉　同郡同町同所同字二十番地ノ一
理事　大塚藤兵衞　同郡同町同所字割山一番地ノ十二
右昭和十年三月一日登記　秋田區裁判所新屋出張所

◎關漁業組合變更
一監事越甚太郎同中原勘太郎ハ昭和十年二月二十日重任ス
昭和十年三月二日登記　鰺ケ澤區裁判所

◎風合瀨漁業組合變更
昭和十年二月二十四日左者監事ニ重任ス
山本慶次郎　西津輕郡大戶瀨村大字風合瀨字中砂子川五十五番地
昭和十年三月一日登記　鰺ケ澤區裁判所深浦出張所

◎泊村米戶賀村漁業組合變更
一昭和十年二月十八日左ノ者理事ニ就任ス
村山助男　國後郡泊村大字泊村字ウエンナイ
右昭和十年二月二十一日登記　根室區裁判所泊出張所

◎失踪ニ關スル屆出ノ催告

本籍靜岡縣駿東郡太平村三十五番地ノ一
最後ノ住所東京市淺草區田原町二丁目二十九番地
不在者　新城　太郎
明治四年九月十七日生

右不在者ニ對シ利害關係人新城專一ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十年十一月二十日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十年四月二十三日　東京區裁判所

本籍及最後ノ住所東京市淺草區雷門一丁目七番地一
不在者　山田重太郎
明治二十八年一月二十四日生

右不在者ニ對シ利害關係人山田巳代ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十年十一月二十日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十年四月二十三日　東京區裁判所

本籍大阪市西區南堀江下通リ三丁目六番地
最後ノ住所東京市本所區厩橋二丁目四番地八號
不在者　原田ヨシノ
明治二十八年八月三日生

右不在者ニ對シ利害關係人原田市太郎ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十年十一月二十日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十年四月二十三日　東京區裁判所

本籍及最後ノ住所島根縣美濃郡吉田町大字下本郷三百六番地
不在者　福原　俊子
明治三十三年十二月二日生

右不在者ニ對シ利害關係人福原誠行ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付キ不在者ハ昭和十年十一月九日午前九時迄ニ當裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十年四月二十三日　益田區裁判所

◎失踪宣告

本籍東京市淀橋區西落合一丁目二百八十六番地
最後ノ住所同市同區上落合二丁目八百二十番地
不在者　渡邊　シヅ
明治三十二年一月十一日生

右ニ對シ同市同區西落合一丁目二百八十六番地渡邊保太郎ノ申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和十年四月十五日失踪ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年四月二十三日　東京區裁判所

本籍東京市小石川區音羽八丁目十番地
最後ノ住所同市同區關口水道町五十五番地佐藤方
不在者　江口　政吉
明治二十八年十月十九日生

右ニ對シ東京府北多摩郡小平村小川新田六百七十七番地河邊方江口ふしノ申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和十年四月十五日失踪ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年四月二十三日　東京區裁判所

本籍並ニ最後ノ住所福岡縣八女郡岡山村大字立野五百七十三番地ノ二
不在者　鶴　喜藏
明治三十年二月二十七日生

右ニ對シ申立人不在者妻亡鶴ミツエノ代行者不在者兒馬場梅吉ノ申立ニ因リ當裁判所ハ昭和十年四月二十二日失踪ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年四月二十二日　八女區裁判所

北海道上川郡淸水村字淸水北一條三丁目十番地
不在者　伊藤　直
明治四十一年一月二十三日生

右ニ對シ戶主伊藤鳥吉ノ申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和十年四月二十二日失踪ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年四月二十二日　帶廣區裁判所

◎復權申立

岐阜縣羽島郡足近村南宿六百八十四番地
破産者　水谷　元七

右ノ者昭和十年四月二十二日復權ノ申立ヲ爲シタリ

昭和十年四月二十四日　岐阜區裁判所

◎行旅死亡人

本籍住所氏名年齡不詳推定二十五六歲位一見商人風ノ男身幹五尺二寸五分身體中肉顏圓顏頭髮前長ク髮薄キ方其他普通齒ハ門齒缺除セルモノ多ク著衣茶色銘仙袷著物ニ黑無地八王子御召羽織濃鼠色格子柄ネル襦袢茶色綿莫大小襯衣白毛絲ノ古キ腹卷薄地綿莫大小ノ猿股黑色綴織ノ角帶ヲ締メ十文半黑木綿足袋ヲ穿チ携帶品袂內ニ裸ノ儘現金四十三錢ヲ所持ス

右本年一月二十一日本村大字油上通稱今池ニ於テ溺死體發見假埋葬ス心當リノ者ハ申出ツヘシ

昭和十年三月　大阪府中河內郡天美村役場

本籍住所職業氏名不詳推定年齡二十七八年位ノ店員風ノ男丈五尺一寸位瘦型色蒼白頭髮五分刈目稍凹ミ細キ方鼻隆ク耳並口小其他並著衣瓦斯茶絣袷同羽織フランネル大格子淺黃襦袢白メリヤスシャツ同股引メリヤス猿股薄茶色毛絲胴卷ヲ著ス

右本月七日午前八時頃當市寒川一二六二番地千葉煉炭株式會社倉庫內ニ縊死シ居リタルヲ發見成規ノ手續ヲ經テ本市寒川中野市共同墓地ニ假埋葬ス心當リノ者ハ當市役所ニ申出テラルヘシ

昭和十年四月二十三日　千葉市役所

本籍住所氏名不詳女推定年齡二十二歲位人相丈四尺八寸位ニシテ顏圓ク色白頭髮束髮其他並特徵前上齒不揃ナリ著衣鼠色地メリンス赤花模樣羽織一枚茶縞瓦斯袷一枚人絹白地ニ赤花模樣帶一本白莫大小男襯衣一枚赤人絹細紐一本肉色腰卷一枚茶木綿細紐二本赤花模樣帶心一箇桐赤鼻緒付駒下駄一足携帶品赤紙製蝦蟇口一箇在中五十錢銀貨一箇一錢銅貨二箇日本藥局石炭酸水一本ヲ所持シ居レリ

右本月十二日午後九時五分頃當市大字市川六四四番地(成田起點三四粁二)地先京成電車軌條ニ於テ轢死シ居ルヲ發見シ當市大字市川四四九番地共同墓地ニ假埋葬ス心當リノ者ハ申出ツヘシ

昭和十年四月十九日　千葉縣市川市役所

◎日本銀行週報

◎兌換銀行券發行高每週平均高報告(自昭和十年四月二十一日至昭和十年四月二十七日)

發行兌換銀行券		一、二三〇、九五四、八一二・〇〇〇円
準備	金貨及金地金	四七三、三七三、一三一・〇〇〇
保證	公債	三六九、二六二、七一〇・〇〇〇
	政府證券	七二、九八二、八〇九・〇〇〇
	證券	七〇、九三八、九七五・〇〇〇
	手形	二四四、三九七、一八七・〇〇〇
	合計	七五七、五八一、六八一・〇〇〇

◎營業每週報告(昭和十年四月二十七日)

負債ノ部		
資本金		六〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇円
積立金及損益金		一三一、八四九、八七一・四〇四
發行兌換銀行券		一、三三二、三六二、四四四・〇〇〇
政府預金	政府當座預金	二六四、七二九、七七五・五四七
	其他	一〇五、五二〇、六八三・四一三
	計	三七〇、二五〇、四五八・九六〇
一般預金		六九、〇六七、〇八四・三四〇
小額紙幣準備寄託金		一一、一六〇、〇〇〇・〇〇〇
其他		一三三、一三一、三四八・六六四
總計		二、〇九六、七二一、二〇七・三六八

資產ノ部		
拂込未濟資本金		一五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
現金	金貨及金地金	四七三、九九五、四八〇・八九〇
	其他	四一、四一三、一六二・三五〇
	計	五一五、四〇八、六四三・二四〇
割引手形		五八一、一八九、一五五・六八〇
政府法定貸金		二二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
政府一時貸金		五六、五〇六、六二九・二六〇
貸付金		二八、四七五、五六八・四五〇
外國爲替貸金		七六、九二九、七七七・三九〇
公債		六五九、三六六、八七三・〇八〇
代理店勘定		九七、五四八、一〇〇・七三二
政府勘定特殊現金		一三、〇八二、四三三・三五七
小額紙幣準備保管金		一一、一六〇、〇〇〇・〇〇〇
其他		二一、〇五四、〇二七・一七九
總計		二、〇九六、七二一、二〇七・三六八

昭和十年四月三十日　日本銀行

◎臺灣銀行券發行週報

自昭和十年四月十四日至昭和十年四月二十日臺灣銀行券發行平均高

銀行券發行高	五三、〇九〇、〇二九・〇〇
內制限外發行	一二、三四三、一三七・〇〇
準備	二〇、七四六、八九二・〇〇
保證	三二、三四三、一三七・〇〇

昭和十年四月二十二日　臺灣銀行

◎外國郵便物東京中央郵便局締切日時表

通常		小包	郵船出帆港	船名
普通	書留			
月日時	月日時	月日時		
◎南支那、香港、フィリピン群島、海峽殖民地、英領印度等行				
五、二前九	五、二前八半	—	門司	銀洋丸
同三前九	同三前八半	—	同	靖國丸
同三後一〇	同三後九半	—	神戶	プレシデント、フーバー號
◎加奈陀、米國、南米等行				
同二後零一〇	同二前一一、五〇	五、二前一〇、一五	橫濱	平安丸
同四後二、一〇	同四後一、五〇	同四前一〇、五〇	同	プレシデント、ジャクソン號
同一一後零一〇	同一一前一一、五〇	—	同	エムプレス、オブ、ルシア號

第2495号 本文

社債繰上償還公告

當社第壹回物上擔保附社債未償還額貳百貳拾萬圓也（第貳回物上擔保附社債ニ乘換分ヲ除ク）ハ來ル五月拾六日全額繰上償還可致候間同日以降株式會社日本興業銀行本支店ニ於テ債券（昭和拾年七月拾日渡以降利札附屬）引換ニ元金及左記端數利金御受領被下度此段公告候也

端數利金
壹百圓券　金貳圓七錢
五百圓券　金拾圓參拾五錢
壹千圓券　金貳拾圓七拾壹錢
五千圓券　金壹百參圓五拾六錢

昭和拾年五月

出雲製織株式會社

公告

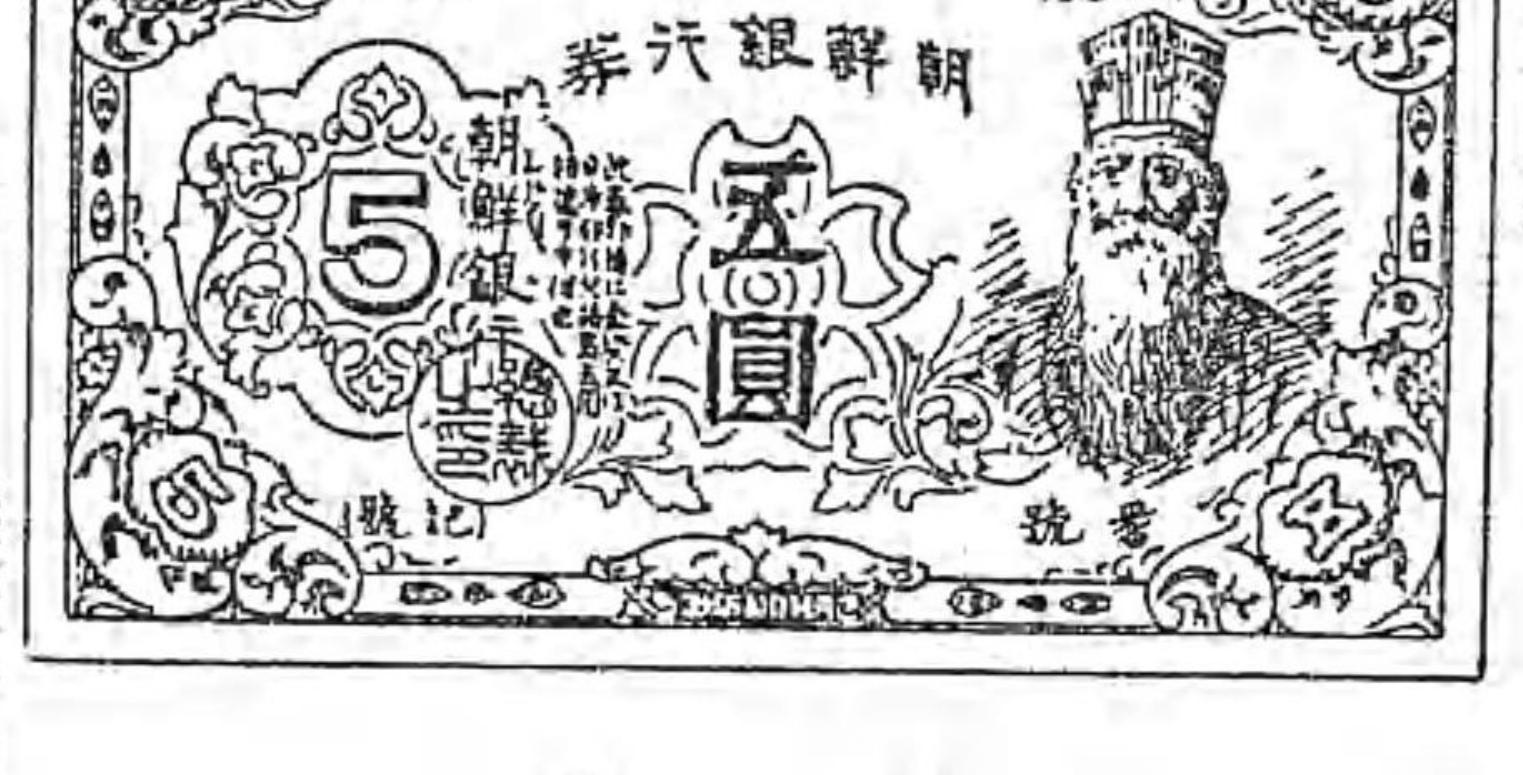
昭和十年六月一日ヨリ左記見本略圖銀行券ヲ發行シ從來ノ銀行券ト共ニ之ヲ併用致候

昭和十年五月一日

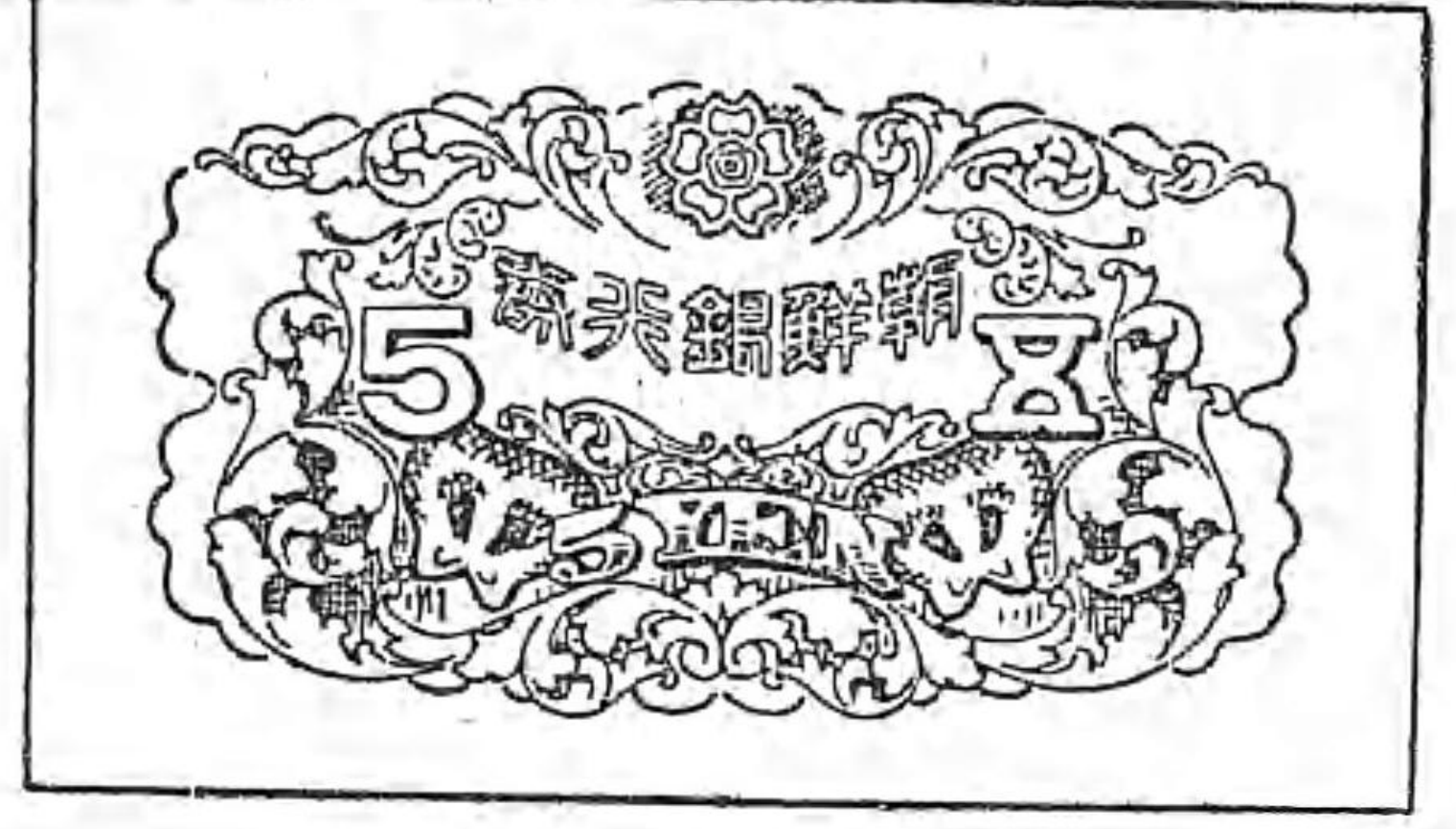
朝鮮銀行

朝鮮銀行五圓券

表面



裏面



寸法	縱七十六粍 橫百三十二粍
用紙漉入	小槌、七寶、分銅、丁子及朝鮮銀行ノ文字　凹凸漉
表面	文字並上模樣　黑 地模樣　淡綠色、淡褐色、暗紫色 印章及記番號　赤色
裏面	文字並上模樣　暗綠色 地模樣　茶綠色

出雲製織株式會社第貳回物上擔保附社債賣出

今回當行ニ於テ其ノ總額ヲ引受ケタル昭和拾年五月拾日發行出雲製織株式會社第貳回物上擔保附社債左記ニ依リ賣出申候

委託會社　出雲製織株式會社

受託會社　株式會社日本興業銀行

社債ノ總額　參百萬圓

各社債ノ金額　壹百圓、五百圓、壹千圓、五千圓及壹萬圓ノ五種、無記名式利札附トス

賣出價額　額面壹百圓ニ付金壹百圓

社債ノ利率　年四分七厘

乘換應募　委託會社ノ發行ニ係ル第壹回物上擔保附社債（昭和拾年七月拾日渡以降利札附）ハ額面壹百圓ニ付金壹百壹圓九拾七錢貳厘六毛ノ割合ヲ以テ拂込金（錢位未滿切捨）ニ代用スル事ヲ得

社債償還ノ方法及期限　壹箇年半据置後各利拂期日ニ金拾萬圓以上ヲ償還又ハ買入銷却シ昭和拾八年拾壹月拾日迄ニ殘額全部ヲ償還又ハ買入銷却スルモノトス据置後ハ何時ニテモ其ノ全部又ハ一部ヲ繰上償還スルコトヲ得、一部償還ハ抽籤ニ依ル、買入銷却ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

利息支拂ノ方法及期限　發行日ノ翌日ヨリ償還期日迄之ヲ附シ毎年五月拾日拾壹月拾日ノ貳期ニ各前半箇年分ヲ利札引換ニ支拂フ但償還ノ場合ニ於テ半箇年ニ滿タサル利息ヲ支拂フトキハ其ノ半箇年ノ日割ヲ以テ計算ス、償還期日後ハ利息ヲ附セス

元利金支拂場所　株式會社日本興業銀行本支店

信託證書ノ表示　昭和拾年四月拾七日作成セル信託證書

擔保　委託會社所有今市區裁判所登記簿貳號工場財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シ本社債發行後直ニ前記工場財團ノ上ニ存スル先順位ノ抵當權ヲ以テ擔保セラル、第壹回物上擔保附社債全額ノ償還其ノ他ノ方法ニ依リ本社債ノ抵當權ノ順位ヲ第壹番ト爲ス

擔保ノ價格ニ關スル調査報告　受託會社株式會社日本興業銀行ノ査定ニ依レハ前記工場財團ハ本社債總額ノ元利金ヲ擔保スルニ足ル價格ヲ有ス

賣出期間　昭和拾年五月壹日ヨリ同月參日迄
但期間中ト雖モ締切ルコトアルヘシ

申込證據金　額面壹百圓ニ付金參圓（募入ノ上ハ拂込金ニ振替フ）
但申込ノ際代用證券ヲ提供スルトキハ之ヲ要セス

募入方法　應募超過ノ場合ハ適宜募入額ヲ定ム

拂込又ハ代用證券提供期限　昭和拾年五月拾日

證券代用拂込超過額　昭和拾年五月拾六日現金ヲ以テ拂戻ヲ爲ス

資本金　壹千萬圓（内五百貳拾萬圓拂込濟）（昭和拾年四月貳拾六日現在）

現存財產　昭和九年拾壹月參拾日現在壹千拾貳萬五千四百參拾八圓四拾九錢、之ヨリ社債（但本社債ニ乘換分ヲ除キタル殘額全部ヲ昭和拾年五月拾六日迄ニ償還又ハ買入銷却ス）借入金其ノ他ノ債務ヲ控除シタル金額ハ五百貳拾四萬四千六百參圓八拾八錢

未償還社債總額　第壹回物上擔保附社債額面貳百貳拾萬圓（昭和拾年四月貳拾六日現在）（但右社債ハ本社債ニ乘換分ヲ除キ昭和拾年五月拾六日全額繰上償還ス）

信託證書閲覽場所　委託會社及受託會社ノ本支店ニ於テ毎日營業時間中閲覽ニ供ス

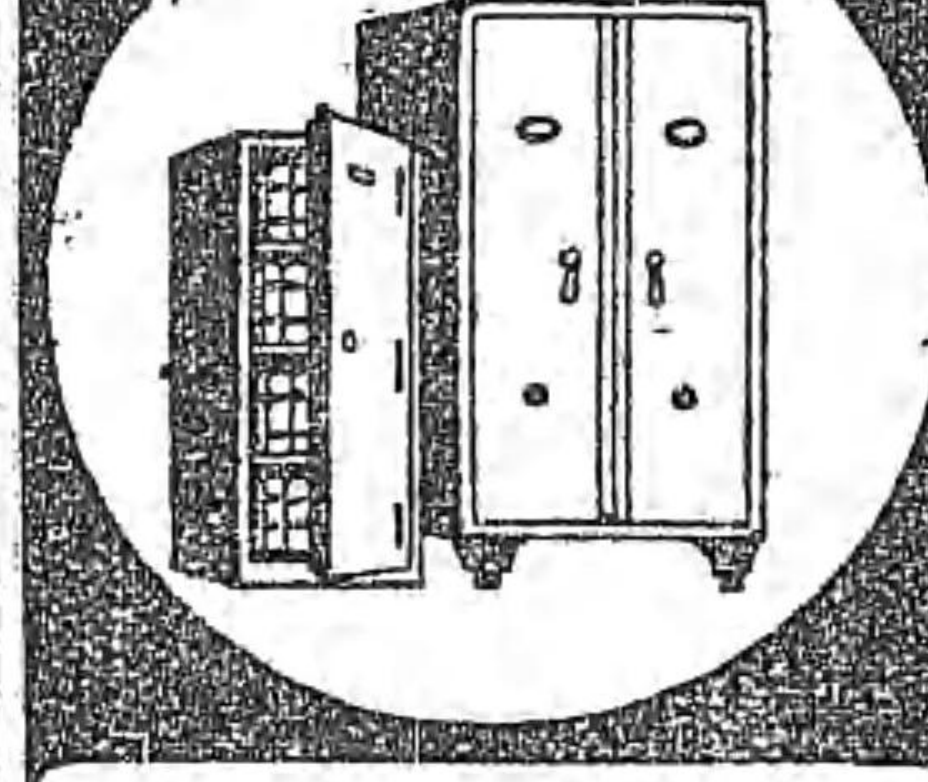
昭和拾年五月

東京市麴町區丸ノ内壹丁目八番地壹
株式會社日本興業銀行

取扱場所
株式會社日本興業銀行本店及各支店
日興證券株式會社本支店　小池證券株式會社
山一證券株式會社本支店　共同證券株式會社
野村證券株式會社本支店　藤本ビルブローカー證券株式會社本支店

平松金庫

安全確實



輕量金庫
耐火書庫
鋼鐵書箱

型錄送呈

東京市淺草區駒形一丁目五番地
平松金庫店
電話淺草一六三四・一七九六番

無效公告

一、當行株券戊ハ號第壹六壹四番今津覺次殿名義

右ハ喪失ノ旨屆出アリタルニ付昭和拾年六月五日迄ニ發見セサルトキハ無效トス

昭和拾年五月壹日

株式會社日本勸業銀行

官報廣告取扱所
廣集社
京橋區京橋二丁目三番地

メタルマーク
東京市九段下電停前
アキバ徽章商會
御一報次第新カタログ進呈

徽章
メダル門標琺瑯製品
東亞徽章製作所
東京市京橋二丁目三

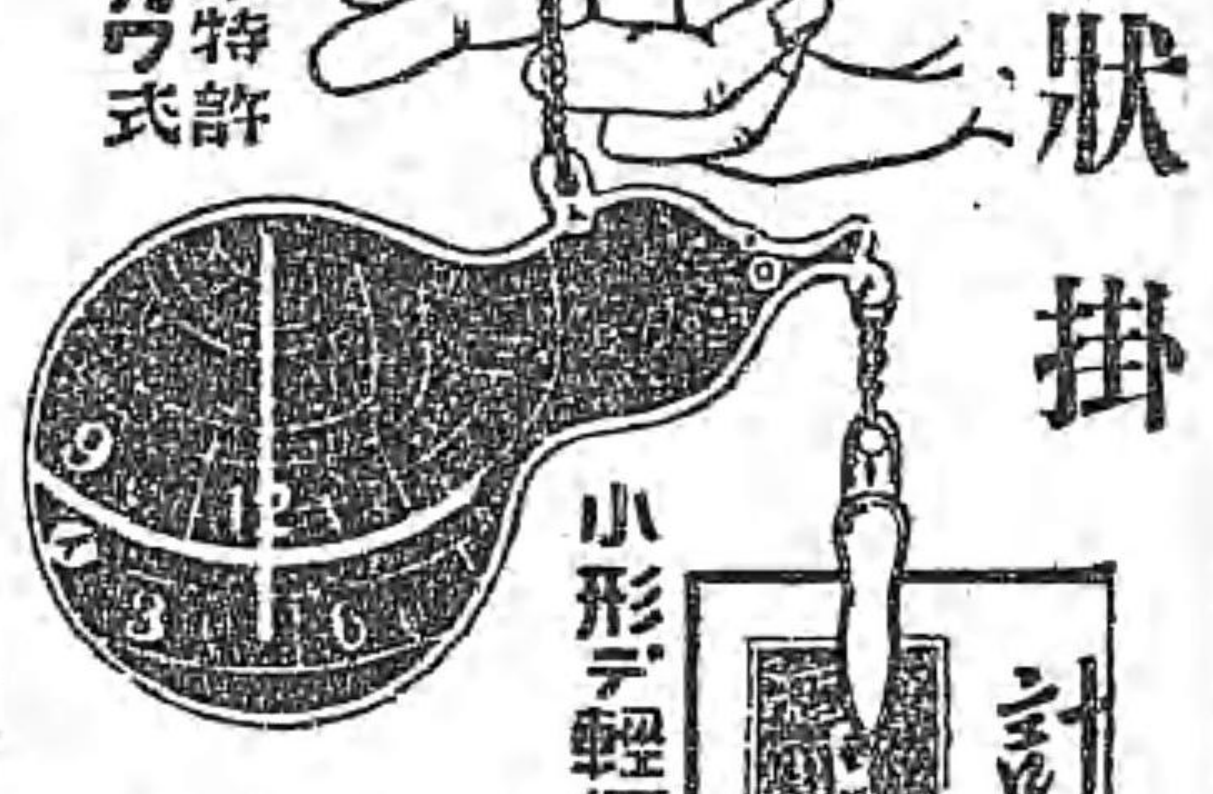
資本金　五千七百五拾萬圓（拂込濟）
法定準備金　五千七百五拾萬圓
別途準備金　壹千萬圓

東京市麴町區丸ノ內一丁目一番地
株式會社　**第一銀行**

支店所在地
東京、橫濱、豐橋、名古屋、四日市、京都
大阪、神戸、廣島、下關、門司、小倉
福岡、久留米、熊本、函館、小樽、札幌
宇都宮、足利、栃木、佐野、桐生、館林
京城、釜山

書狀掛

新案特許ツナカワ式



計器長太郎樣
メートル法ニ改正セラレタ郵税ガ吊セバ直グワカル

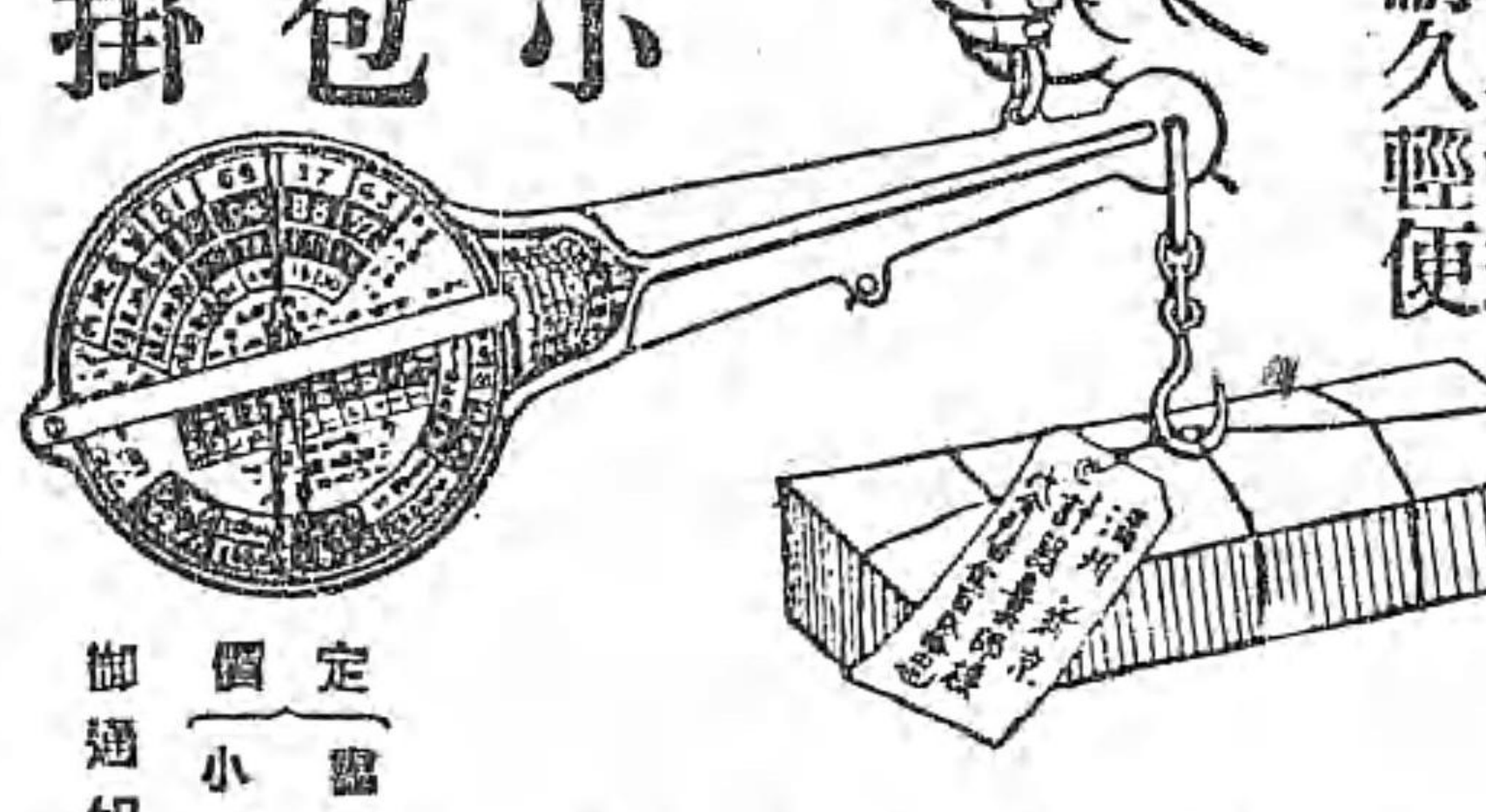
小形デ輕便・丈夫・正確・安イハカリ

裏面御名入ハ五十個以上ヨリ應需
進物記念品トシテ銀行、會社、旅館・商店ノ年末、年始中元、贈答ニ好適
賣テ重寶、贈テ利益

郵便掛計器

自動式
耐久輕便

小包掛



定價
書狀掛　五〇錢
小包掛　一圓八〇錢

御通知次第型錄呈上

日本度量衡協會東京支部
販賣部會事業部代發

納村三郎
東京市京橋區入舟町一ノ四
電話京橋一七九二番
振替口座東京一一四二九番

債券繰上償還公告

合併ニ因リ繼承シタル第六拾壹回栃木縣農工債券並ニ第四拾九回宮崎農工債券ハ來ル六月壹日左ノ通リ全額繰上償還可仕候間此段公告候也

追而償還期日以後ノ利子ハ御支拂不致候ニ付償還開始ノ上ハ至急元利金御請求被下度候

第六拾壹回栃木縣農工債券　壹百萬圓
第四拾九回宮崎農工債券　七拾萬圓

昭和拾年五月壹日

株式會社日本勸業銀行

勸業債券

債券の賣買
在品豐富、勉强御扱ひ

債券擔保の金融
低利、簡易に御融通

（案內書送呈）

回別	仲値
廿三、廿七、卅一	一〇、八〇
廿四、廿五	一〇、六五
廿六、卅、四七	一〇、九〇
廿八、卅二、五三、▲六三	一〇、八五
廿九、▲五〇	一一、〇五
卅三	一〇、四〇
卅七	一〇、二五
四四	一一、〇〇
▲四八、▲五四	一〇、八〇
四九	一〇、七〇
五八	一一、二〇
六四	一〇、七五
六五、八一	一〇、三五
▲六六、▲七〇	一〇、〇五
六七、七四、七七	一〇、〇〇
六八、七五	一〇、一五
六九、七六	一〇、一〇
七一、七三	九、九五
七二、七八	一〇、〇五
八〇	一〇、二〇
▲八二	一〇、三〇
八六	一一、九〇

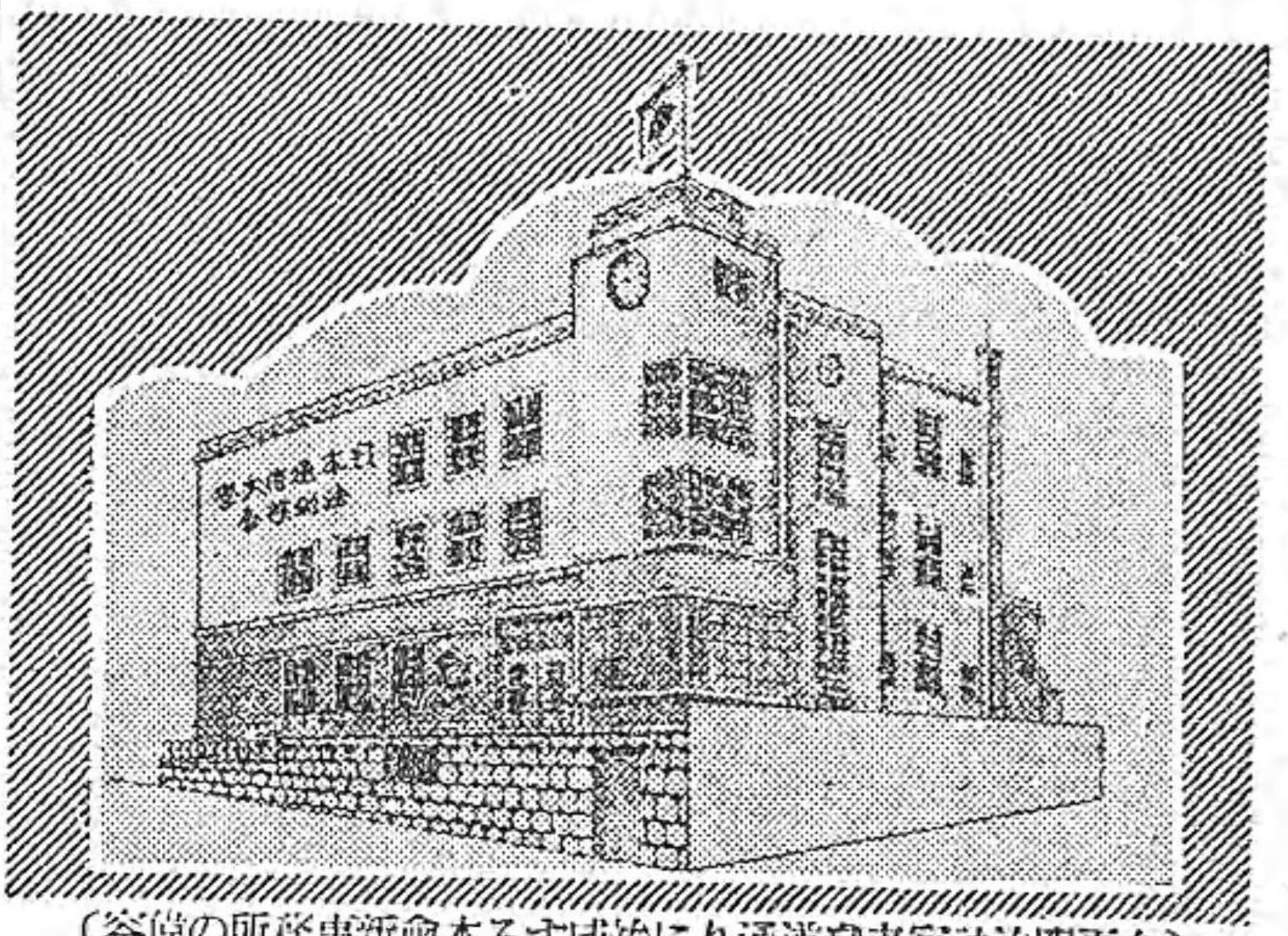
	回別	中値
	八七、八九、九四	一一、四〇
	九二	一一、三五
復興十圓券	▲一回	一五、二五
	二回	一五、一〇
	三回四回	一四、八五
	八回	一四、〇〇
	▲九回	一四、〇〇
	十回	一三、七五
	十一回	一三、九〇
復興五圓券	五回	七、三〇
	六回八回	七、一〇
	七回	七、〇五
	▲九回	七、二〇
	十回	六、九五
割引廿圓券	一回	一八、七〇
	二回▲三回	一三、四〇
	四回	一一、六五
	五回	一三、二〇
	六回	一一、九五
	七回	一一、三五
	八回	一〇、七〇
	九回（新券）	一〇、八〇

▲印來月くじ引◎當籤番號表一部二錢一ヶ年卅錢

東京市麴町區內山下町（日本勸業銀行構內）
日本勸業證券株式會社
電話銀座自二四三五・至二四三九・振替東京二八

神田須田町交叉点電神田四〇五七　**須田町支店**
淺草吾妻橋西詰電淺草一七三三　**淺草支店**
橫浜尾上町（朝日ビル二階）電長者町三六二三　**橫濱支店**
仙台市南町郵便局前電話一五四一　**仙台支店**
札幌市南一条西三丁目電話二五三三　**札幌支店**

獨學者の王城!!成功者多き事日本一　各種試驗合格者年々大量續出



（今夏明治神宮表參道通りに竣成する本會新事務所の偉容）

普通文官講義

創立以來廿三年!!　既に一萬有餘名の試驗合格、就職成功者を出せる本會講義錄は、確固たる此の經驗に基き、諸君をして僅か半年（速成科）又は一年（正則科）の自宅獨學にて判任文官各種試驗に合格せしめ、獨立生計の最も確實な資格と、延いては高等文官試驗突破への捷徑をさへ獲得せしむるので、全國獨學者歡呼して入會しつゝある。即刻來れ!!

前年度に本會は廣島裁書では二百餘名、朝鮮普文では六十八名、又文官高等試驗では五名の會友が合格した。

春季新會員大募集　奬學資金其他創立廿三年記念特典提供

獨學立志奮鬪成功譚滿載の**百廿頁冊子贈呈**

●葉書に住所氏名を明記、官報による旨記入、下記本會へ御申込下さい。無代進呈いたします

（申込所）東京市日本橋區濱町二丁目新大橋際

日本通信大學法制學會

電話茅場町五五〇一番

高文、普文及學生受驗者の必讀書

國家試驗

（毎月一日、十五日二回發行）

第七卷第九號　五月一日號

定價金六十錢　送料二錢

▲二重賣買と二重抵當東京帝國大學教授法學博士牧野英一▲日支關係及滿聯關係と國際法法學博士松原一雄▲不法領得の意思東京地方裁判所判事尾後貫莊太郎▲強制執行並保全處分概論(完)東京控訴院判事江村高行▲公用文書の隱匿に就て東京地方裁判所判事坂本英雄▲刑事政策二十題法學士森永英三郎▲高等試驗司法科受驗記福島ＳＫ生▲宿望を達して新生の第一歩へ鐵心生▲司法科民法口述試驗梅澤恒尋▲昭和十年三月施行東京帝國大學法學部試驗問題▲昭和十年三月施行東京帝國大學經濟學部試驗問題▲二月一日號課題答案選者坂本英雄▲召喚の條件如何能谷次吉選者野間繁▲國務大臣と議會との關係如何能谷次吉▲刑法東京地方裁判所判事坂本英雄▲刑事訴訟法同▲刑事政策同▲憲法東京地方裁判所判事野間繁▲民法同▲商法同▲民事訴訟法同▲高等試驗參考書の選び方法學士秋山秀夫▲質疑應答▲法律顧問

●東京本郷森川町　帝大正門前　**育成洞**　電話小石川(85)七八一　振替東京一七三三四

出張所
東京市日本橋區日本橋北詰
福岡市箔屋町一八
京城府南大門通三丁目
呉、佐世保、横須賀、舞鶴

亞麻布ホース
消防ポンプ
角一ゴム製品

大阪西區立賣堀南通六丁目
株式會社　**赤尾保商店**
電話新町五四八・五四九

テント
高島屋製
カタログ進呈
東京市京橋區木挽町一丁目
陸海軍鉄道局諸官省御用
高島屋天幕部
電話京橋 三一四五番 三一四六番 三一四七番 三一四八番
營業品目
天幕、雨覆
雨衣、作業衣
非常袋、寢具入
背負袋、雜袋
製造販賣
麻帆布、麻糸
布ホース、綿帆布
防水布類一切
卸賣商

定價	一ヶ月	九十五錢	一圓八十錢	（外國郵便ニ依ル地域）各郵料共
	一部	五錢	八錢	
廣告料	本公告	六號一行	三十錢	
	一般廣告	六號十四字詰一行	二十五錢	五號五錢四號十錢増

發行所
東京市麹町區大手町
內閣印刷局
電話丸ノ內三五一九　振替東京一九〇〇〇　官報課

明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

（本書ノ大サハ國定規格Ａ４判）

第2495号　本文

第 2495 号 付録

付録

雜報

小作爭議の概要（その四）

農林省農務局

五　小作に關する民事訴訟

小作爭議にして未だ簡單にして、平易なる事件にあつては、當事者間の直接示談によつて、容易に解決するものであるが、そのやゝ複雜にして深刻なる事件にあつては、地主は民事訴訟により、あくまでも法廷において黑白を決せんとして、各種の訴訟を提起することは、既に前號において述べた通りである。しかして、この種の訴訟事件は從來年と共に漸增の傾向があつたが、最近二三年はやゝ減じて二千三四百件に停頓の狀況にある。

しかれども、反面當事者の手段の項において述べたやうに、當事者の何れもが法律による合法手段を選ばず、專ら實力をもつて解決せんとする事件增加し、爭議は訴訟事件の增減にかゝはらず、ますます杞憂すべき事態に立ちいたらんとしてゐる。

いま參考のために、司法省民事局の調査による、最近數箇年間におけるこの種訴訟事件の件數を表示すれば、次の通りである。

大正十二年一、六九六件、同十三年一、九八四件、同十四年二、三二九件、同十五年四、一八四件、昭和二年四、八四九件、同三年二、四八八件、同四年三、〇五〇件、同五年二、八五五件、同六年二、三二五件、同七年二、四五四件、同八年二、四五〇件、同九年（一月――六月）一、四四一件。

しかして、最近これ等小作に關する民事訴訟の最も多い地方は、秋田、新潟、福岡、長野、愛媛、栃木、岡山、大阪等の諸地方であつて、小作爭議の激甚な地方とほゞ一致してゐる。

次にこれ等訴訟事件の內譯を見ると、左表の通りであつて、小作料請求に關する事件最も多く、土地返還請求に關する事件これに次ぎ、この兩者を同時に提起するものも相當あり、その他の件數は少數である。いま最近三箇年における訴訟事件の種別を表示すると、左の通りである。

年次	七年	八年	九年
種別	件數	件數	件數
小作料請求	一、五三四	一、六七〇	一、〇三四
土地返還請求	三七二	三七五	一六三
小作料ならびに土地返還請求	四〇五	二九七	一八六
小作米換價金請求	七〇	三八	一九
小作權確認	一〇	一二	二
占有保全	八	五	｜
損害賠償	三二	三二	五
その他	四三	二一	三二
計	二、四五四	二、四五〇	一、四四一

しかして、これ等民事訴訟事件の原告は殆んど全部地主にして、小作人は僅かに地主の土地返還請求等に反對して、小作權確認、損害賠償等の受動的訴訟を提起するに止まり、その件數もまた極めて僅少である。

次に地主側が小作爭議に當つて、緊急の對抗手段として、本訴の提起に先立ちてなす判決執行の保全行爲たる、土地立入禁止或は立毛その他の動産差押等の強制執行手段を執るやうになつたことも、既に述べた通りであるが、いま內務省の調査によるこの種事件の件數、執行面積ならびに價格等を示すと、次表の通りであつて、何れも大正十四年頃から急激に增加してゐる。しかしこれ等強制執行は年により、集團地の多い場合は、件數、面積、價格等何れも非常に增加するものであるから、單に表面に現はれた數字をもつて、たゞちに全般的爭議に對する手段傾向を推察することは困難なことである。

土地立入禁止立毛動産差押件數表

年次	土地立入禁止		立毛差押		動産差押	
	件數	執行面積	件數	執行面積	件數	差押價額
大正十二年	一件	?町	四件	?町	｜件	｜圓
大正十三年	一九	?	三四	?	｜	｜
大正十四年	一四〇	五七・五九	三三九	四一四・三四	四二七	一二二、七〇一
大正十五年	一三一	一九八・一五	四四五	三六二・七八	五五九	三〇三、九二〇
昭和二年	二〇九	三九八・三八	一四九	四五一・七四	一五七	一一三、二六八（一部不明）
昭和三年	一四〇	二六四・三二	九四	一三七・一七	二一〇	六九、四四六
昭和四年	六四	一七四・五九	四四	六九・九二	八六	五四、四七三
昭和五年	一〇九	三〇五・七八	一四二	二三二・三七	一三八	九八、三五七
昭和六年	六一	一二五・八三	三〇	四三・六九	四七	二六、三五六
昭和七年	六三	一二七・三七	五四	二四四・六二	四五	一三、四三九
昭和八年	一〇二	七五・四二	三三	二四・四二	五五	三五、〇一二
昭和九年	三四	三九・四二	二〇	一七・四五	四八	一三、三六四

しかしてこれ等の強制執行手段に對しては、小作人側は執行の事前においては、これが反對請願運動、批判演說會等を行ひて極力反對の氣勢を擧げ、またその執行に當つては小作人側は各種の方法を講じて執行を阻止せんとし、ために往々にして暴行騷擾事件等を惹起して爭議を益々紛糾せしむることもしば〴〵ある。さらにこれ等に對して小作人の執る法律的手段としては相當額の供託金を供託して強制執行を免れ、或は執行を解除せしめもつて耕作權確保の方策に出るものもある。

國際綿布貿易の動向と日本（その二）

日本國際協會

――賓野恭平氏の執筆にかゝる――

(四)需要供給の關係

國際綿布市場の狹隘化には次のやうな諸種の原因がある。

一、世界恐慌以前……東洋その他後進國における紡績の發達

二、世界恐慌以後……(イ)購買力の急激なる萎縮　(ロ)高物價政策。

一については、既に詳細に他の機會で述べたことがあるからこゝにこれを省く。

二については、一見、種々高率關稅割當輸入制限等の政策から來たやうに思はれるが、これは表面的の政策で裏にひそむ根本理由は

(イ)輸入國側………購買力萎縮

(ロ)輸出國側………高物價維持

となり、一方は安きを欲し、他方は高くなくては賣れないといふ、こゝに賣手買手間に大きなひらきができそれがそのまゝ綿布貿易の減退となつて現はれた譯である。しかるに一九三二年三年再禁止後、イギリスでも國内的採算にゆとりがとれ、また海外から見ても値段が安くなつたために、一九三一年に比しては、一時賣上が殖えてゐる。

周知の如く、綿布の購買國は主としてアジア、南アメリカ、アフリカ等の如き農業國であつて、これら諸國の購買力――特に製造品に對する購

買力――は世界恐慌以來急激に減退した。ところが、一方かれら所用のかうした製造品價は、農産物の如く安くならない。かれらの購買力は絶對的にも相對的にも低下した譯である。即ちかくして減退した購買力を增加せしめる方法としては

(一)かれらの農産物を高價ならしむること

(二)かれらの所用製造品を安價ならしめること

何れにかなければならない譯である。

(五)歐米綿業國の責任

ところが、歐米綿業國は、この恐慌に對する順應力を缺いた。例へばイギリスであるが、かく世界が不況になつてゐるのにもかゝはらず、依然として古い機械、高い勞賃の職工による製品でなければ供給をしない。また原料棉産國であるアメリカはどうかといふと、これも棉價の低落することをおそれて、莫大の國帑を費して、未だそれを阻止してゐる。かやうな狀態の下では、綿製品の價格は容易に下り得ない。この高い綿製品を買はなければならないとすれば、勢ひ數量の減少とならざるを得ない。日本はこの間に處して、鋭意生産費の切下げ、機械の改善に努力した。その結果、非常に安價かつ優良のものができるやうになつた。購買力の衰へた市場にはもつて來いの有樣である。世界一般が好景氣である時は、高いものほど賣れるといふ譯であらうが、不景氣の時には安くなければ賣れない。即ち、この時の事情事情に適應して行くことが、何としても必要でなければならない。

日本がいち早く、この世界恐慌に適應して行つたことが、今日なほ二十五億碼の輸出量をもつてゐる所以である。

即ち、世界恐慌後急激に縮少された國際綿布市場は、全く輸出國の怠慢であつて、かゝる必需品である以上、もうこれ等の輸出國において、相當の生産費引下努力が行はれたならば、決して今日の如く激減しないで濟んだことであらうと思ふ。これを日本がかれ等の市場を剝奪した如く考へるのは、むしろ本末顛倒で、日本は、輸入市場を求められるまゝに、賣込んだといふだけである。

かくして今日の世界綿布市場の狹隘化は全く、歐米の綿業國の自ら招いた譯であつて、このことに氣のつかない限り、將來とも、あらゆる人爲策をもつてしても、その市場は確保できないどころか、全然喪失することになるかも知れない。綿業先進國の先進國たる所以は、實力において安價優良品の提供をなすことにある。

(六)一九三四年英國輸入成績の吟味

こゝにイギリス綿布輸出狀態の一九三三年三四年の對比において考ふべき諸點がある。前に述べた通り、一九三三年は、イギリスが再禁止後の好況第二年であり、一九三四年はブロック强化の第一年である。これが增減狀態を見るに、

一、印度、シンガポール等のブロック圏內では僅かに增加したが

二、アフリカ、支那、蘭印等で激減したこと

三、不思議に南米において多少增加したことの三點である。即ち

(一)ブロック强化によつても、その增加は意外にすくないこと

(二)却つて右のために他の自由市場の喪失となつたこと

(三)南米の好景氣にはイギリスも浸潤するにいたつたこと

の諸事情を知るべきであらうと思ふ。即ちイギリスは向後共なほブロック强化を行ふのであらうが、それによつて得るところと失ふところ果して何れが大なりやは、自ら右過去一兩年の成績を見るも明かであり、さらにまた南米の如く農産物好況によつて景氣を回復すれば、もしこれが南米に限らず世界的にも回復すれば、綿布市場の擴大化は自ら求め得られる。即ちこれまでとつて來た人爲策は、畢竟その結果はむしろ逆となり、却つて期待しなかつた、他國の經濟回復が却つて福音として訪づれ來つたことである。即ち輸出國の事情にも改善を施さなければならないが、輸入國事情の自然的回復をまつことがより重要々素と考へられることである。

イギリス綿布輸出(單位百萬碼)

地方	一九三三年	一九三四年	比較
印度	四八六	五八三	增九七
南米	二六九	二七八	增九
新嘉坡	二六	二八	增二
日本	二	一	減一
蘭印	二一	一五	減六
歐大陸	二三六	二一四	減二二
支那	五二	二〇	減三二
アフリカ	二九四	二五三	減四一
地中海	一八四	一二一	減六三
總計	二、〇三一	一、九九五	減三六

(七)わが國綿業貿易の前途

國際綿布市場の狹隘化は、かくして起つたものである。從つて狹隘化したその事實をもつてのみ悲觀視することは當を得てゐない。そのやり方如何によつては、また擴大することができる譯である。殊にわが國にとつて見る場合、旣に、國際綿布市場六十億碼のうち、二十五億を占めたりといふ事實のみをもつて、行詰觀をなす必要は毛頭なしと考へる。わが國綿布輸出の前途については、次の三樂觀事情を考へられる。即ち

(一)消極的樂觀事情……歐米各國が依然として行詰り的高物價政策に閉ぢ籠つてゐるならば、かれ等はます〳〵その市場を失ひ、その失ふ市場は當然わが國の市場と化せざるを得ない。

(二)世界景氣の部分的回復……ムリナリスキー氏もいへる如く、世界景氣は全體として一九三二年の夏底に達し、一九三三年より回復の徵を現はしてゐることである。殊に、南米、アフリカ等の農業國においては、昨年を通じて凶作による、農産物調市物價の上昇によつて、購買力增加を示してゐる。綿布はかゝる市場への必需品であるところからして、これ等の國の景氣回復によつて、綿布の需要增加は必ずやわが國の註文となつて現はれて來るのであらう。

(三)新規需要者、新市場の擡頭……これは、世界不況以來の現象である。日本品はアフリカ南洋の土人には、最早不可缺の品物になつてゐる。これより見ても、さらに新らしくこれを購入、著用を始める者ができ、さらにまた、これまで殆んど日本品の行かなかつた地方において、積極的に製品に對する註文を發する國も自ら增加して來ることである。

かくして他國の人爲的に採用する阻止策については、念頭にかくるの必要はない。むしろ右に述べた三事情について見る時

(一)よりしては、一、二億碼の增加

(二)試みに世界需要の一割增として五億碼の增加

(三)よりして一割增としてまた五億碼と增加の餘地は未だに多々殘されてゐるものと見てさしつかいない。かく見る限り、昭和九年の二十五億碼が、三十億碼に增加し得る可能性もあり得る譯である。

國際競爭の最も銳敏にして、わが國輸出貿易の先端にある綿業にしてかくの如くせんか、これにつづく雜貨、機械製品の如きもの〻世界需要は、さらに有望なりと考へても、さしつかいないと思はれる次第である。(をはり)

舊ロシヤの債務問題 (その五)

外務省情報部

五、佛、ソ間の交渉

▼戰前債務の協定　フランスは債務問題に對して極めて强硬な態度を持して、一步も讓らなかつたことは前に述べた通りである。ポアンカレー內閣の如きは フランスの對ソ要求を完全に賠償しない限り、ソヴエイト政府を斷じて承認しないとまで極言したほどである。フランスがソヴエイト政府と親和するやうになつたのは、一九二四年エリオ內閣出現以來のことである。エリオ內閣は同年十月ソヴイエト政府を承認するに當り、特にフランス國民の要求權を保留する旨附言し、佛、ソ間の債權債務問題は承認と同時に兩國委員によつて審議されることになつた。これを機會にフランスの債權者團體は大に活動を開始し、代表を選んでソヴイエト側委員に直接談判を試みた。

パリーに設けられた佛、ソ委員會は一九二五年にフランス臣民の對ソ要求の金額を審議したが、この時フランス側委員はフランス臣民の債權額を約百五億フランに計上し、これに反しソヴイエト側委員は約九十億フランと見積つた。

兩國の概算高の間には十五億フランの開きがあつて、その交渉は容易に進捗しなかつた。一九二七年にいたり戰前の債務に關してはやゝ協定の域に近づいたと傳へられた。協定の要點は、今後六十一箇年間に每年六十萬金フランづつ年賦で返濟し、フランスはその代りにソヴイエト政府にクレヂットを提供する筈であつた。協定の大綱は右の如く年賦返濟およびクレヂット提供といふことに決定し、殘るところは細目を取極める段取りにまで協議が進んだ。クレヂット問題に關しソヴイエト側は一億二千萬米ドル借り度いと切り出し、フランス側はその半額即ち六千萬米ドルならば貸しても宜しいといふことであつた。

一九二七年九月十二日ソヴイエト代表は、フランス側に大要次の如き協定案を提示して同意を求めた。

一、ソヴイエト政府は戰前債務の消却として向ふ六十一箇年間每年六十萬金フラン(合計三十六億六千萬金フランとなる勘定である)づつ仕拂ふ。但し、ソヴイエト政府が他の國の債權者に更により好き條件を與へた場合はこの協定の改訂に應ずる。

二、ソヴイエト政府は六箇年に亙り、每年二千萬ドルづつ即ち合計一億二千萬ドルのクレヂット提供を希望する。このクレヂットは對佛註文および購買に充當する。

▼佛債權者の反對　ソヴイエト側の協定案によれば、六十一箇年といふ頗る長期の年賦返濟で、そして六十一箇年かゝつて仕拂はれる金額は合計三十六億六千萬金フランで、フランス側委員の要求する百五億フランに比較すれば その間に非常な開きがある。ソヴイエト政府の協定案が世上に發表されるや、フランス債權者團體はこれを見て大に不平を鳴らし、反對の氣勢を揚げた。フランス債權者はソヴイエト政府に新たにクレヂットを提供することに絕對反對を表し、戰時債務および沒收財産の賠償を要求して止まなかつた。フランスにおける反對運動は前述イギリスにおけるそれよりもさらに一層猛烈なものであつた。フランスの對ソ債權擁護聯盟の會長ヌウランス氏はフランス政府に向ひ、ソヴイエト側の協定案を斷乎斥けんことを要求した。佛、英、白各國人から沒收した企業を復興するための資金として、ソヴイエト政府にクレヂットを提供するが如きは非國民の所業であるとまで激昂した。ソヴイエト政府が各債權國と國別に債務問題を交渉する底意は畢竟するに、債權値切りの奸策であるから、國別交渉を拒絕して宜しく國際的に一致團結して要求貫徹に努むべきである、といふのがフランス債權者强硬派の意見であつた。

こんな情勢で將に協定にまで漕ぎ着けるかと見へた佛、ソの債務問題の交渉はフランス政府の希望にもとづいて遂に無期延期となつた。

佛、ソ交渉もイギリスと同じく、爾來今日にいたるまで交渉斷絕の狀態に陷ゐつてゐる。

(六)の米・ソ交渉は次號に述べることにする。

七、ソ政府の對抗要求

▼對抗要求の種類　對ソ債權を有する國にはなほベルギイ、イタリヤ、オランダ、スイスおよびわが日本等があるが、これ等各國は未だソヴイエト政府と本問題に關しては交渉を始めてゐない。日本は去る一九二五年締結の日、ソ條約中に特に本問題に關する規定を設けて、日、ソ兩國政府間ならびに兩國民間の要求問題および日本政府若くは日本臣民に對する、舊ロシヤの債務問題は後日の交渉に讓ることにした。

前に述べたやうにソヴイエト政府は國際會議においても、國別交渉においても常に債務仕拂ひ承認の交換條件の一として、對抗要求するものを持ち出してゐる。ソヴイエト政府のいはゆる對抗要求中には、左記の如きものが含まれてゐるけれども、大部分は列國の對ソ出兵によつて蒙つた損害の賠償要求を指すものである。對抗要求を類別すれば、

一、外國に保管中の舊ロシヤの有價物および財産に對する要求。

二、對ソ出兵のために蒙つた損害に對するソヴイエト政府の要求。

三、對ソ出兵のために受けた損害に對するソヴイエト臣民の要求。

四、外國に對するソヴイエト臣民のその他の要求。

▼對抗要求額　第一類に屬する舊ロシヤの在外有價物といふのは、外國に撒出された金貨、金塊にして、例せば大戰中における聯合各國との財政的協定によつて、帝政々府がイギリスへ發送した金塊の如きものである。また內亂中に白系の各政權が海外に持出した金や、對ソ出兵のために持ち去られた金塊もある。大戰中に帝政々府が軍需品の註文代として外國に代金を拂つたまゝ註文品を受取らなかつたのもある。しかして註文代として前渡しした代金は數百萬ルーブルに達するとソヴイエト政府はいつてゐる。

對抗要求中で最大のものは出兵に基く損害、聯合側の對ソ封鎖、白系援助のために受けた損害になつてゐるが、ゼノア會議の際にソヴイエト代表はこの類の損害額を三百八十億ルーブルと計上して會議に提出した。

次ぎに、ソヴイエト臣民即ち個人が出兵のために蒙つた損害に關しては、一九二四年にソヴイエト聯邦に『出兵犧牲者救濟會』なるものが組織されてその調査を行つてゐる。この會に向つて損害要求の申請書を提出したものは約八十八萬一千人の多數に上り、その要求額は合計二十四億一千四百萬ルーブルに達する。

第四類は大戰中に聯合軍應援のために、フランスおよびバルガン戰線方面に派遣されたロシヤ軍人の要求である。

以上四類の對抗要求を合算すれば、總計四百億ルーブル以上になるとソヴイエト政府はいふ。ソヴイエト政府は、各國の對ソ要求に對抗して總計四百億留に上る損害賠償を要求してゐるのである。

木造家屋の火災溫度

全國都市問題會議事務局

▼この稿は東京帝國大學教授內田祥三氏の實驗報告によつた要旨である▲

一、目的　火災の際における溫度と、その高溫度の繼續時間に對する實驗は、歐米諸國ではしばしば試みられてゐて、殊にアメリカでは、多數の實驗の結果から、火災時における標準タイム・テムペレーチュアー・カーブを作製し、これによつて構造物の耐火度を定めてゐるが、家屋の性質や內容を異にしてゐる、日本の木造家屋に對しては、そのまゝこれを使ふことのできないのはもちろんで、わが國の木造家屋に適應した防火壁や防火戶、さらに進んでは金庫などの耐火度を定むる標準を得たいために、木造家屋を實際に燃やしてみて、火災時の溫度とその繼續時間とを測定するために、この實驗を行つた。なほ、この實驗に附隨して延燒の速度、輻射熱の分布、風向の變化などをも同時に調査することゝした。

二、實驗の時、場所、家屋等　第一回は昭和八年八月二十八日、東京帝國大學構內運動場において試みたもので、燃燒家屋は木造平家建約十坪のバラック造、第二回も同所で昭和九年八月二十五日に實驗したのである。木造平屋二戶建約十八坪のものと、同一戶建約十坪のものとを三メートルの距離に置いて、二戶建の方の一部にローソクで點火し、全部を燒却した。

第一回の場合には、普通住宅內にある家財道具に相當する熱容量を有する木片、紙片等を容れて

第2495号　付録

第2495号 付録

燃やしたが、第二回は疊、古綿、ボロ、紙類などほゞ實際に近い物を、それ〴〵適當の場所に收めて燃燒せしめた。

第一回、第二回とも實驗當日は極めて穩やかな天候で、強い風は吹かず微風の狀態、殊に第二回は無風といつてよい位であつた。

三、最高溫度　第一回の時は1,130°c. 第二回の二戸建の方は1,217°c で、一戸建の方は1,120°c で木造家屋が周圍吹きさらしで空氣の供給が充分であると、金、銀、銅はもちろん、鑄鐵をもとかす溫度に達する。

四、最高溫度に達する位置　溫度を測つたサーモ・カップルは第一回の時は十箇、第二回には二十箇を床上、天井裏、室の高さ中程、押入の中等各所に配置したが、第一回の時には室の上部ほど高溫度に達し、第二回の時には最上部天井裏のものが、最高に達したのは第一回の時と同樣であつたが、その他の位置では必ずしも統一した結果は得られなかつた。とにかく、木造の平家建が燒ける場合には、小屋裏の邊が最高溫度に達するものと考へてよからう。

五、最高溫度に達する時間　發火後の溫度の昇り方は、四圍から空氣の侵入容易な木造家屋では、非常に急激なもので、點火後第一回のものは六、七分乃至七、八分。第二回の二戸建のものは東側の分八、九分、西側は十二、三分、同一戸建のものは五、六分で最高溫度に達した。この時間の異なるのは、點火の狀態が異つたからであつて、天井に引火してから一、二分で溫度は急騰し初め、僅時にして最高溫度に達する。火勢が整つてから最高溫度に達する時間は、先づ五、六分と考へてよからう。

六、高溫度の繼續時間　外壁が燒け落ちると溫度は急激に降り初める。床上附近は家が燒け落ちても、燃えさしが集積してゐるため300――400°c の溫度を數十分間持續するが、1000°c 以上の溫度が持續する時間は極めて短かく、場所にもよるが、一、二分から四分位まで、800°c 以上の溫度が持續するのも五、六分位のものである。

七、延燒の速度　二戸建の長家の一間襖に點火した火は、襖を這ひ上つて天井板に移り、小屋裏を傳はつて壁で仕切られた隣家に移つたが、この間約四分、三メートルの間隔を置いて向ひ合せになつてゐた一戸建に火の移つたのは、點火後十七、八分であつた。

風が極めて弱かつたため、初めに燒けた家の炎は向ひ側の家に達せず、或は燃え移らないのではないかと思はれたが、燒けつゝある家に正面してゐた下見板の溫度が漸次に高まり、終に發火溫度に達して燃え初めたので、これは全く輻射熱の結果であつた。

延燒の距離の關係を調べるために、建物の周圍には約二メートルづつの間隔を置いて、一間乃至二間の高さに試驗板一〇〇餘を配して、板の焦げ具合を測つたが、三メートル以內のものは殆んど確實に引火し、四メートルの距離では風下のものは燃え、風上の板は黑く焦げた、八メートルのものは板がすこしく色つく程度であつた。

本試驗施行時の如き微風の狀態では、十メートル離るれば先づ引火の危險はないといつてよいやうである。しかし風があればもつと離れても危險なことは當然である。

八、風の變化　火災が起ると風は幾分強くなる。しかして盛んに燃えてゐる時は、風下の方でも附近の空氣は燒けてゐる家の方に引かれる傾向を生ずる。第二回の實驗の際西側の方では空氣に渦卷數箇を發見した。これで見ても大火になれば、強風が起り大旋風を生ずるのは當然である。

九、結　言　本實驗は木造平屋建三棟に對するものに過ぎないから、これだけのことから結論をつける譯には行かないが、大體において、木造家屋が燃える時は、燃え揃がつてから僅か五分位で、1,000°c を超える高溫に達するが、その高度を持續する時間は極めて短く、800°c 以上が五、六分位のやうである。

しかして、これは四方から自由に空氣が供給される場合であつて、防火壁でもあればその部分では、空氣の流れを遮斷するから、その附近では溫度は幾分下るのであらう。

木造家屋に用ふる防火壁、防火戸の如きものゝ構造は、「五分で1,000°c に達し、十分間高溫に堪え、さらに注水による急冷に抵抗し得るものであれば、先づその目的は達し得るのではなからうか。なほ、床の附近はその後300―400°c の溫度が、數十分間續くから防火壁や防火戸の下方また床上に置く金庫などは、上記の外さらにその溫度に耐える必要がある。

他日機會を得て木造二階建の家屋について、同じ樣に實驗することができれば、さらに進んだ結論が得られることゝ思ふ。

最近官廳刊行圖書抄報

左記は各官廳近刊圖書中當局へ到著分の一部

◉昭和十年太陽位置表　日本航空輸送會社發賣（東京、芝區田村町）	海軍水路部	八五錢（送料六錢）
◉東北帝國大學理科報告　生物學　第九卷第四號　丸善書店發賣（東京、日本橋區通二丁目）	東北帝國大學	二圓（送料二二錢）
◉昭和七年度全國器械製絲工場調　農業と水產社發賣（東京、芝區田村町）	農林省	五圓（送料一六錢）
◉海外渡航手續案內	外務省	
◉第一〇回警察統計報告	內務省	
◉山村經濟實態調査第一號　山本郡藤琴村經濟實態調査	秋田營林局	
◉國產振興委員會諮問第四號及第五號答申品目	商工省	
◉海外郵便事情　第一號	遞信省	
◉連帶會社線內貨物特定賃率表	鐵道省	
◉朝鮮の產業	朝鮮總督府	
◉棉作改良稧と婦人棉作振興が農村更生に及ぼしたる事例	朝鮮慶尙南道	
◉精神衞生叢書第一編　精神病の話	臺灣總督府養神院	
◉昭和九年度地方費財政概要	北海道廳	
◉昭和八年東京府會社要覽	東京府	
◉主要工業概況調査	兵庫縣	
◉昭和九年長崎縣米統計	長崎縣	
◉昭和八年新潟縣統計書	新潟縣	
◉昭和九年埼玉縣工場通覽	埼玉縣	
◉昭和八年肥料統計書	三重縣	
◉昭和九年愛知縣の鷄	愛知縣	
◉靜岡縣兒童養護所概況	靜岡縣	
◉昭和九年滋賀縣教育要覽	滋賀縣	
◉昭和九年養蠶統計	長野縣	
◉福島縣々勢要覽	福島縣	

なほ、官廳刊行圖書の全部及び、その內容等についての詳細は當局發賣の「官廳刊行圖書目錄」に登載されてゐる。因に、同書第三十二號（昭和九年十月より十二月迄の分）は去る四月十七日より發賣されてゐる。

◆前週の官報に◆

◉採鑛獎勵金交付規則（商工省令）	二二
◉入學許可　東京高等農林學校、富山藥學專門學校、福井高等工業學校、京城法學專門學校、京城高等商業學校、府立高等學校（彙報）	二二
◉二月の十三都市賃銀概況（同）	二二
◉昭和十年度朝鮮辯護士試驗（廣告）	二二
◉入學許可　第二、佐賀兩高等學校、熊本高等工業學校、函館高等水產學校、旅順工科大學（彙報）	二三
◉貴族院子爵議員一名補闕選擧（詔書）	二四
◉關東州公立學校官制中改正、關東州および南滿洲鐵道附屬地に於ける青年學校に關する件、南洋廳部內臨時職員設置制中および南洋廳郵便局官制中改正（勅令）	二四
◉入學許可　東京帝國大學法學部（彙報）	二四
◉同上　同文學部（同）	二五
◉滿洲國に於ける外國價格表記書狀および箱物、外國別配達郵便物竝に外國代金引換通常郵便物を取扱ふ郵便局名（遞信省告示）	二六
◉三月中の外國貿易概表（彙報）	二六
◉朝鮮總督府遞信官署官制中および同營林署官制中改正（勅令）	二七
◉入學許可　北海道帝國大學豫科、各實科、附屬土木專門部（彙報）	二七
◉三月三十一日現在預金部狀況（同）	二七